

平成4年度

NO. 38 部報

北 萌



北大馬術部

馬術部賛歌

滝沢南海雄君作曲

♩ 80

はるきたれば だいちはかーる、

しろがねのえんさん ゆめほうぼうたり、

たからかに いまぞいな、われ

らしゅんめのほまれあり。

あるかぎり、ほくだいほくだい、お

おわがほこう、われらしゅんめのほまれあり。

馬術部賛歌

(昭和三十五年頃)

三浦清一郎君 作歌

一

春来たれば 大地光る
銀の遠山 夢花々たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

二

時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

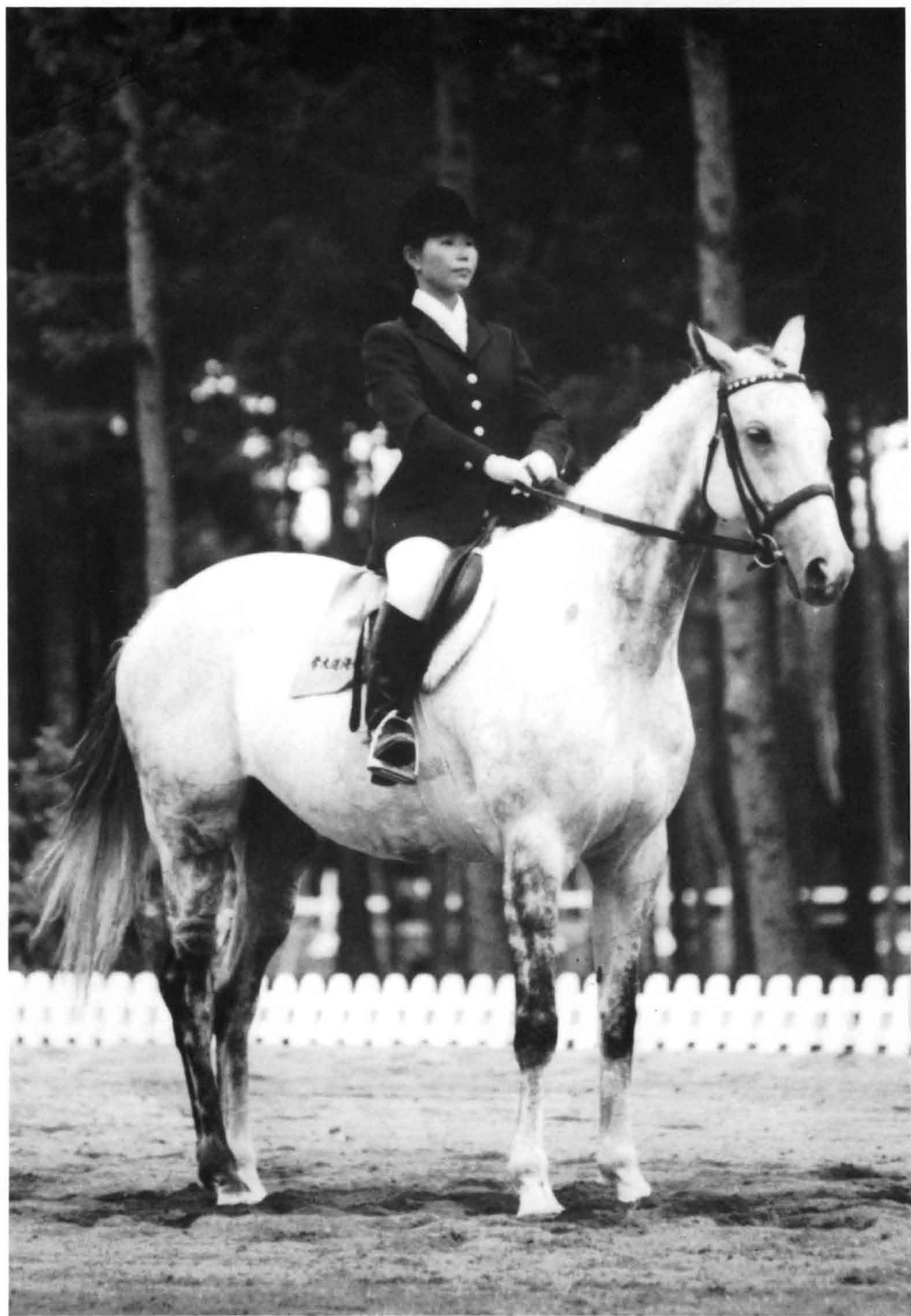
三

雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のはまれあるかぎり

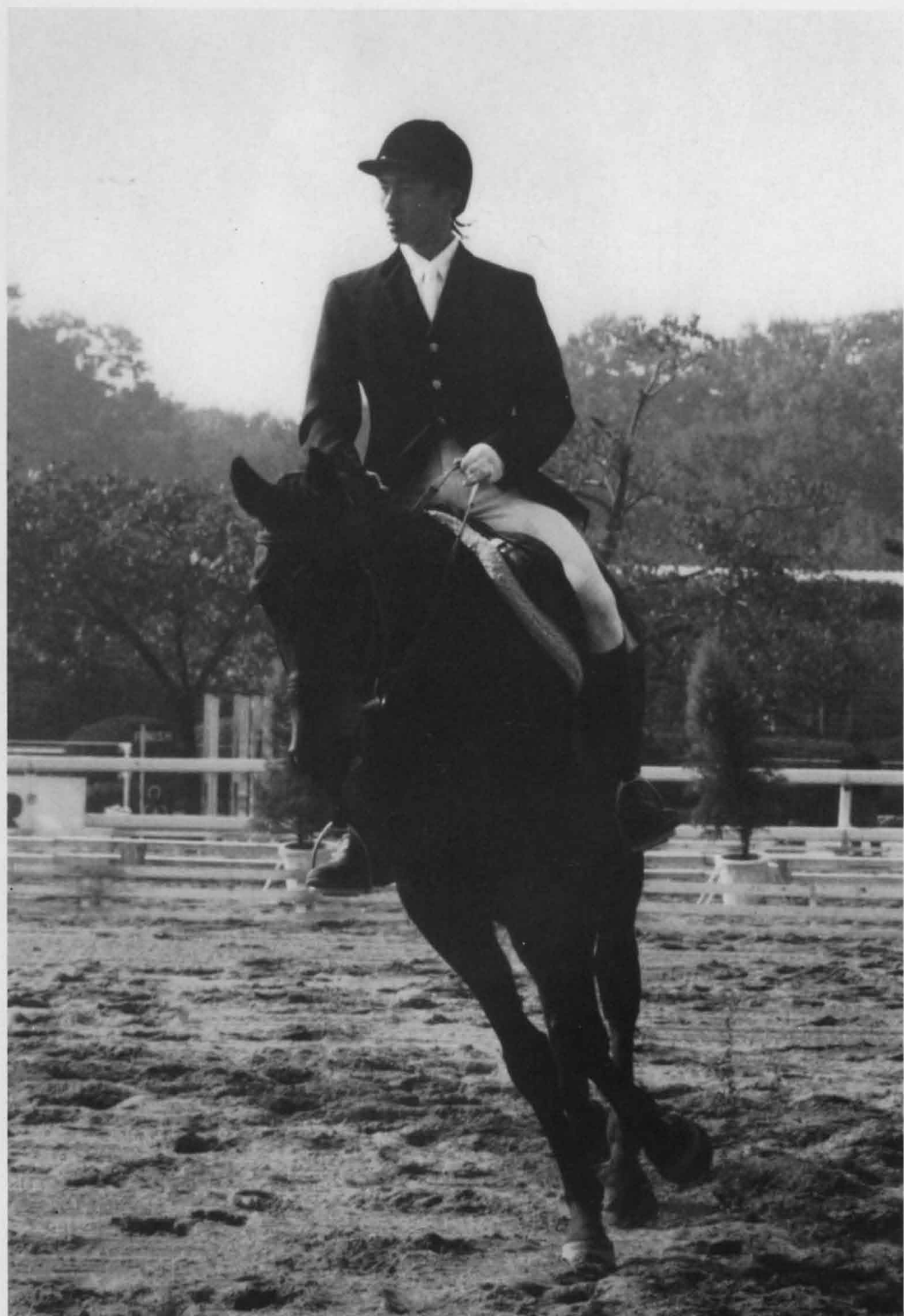
北大！ 北大！ お、我が母校
われら駿馬のはまれあり



・永田兄と北皇子号



・飯田姉と北凜号



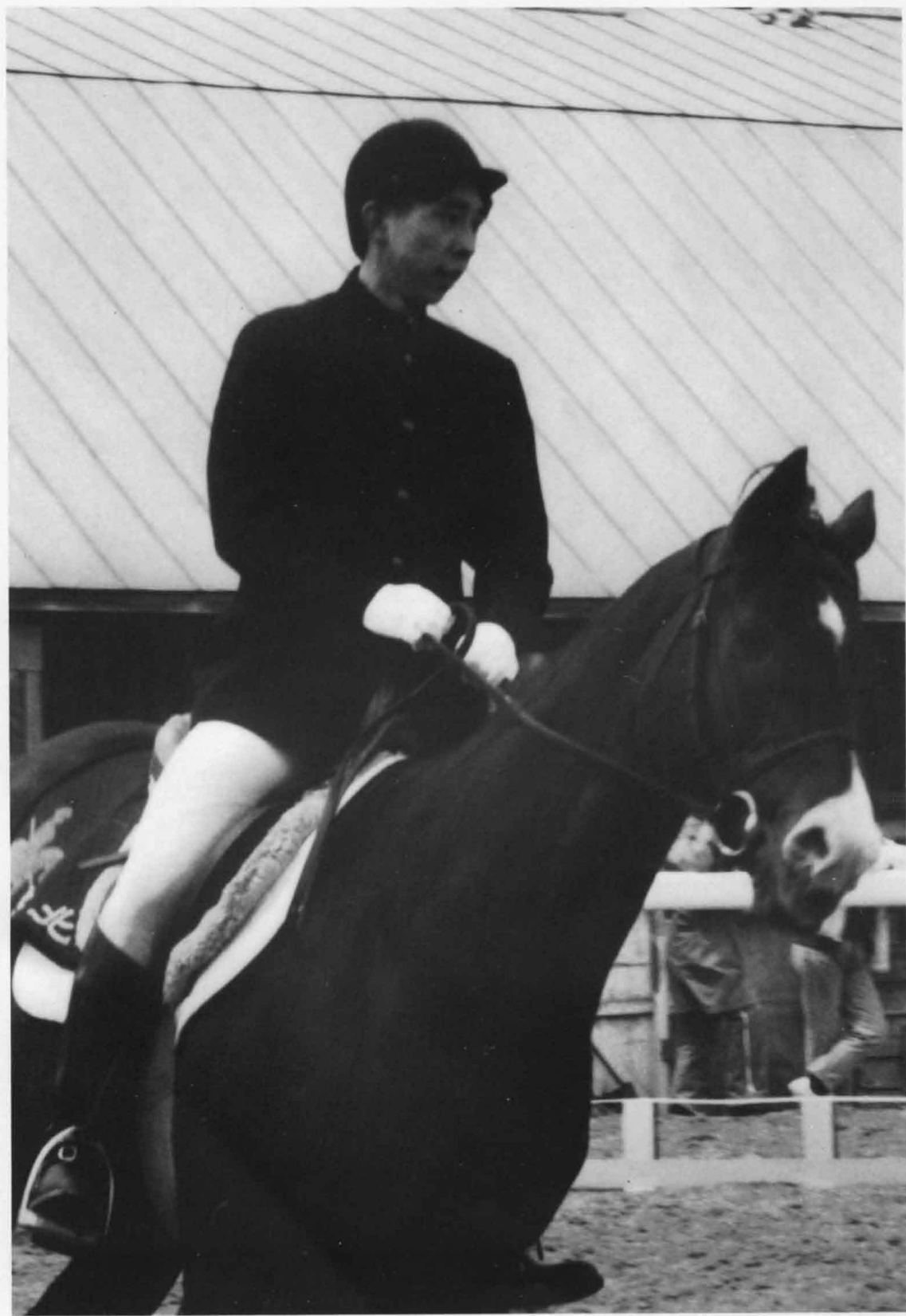
・祝前兄と北駿号



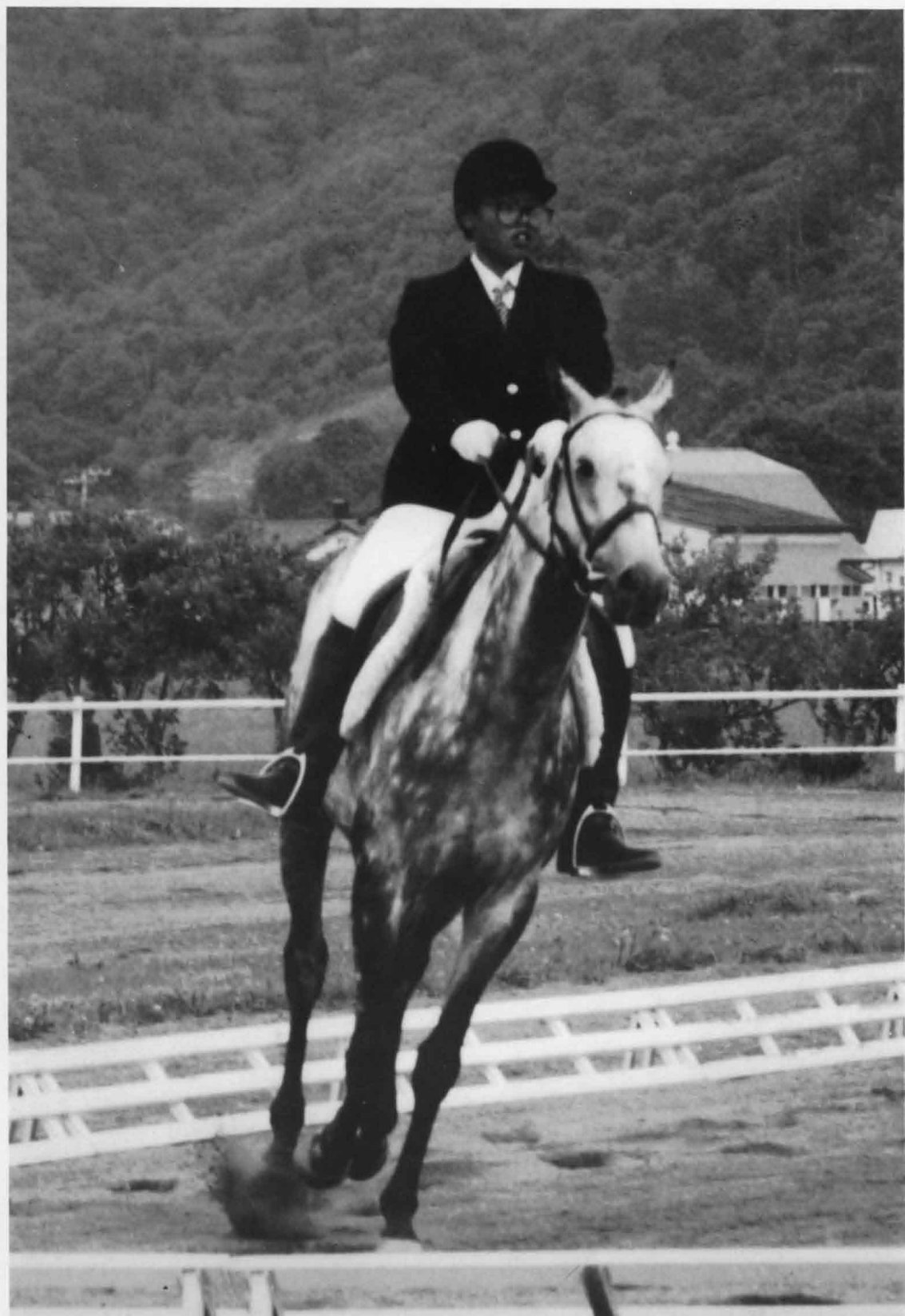
・池田兄とグレンエトワール号



・横幕兄とファストバロン号



・徳本兄とリンドクラウン号



・奥村姉と北瑛号



・北日学出発の朝 全員集合！

目 次

大勅の味・	・ 斎藤 善一・	1
生涯馬術・	・ 岡田 光夫・	2
前主将より・	・ 永田 修・	3
現在のクラブ状況・		4
会計報告・		7
行事報告・		8
戦績報告・		11
北水活動報告・	・ 徳本 龍志・	25
《調教報告・馬匹紹介》		
北皇子号・	・ 永田 修・	30
北 銀号・	・ 八木 聡・	32
北 玲号・	・ 岡部 靖子・	34
北 駿号・	・ 祝前 伸光・	39
北 瑛号・		41
グレンエトワール号・	・ 池田 直弥・	42
バシオン・M号・		45
明日槍号・		46
ファストバロン号・	・ 横幕 宏幸・	47
北 遥号・	・ 横山 勉・	52
《新馬紹介》		
ハギノレジェンド号・	・ 松原 貴史・	55
北 鷺号・	・ 西村 雅夫・	56
《離厩報告》		
北 凜号・	・ 飯田 雅代・	57
北 熊号・	・ 祝前 伸光・	59
アブサロム号・	・ 荒瀬 匡宗・	62
新飼料庫建築報告・		63
東京OB会便り・		64
50歳からのカムバック・	・ 近藤 喜十郎・	66
卒部にあって・		68
自己紹介・他己紹介・		74
OB名簿・		89
現役部員名簿・		100

大 勒 の 味

部長 斎藤 善一

多くの方々のご支援と部員諸君の努力により部の運営も順調に経過し、今回は大きな事故を報告することもないのは幸いです。

特筆すべきことは、厩舎に付属していた飼料庫兼物置が新築されたことです。北大馬術同好会会員として長い間馬術部を後援しておられた佐合義弘氏が私財を投じて新築して下さいました。佐合さんとは、北大に自馬が入ったところからのお付き合いですが、此の度寄贈を申し込まれた時には驚きました。御蔭様で、倒壊寸前と思われた建物がが全く新しくなり、本当に有り難いことです。

さて、表題に戻ります。昔から「ハミを味わう」という表現があります。馬と騎手の間の、手綱を通したコンタクトが良好で、馬が口の中のハミを楽しんでいるような状態をいいます。しかし、ここで述べるのはそれとは関係がなく、久し振りで大勒で騎乗したときの感激です。

去年8月に国際酪農連盟のシンポジウムに出席するためミュンヘン市を訪れて一週間滞在した折に乗馬の機会がありました。訪問した某乳業会社の社長さんは五十歳前後と思われる元気のいいかたでしたが、自馬を一頭持っていて、その馬に乗せてもらうことになりました。乗馬靴から手袋まで借り物であったが本当に楽しい一時を過ごすことができました。社長がK a n d a r e（大勒）で乗るかT r e n s e がよいかというので、K a n d a r eを希望したところ、大丈夫かなという表情であったので同席した方々に大勒の効用と使用上の注意をひとくさり講釈したところ、社長も安心したようでした。馬の話になると言葉がよく通じるのもおもしろいものです。トラケーネン牧場産という鹿毛の大柄な美しい馬でした。こわれた柵や溝で区切られた100×30m位の草原で、後肢は装蹄していないので急旋回を避けるようにと注意を受けて一時間位騎乗したのですが、大勒の使い方によって、頭、頸の姿勢を保持し、良い運動ができたと思いました。私は、いつも大勒を装着した馬に乗せてもらっていたのですが、弘前大学に赴任して以来二十数年振りに大勒に出会ったように思います。その味わいは忘れ難いものでした。

北大馬術部が戦後初めて自馬をもった頃、後に5代部長になられた松本久喜先生が部班運動を御覧になっていて、大勒をつけることを勧められたのですが、当時は大勒が一組しかありませんでした。その後次第に整備され多くの馬が大勒をつけて馬場馬術は勿論、障害飛越もおこなうようになりました。近頃は大勒はあまり使われていないようです。大勒は馬の前進氣勢を押さえるから、と聞きましたが、それは大勒のせいというよりか使い方の問題でありましょう。馬により、あるいは調教の程度によりいろいろですから、大勒に固執する訳ではありませんが、もし、大勒など使うものではないという傾向にあるとすれば、考えるべきことかと思います。数年前に、馬事公苑で馬場馬術の練習を指導していた山崎課長（当時）が、「水勒だけですべての運動科目をこなせるようにする」と言っておられたが、これも一つの考え方でありましょう。

近頃は大勒を装着した馬を見ることが少なくなったのを淋しく思っていたので、ミュンヘンでの騎乗は特に印象深かったのかも知れません。

生涯馬術

岡田 光夫

今年の正月に日本社会人団体馬術連盟から年賀状を戴いた。文面の中に「本年も生涯馬術を目指して頑張ります。」と書かれてあって、この生涯馬術という言葉に非常に感銘を受けた。日本社会人馬術連盟は、昭和24年発足、現在50の企業団体・官公署の団体から成り立っていて、かつては札幌乗馬倶楽部も加盟していたが現在はJ R一本で統一されているとの事である。昨年9月5日6日に苫小牧近郊のノーザンホースパークで社会人馬術連盟主催の第7回国際馬術大会が開かれ香港・ニュージーランド・オーストラリアから4～6名の選手が集まって覇を争った。開催地元として北海道からも1チーム出してくれと要請を受け俱に戦ったが何分選手は馬持参と云う事もあって選抜するどころかお願いしてやっと人馬を揃える有り様であったが、国際大会と云う事で大きな刺激になった事と思う。

学生時代には馬術一途にはげんできた人が一旦社会人になると、環境のせいもあるが馬とは離れて行く。表題の生涯馬術にはげんでいる人は九牛の一毛にすぎない。付き合いの上でゴルフも仕方ないと思うが、せめて学生時代馬にのめり込んだ事をたまには思い出してほしい。

我々の大先輩半澤先生は今年83歳になられたが、80歳までは早朝馬術部の馬場にお見えになり調教にはげんで居られた。本道馬術界の大久保彦左衛門的存在の庄内さんも、今年78歳になったが毎週2・3度は乗馬にはげんでいる全国でも希少な現役である。

ところで我が北大OBの皆さんの中にも帯広の高野君、札幌の松井君、斎藤君と長屋君は自馬を繋養して熱心に調教して試合にもどんどん出ているのは心強い限りである。かく云う私も一頭の馬を持ち、夫婦で乗っているが体力と経済が許せば？もう一頭ほしいと思っているが、この2つとも満たせないでいる。

この2・3年、東京OB会の堀川君が中心となり同期の方々に働きかけて下さったお陰で急速に乗馬熱が高まり、半澤杯、秋のOB戦には遠く名古屋から近藤君、東京からは堀川君、野田君が馳せ参じて後輩に良い刺激を与えて下さっている。今札幌の近郊の広島町に住む福岡君はこの大会にヒョッコリ出てきてし級障害で優勝をかさらい後輩を啞然とさせているが、このことは一度身体が覚えた馬乗りの術は決して忘れないものであることを示している。さあ、馬に対する情熱が燃え上がったら、長靴がない、ズボンがないなどと云わずに 先ず実行に移していただきたい。北大OBの生涯馬術家を目指して。

最後に、本州各地に散らばっている昔の馬狂気の人々の情報を、部の方にお知らせください。そしてお互いに青春時代を思い出し、第2の馬術人生を楽しもうではありませんか。

前主将より

これまで色々と御面倒をおかけし、又、いつも励ましの言葉をお掛け下さった岡田監督、並びに斎藤部長に感謝を申し上げると共に、その言葉に応える結果を取めることが出来なかったことに対し、全主将として御詫び申し上げます。厚かましい様ですがこれからも後輩達の公私にわたる御指導の程よろしくお願い致します。又、最上級生として部を運営するにあたり道内、特に札幌近郊の馬術関係者の方々には大変御世話になりこの場をかりて厚く御礼申し上げます。更に、OB、OGの皆様には試合前に手紙を頂いたり、差し入れを頂戴したりと、色々と気を使って頂き有り難うございました。特に、東京OB会の方々には、金銭面での援助を賜り、一頭でも多く馬事公苑に連れて行くことが何よりのお礼になると思っていたのですが御期待にそう事ができず申し訳なく思っています。

後輩へ

皆、それぞれの立場で、それぞれの力を振り絞って頑張ってると思うけど勝たなあかんってゆう簡単な目的なんやから、留年する暇があったら北大生の頭のええとこみせな。東京に私立の大学よりは少なからずとも偏差値は勝つとるねんからそこをふる活用せんと。そおでないと俺らとおんなじになるよ。

それと、俺が、私が絶対上手くなって東京行って勝負してやると、自分が上手かろうが、

下手っぴで『お前なんか馬乗るのに向いてない』といわれようが、思わなあかんで。もし、そう思っていない方がおられましたら早いうちにまっとうな世界に戻られることをお勧めします。だって、馬乗る事以外にも面白い事や、やらなあかんことがようけありそうやもんな。

というわけで、皆さんがこの文を――あの永田がキーボードたたいてる姿を想像しながら――遺言だと思ってがんばってくれば成仏できます。

1993年 冬

現在のクラブ状況

〈主将から〉

八木 聡

現在、馬12頭、部員36名で活動しています。本来なら「常勝北大」「全日学団体優勝」をスローガンに頑張っていますと報告すべきところですが、とてもそういったレベルではありません。

学生馬術全体を見渡すと、やはり高校生をスカウトしている大学の方が断然の強を見せています。こういった大学に、うちの大学は何が劣っているか考えると、まず第一に馬に対する基本的な知識不足です。馬について根本的に分かっていないと思います。そして次に考えられるのが、基本的な土台がないまま小手先の技術に溺れているということです。そして何よりも、馬に対する、馬術に対する厳しさが足りないと思います。

大学の体育会のクラブである以上、楽しいだけでなく、勝つことが課せられていると思います。勝つためには何をなすべきか、もう一度基本に立ち返り全日学に行った馬がコンスタントに東京へ行けるように努力して行きたいと考えています。

先輩方が北大の馬場まで足を運んで頂けることを、現役一同お待ち申し上げております。

〈副将から〉

岡部 靖子

今年の全日学も終わり、今は来年の全日学に向かって一日一日と日数がカウントされている。そう思えば、一日として無駄にはできない、と思う次第である。やるべきことは沢山あるのだ。その中で手入れや当番はもちろん、作業やアルバイトだって、すべては自分たちの好きな馬のため――馬たちが気持ち良く生活し、良好な精神状態を保ってられるようにするため――だということを常に部員全員が忘れてはならない。自分のついている馬はかわいがられるけれども、あとの馬は、夕当手中入れをされないで放っておかれていても平気であるとか、自分の役職の仕事さえやっていれば他の人が困っていても手を貸さないとか（気付かないというのは、もっと問題であるが）、そういう人が一人でもいたら私達の目標達成には程遠い。副将としてすべきことは、勝てる人馬をつくるための具体的練習内容や方法を考えていくことだが、現状ではまだまだ部員の意志向上が必要だ。冬の時期を無駄に過ごさず、来シーズンが始まったとき、部員が一丸となって全日学に向かっている状態にする。そのためには、一人一人がもっと全馬に関心を持ち、一つ一つの行動をもっと良く考え、少しでも馬の為になると思ったら実行しなくてはならないし、責任を持って全馬に接していくことが必要だと思っている。

-----来年こそ団体を組んで東京へいくのだ-----

《馬匹から》

三浦 智子

10月9日、アブサロム号が旭川乗馬クラブに引き取ってもらえることになり、現在の馬の頭数は12頭です。健康上に問題のある馬としては、北皇子・明日檜が高齢のために運動管理も含めた馬体の維持が難しくなっています。北玲・北瑛については背中や腰の痛みがほぼ慢性化しており、これも運動管理・馬体管理には気を使っています。パロンは右前肢にボルトを入れているため、跛行はすでに慢性化していますが、無理はきかないものの、徐々に安定してきております。

他の馬についても、どうしてもかかる負担が過多になってしまうために、肢・腰・肩などについて多かれ少なかれ問題をもっています。しかし、学生という立場上、限られた時間・未熟な技術のためにこのようになってしまうことは避けられないことで、そのために馬体管理がますます重要になってきます。私の目が12頭の馬たちすべてに行き届けば問題はないのですが、それは不可能に近いです。そのため、もちろん部員一人一人が、責任を分担するという形で各馬の管理をすることも必要ですし、同時に全員が全馬を見ることも重要であると考えています。また、もっと外に目を向けて、他大学や他団体ではどのように馬を管理しているか、馬とは本来どういう動物であるのか、ということも考えて、より良い環境を作っていくべきだと思います。

来シーズン、馬と人がベストな状態で、ベストな関係で競技に臨めるよう、努力していくつもりです。

《主務から》

船越 実和子

9月から主務を担当しています。仕事は対外的かつ事務的なことがほとんどですが、量的に膨大であり、何かに偏重して一方がズサンになる。また重大なミスをするなどのことがないように、一人で仕事を抱え込まず、できるだけ副将や副務、その他の部員の協力を得て行い、主務は中枢としているよう心掛けています。仕事は誠実に、綿密に、迅速にと考えておりますが、努力が足りず各方面の方にご迷惑をおかけしています。これからもよりよい運営をめざしていきますのでお気付きの点などございましたら、ご指導下さるようお願い致します。以下具体的に状況を書いていきます。

◎学生部関係

最近数年間の主務の方の努力で現在はかなり良好な関係であると言えます。今年度の援助で大きなものとしては水洗トイレの設置、馬場馬術用柵の購入、きゅう舎入り口と部室入り口の扉の改設、などが挙げられます。更に毎年石炭・飼料の援助、小型除雪機の借用、厩舎の備品の援助などがあります。また、後述しますが今冬はじめに行った飼料庫改築の件についても認可をいただきました。繰り返しになりますが、これらのことは代々の主務の努力が実ったものです。今後もさらなる便宜をはかってもらえるよう、副務ともども努力したいと思います。

◎アルバイト

基本的に、夏季の開催期の競馬場、モモセ、長岡さんや中曾根さんなどの牧場、冬季の朝日新聞社、一年を通して毎週末の競馬場乗馬きゅう、を柱にしてやっていく予定ですが、最近の傾向で競技会の使役のバイトも大きな収入になるので組み入れていきます。その他のバイトは部員の負担を必要以上に増やさないために、できるだけいれないようにしていく考えです。

◎道馬連関係・競技会運営

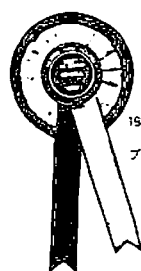
毎年主務が中心となって行ってきましたが、今年は主務の仕事の繁雑さをなくすため副将に大部分を任せて、最小限の事務をしていくことにしました。外務・部内ともに連絡を密にとることがすれ違いなく仕事を進める一番の方法だと思います。

◎後援会関係

引き継ぎが遅れ滞った業務も多くOBの方にはいろいろとご迷惑をおかけしました。仕事の整理もつきましたのでこれからはどんどん進めていけることと思います。

92年の12月には特別後援会員の佐合さんに多額の費用を全面的に援助していただいて飼料庫の改築が完了しました。馬の調教をひきうけてくださる、飼料援助をしてくださる、獣医として馬を診てくださる、遠方より励ましのお手紙をくださる、など様々な形でのご支援をいただいて、本当にOBの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

こうした直接・間接のご支援を勝利に結びつけていくことが、一番の役目だと考えています。現役とOBの方々との対話を多く持ちたい、そのために近況など折にふれ報告していきたいと思しますので、一層のご参加とご協力をお願いします。

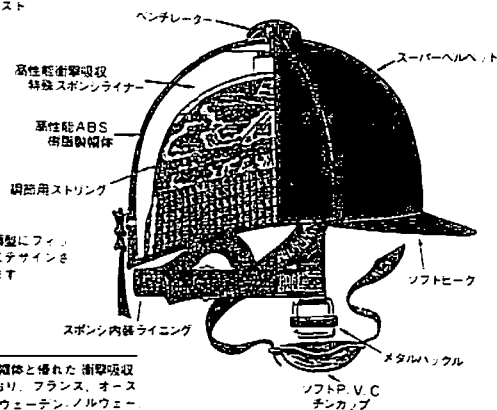


ウエンブレワールドカップ

Wembley
THE WORLD APPROVED SAFETY CAP

¥16,000

・日本人の頭型にフィットする様にデザインされております



世界に駆ける…ウエンブレ

WEMBLEY WORLD CAP は高性能ABS 樹脂帽体と優れた衝撃吸収機能を持つ特殊スポンジライナーを使用しており、フランス、オーストラリア、アメリカ、イギリス、西ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、すべての安全基準テストに合格した、世界唯一のライティングヘルメットです。



国内総販売元

カバロ株式会社

〒651 神戸市中央区磯上通6丁目1-17
TEL: (078) 251-6620
〒530 大阪市北区梅田1丁目2番2-200号
TEL: (06) 344-0070
〒158 東京都世田谷区上月賀2丁目3-1106
TEL: (03) 425-8844

「確かさの証明」

会計報告 平成4年1月～12月

〈収入〉

	小 計	計
集 金	1,407,480	1,407,480
ア朝日新聞社	880,800	5,380,841
ルモモセ	394,360	
バJ R A 開催	2,316,071	
イJ R A 乗馬厩	360,000	
トそ の 他	1,429,610	1,620,173
補学 馬 連	1,453,200	
後 援 会	98,550	
助体育会・学生部	68,423	1,185,046
半 澤 杯	289,930	
企公 認	591,116	
馬場選手権	191,340	
画新 歓	32,660	
そ の 他	80,000	100,000
寄 付	100,000	
利 子	35,424	
そ の 他	422,976	422,976
合 計	10,151,940	

〈支出〉

	計
飼 料	1,652,672
装 蹄	1,946,145
薬 品	410,861
作 業	120,448
後 援 会	128,356
馬 具	247,209
文 化	158,286
電 話	245,322
遠 征	1,118,460
ガ ソ リ ン	361,939
高 速	216,260
車 輻	832,849
登 録	340,000
事 務	39,956
雑 費	57,530
立 て 替 え	1,222,848
そ の 他	515,278
合 計	9,614,419

平成5年 1月31日

会計 荒瀬 匡宗

平成4年度 行事報告

4 月

- 5日 七帝戦
- 15～19日 馬術講習会
- 初めてのコンパの迫力に・・・

5 月

- 4日 第20回半澤杯記念馬術大会
(於 北大)
- 私はこれで入部しました。



- 15日 寮歌祭
- ♪タンネの氷柱消ゆる頃～♪
- 17日 四大学定期戦 (於 酪農学園大学)
- 祝前兄、飯田姉、そろって優勝!!
- 29日 新歓コンパ
- 初めての正装コンパ
- 『やればできるじゃん!』



- 10日 北日本学生馬術選手権大会
(於 北里大学)
- 5～10日 前半合宿
- 12～17日 後半合宿

きみもぼじゅつぶにはまる

『君も馬術部員になれる。』

・・・見事にハマった。



6 月

- 4～7日 教養祭
- 「ジンギスカンを食べて馬に乗ろう!」
- 12日 ハギノレジェンド入厩
- このころはそんなにフレイメンは
してなかったよね、みぞty.
- 13・14日 第27回北海道自馬馬術
大会 (於 N. H. P.)
- 23日 北鷺入厩
- 馬房の中に水をまいて田んぼにしちゃった

7月

3～5日 ヤマハホースSHOW

18・19日 北海道地区馬術大会

(於 N. H. P.)

名言『これはセミでしゅ〜』

26日 お返しコンパ

1年目総つぶれ。

りまこ、靴が見つかってよかったね♥



8月

6～10日 第28回北日本学生馬術大会

(於 帯畜大)

チアフル、ペー、権利獲得!!

重戦車部隊、華々しくデビュー🎉

15・16日 第39回北海道馬術大会

(於 帯畜大)

18～23日 日高合宿

トレッキング最高!!

駈歩1分の走路もペンキ塗りは3日。

29・30日 障害選手権大会



9月

1日 北鯨号離厩

あとずさりしてもニンジンはい食べれないんだよ。

11・12日 東日本馬術大会

13日 オーマイホースフェスティバル

(於 軽種馬協会)

1年目、初試合。



17日 北鯨号離厩

モモセで元気だね。

19日 役員交代コンパ

10月

9日 アブサロム号離厩

クマとなかよくね。

18日 山下杯 (於 酪農大)

「え、厩舎に忘れ物?・・・(泣)」



25日 OB対抗戦

どしゃぶりの中でのジンギスカンは
・・・寒かった・・・

11月

11～15日 全日本学生馬術大会

(於 馬事公苑)

チアフル、ペー、お疲れ様。

『うおりゃああ〜!』

八丸さんファン急増♥



21・22日 F. M. C.

一度はいると止まらない

真夜中のストーム・・・

12月

6日 卓球大会

16日 忘年会

19・20日 L. A.

25～30日 冬合宿(前半)

『かあちゃん、お茶〜☺』



1月

2日 初乗り

あのテレビ局は一体・・・?

2～7日 冬合宿(後半)

雪上サッカー、ほちゃが走る!

31日 馬術講習会



2月

6日 雪祭り外乗

「雪像いくつ覚えてる?」

26日 追コン

4年間お疲れさまでした。

3月

28日 東北大対抗戦(於 東北大)

戦績報告

◆対東北大学定期戦（於北大 3月29日）

使用馬匹 グレンエトワール 北銀 北熊

出場選手 松原 黒崎 城座

優勝：東北大学 準優勝：北海道大学

最優秀選手 城座

◆旧国立七大学定期戦（於名古屋大学 4月5日）

出場選手 池田（4） 長谷川（3） 八木（3）

1位：名古屋大学 2位：京都大学 3位：東京大学 6位：北海道大学

◆第20回太秦杯・半沢杯・河田杯・小池杯記念馬術大会（於北大 5月4日）

〈総合馬術競技〉

1位	村 上	メジロクレイバン	北星RC
2位	田 渕	騾 泰 斗	酪農大
3位	祝 前	北 駿	北大(4)
5位	八 木	北 銀	北大(3)
8位	池 田	グレンエトワール	北大(4)
10位	長谷川	明 日 檜	北大(3)

〈第二課目馬場馬術競技〉

					得点率
1位	開 発	オ ス カ ー	メインフィールドズ		53.3%
2位	開 発	カットップイエロー	メインフィールドズ		52.5%
3位	八 巻	オサイチフォンテン	JRA札幌競馬場		51.5%
5位	飯 田	北 凜	北 大 (4)		50.8%
19位	荒 瀬	ア ブ サ ロ ム	北 大 (3)		46.0%
22位	祝 前	北 熊	北 大 (4)		44.4%
24位	佐土谷	北 瑛	北 大 (3)		43.2%
25位	徳 本	ク ラ ウ ン	北 水 (4)		42.8%
26位	牧 原	北 瑛	北 大 (2)		42.1%
30位	小 滝	北 凜	北 大 (2)		40.8%
34位	岡 部	北 玲	北 大 (3)		39.9%
35位	西 村	北 瑛	北 大 (2)		39.7%
36位	倉 本	ク ラ ウ ン	北 水 (3)		36.1%

JUMP OFF

《中障害飛越競技》

				減点	TIME	減点	TIME
1位	クリア・ハニウエル	リアルイージー	早田牧場	0	66.2	0	21"87
2位	クリア・ハニウエル	ザ・セナタ	早田牧場	0	69.2	0	23"13
3位	クリア・ハニウエル	ラストチャンス	早田牧場	0	67.0	0	23"70
4位	祝 前	北 駿	北大(4)	0	66.5	0	24"38
5位	長 谷 川	明 日 檜	北大(3)	0	69.4	0	24"41
10位	永 田	北 皇 子	北大(4)	-4	63.6		
11位	横 幕	パシオン M	北大(4)	-4	64.4		
12位	八 木	北 銀	北大(3)	-4	67.1		

《小障害飛越競技》

				減点	TIME
1位	佐 崎	リンカーン	オーフル	0	49"78
2位	宮 野	ヒロパピー	静内農業高校	0	49"28
3位	祝 前	北 熊	北大(4)	0	49"23
9位	永 田	北 熊	北大(4)	0	45"52
17位	岡 部	北 玲	北大(3)	0	37"27
24位	徳 本	クラウン	北大(4)	-4	44"59
35位	横 幕	ファストバロン	北大(4)	-10.25	63"02

《新人新馬障害飛越競技》

				減点	TIME
1位	大 林	リンカーン	オーフル	0	50"36
2位	早 田	ラストチャンス	早田牧場	0	50"30
3位	大 林	ドラゴンビュー	オーフル	0	49"30
4位	深 部	北 銀	北大(2)	0	49"27
17位	横 幕	ファストバロン	北大(4)	0	45"40
18位	前 田	北 遥	北大同好会	0	43"30
22位	野 田	北 駿	北大(2)	0	38"40
25位	三 浦	北 熊	北大(3)	0	35"50
42位	荒 瀬	アブサロム	北大(3)	-19.25	91"80
	飯 田	北 凜	北大(4)	失権	

◆北日本学生馬術選手権大会（於北里大学 5月10日）

使用馬匹 ウィンサムオー 雪翔

北大選手 祝前(4) 池田(4)

戦績 1位 祝 前 北 大

2位 角 村 岩 手 大

3位 竹之内 弘 前 大

(女子)

使用馬匹 イーストフェア サーネイティブ

北大選手 飯田(4) 岡部(3)

戦績 1位 飯田 北大
2位 細多 岩手大
3位 八田 酪農大
5位 岡部 北大

◆四大学定期戦(於酪農学園大学 5月17日)

使用馬匹 騾泰斗 騾王 騾鷹

北大選手 牧原 黒崎 松原

1位:帯広畜産大学 2位:酪農学園大学 3位:北海道大学

◆第6回北海道馬場馬術大会(於ノーザンホースパーク 5月23~24日)

《第二課目 成年》				得点率
1位	杉水流	ラウンドボール	N.H.P.	53.0%
2位	村上	インタースペシャル	北星RC	52.6%
3位	谷	ヒロバピー	北星RC	52.4%
4位	祝前	北 駿	北大(4)	51.4%
11位	深部	北 瑛	北大(2)	49.2%
15位	八木	北 銀	北大(3)	48.4%
16位	野田	北 駿	北大(2)	48.1%
19位	長谷川	明 日 檜	北大(3)	46.8%
21位	荒瀬	アブサロム	北大(3)	46.1%
22位	飯田	北 凜	北大(4)	46.0%
23位	池田	グレンエトワール	北大(4)	45.8%
24位	祝前	北 熊	北大(4)	45.6%
28位	佐土谷	北 瑛	北大(3)	44.2%
30位	三浦	北 凜	北大(3)	43.3%
31位	藤村	北 銀	北大(2)	42.9%
34位	岡部	北 玲	北大(3)	38.4%

◆第27回北海道自馬馬術大会(於ノーザンホースパーク 6月13~14日)

《馬場馬術競技第二課目》

(成年 一班)		得点率
1位	館谷 ノースメイト	モモセRF 57.3%
2位	堀井 ベイヤード	足寄RC 54.0%

3位	永井	アドニス	碧雲クラブ	52.5%
9位	佐土谷	北 瑛	北大(3)	46.8%
14位	長谷川	明日 檜	北大(3)	45.0%
18位	岡部	北 玲	北大(3)	38.6%
(成年 二班)				
1位	土井	ダイナアトランダム	N. H. P.	56.1%
2位	田伏	ジ ィ ー	モモセRF	54.6%
3位	増元	ア ブ サ ン	十勝柏友会	54.5%
8位	松原	北 瑛	北大(2)	47.2%
10位	荒瀬	ア ブ サ ロ ム	北大(3)	45.8%
12位	八木	北 銀	北大(3)	44.0%
18位	田中	北 瑛	北大(2)	38.2%

					JUMP OFF			
《標準障害飛越競技M級C》					減点	TIME	減点	TIME
1位	ヤン・カンドレ	グ ラ ニ ッ ト	N. H. P.	0	83"8	0	21"7	
2位	皇 山	レイノルビオ	日高KF	0	85"8	0	23"5	
3位	クレア・ハニウェル	リアル・イージー	早田牧場	0	79"3	0	24"7	
8位	祝 前	北 駿	北大(4)	0	78"2	-4	25"3	
10位	長 谷 川	明 日 檜	北大(3)	0	71"0	失権		
27位	永 田	北 皇 子	北大(4)	-8.75	99"1			
28位	池 田	グレンエトワール	北大(4)	-9.5	102"2			
	八 木	北 銀	北大(3)	失権				
	岡 部	北 玲	北大(3)	失権				

《標準障害飛越競技L級》(初心者 成年)

1位	藤村	北 銀	北大(2)
2位	杉水流	セイルオンシャダイ	N. H. P.
3位	中 川	ク ラ ビ ス	日高KF
4位	深 部	北 駿	北大(2)
8位	牧原	明日 檜	北大(2)
12位	三 浦	グレンエトワール	北大(3)

《スピードアンドハンディネス競技C》				減点	TIME
1位	クレア・ハニウェル	リアルイージー	早田牧場	0	60"12.
2位	土 井	フェニックス	N. H. P.	0	60"92
3位	白 井	ラ レ イ	日高KF	0	61"14
5位	長谷川	明日 檜	北大(3)	0	59"88

1 2位	祝 前 北	駿 北大(4)	0	73"79
	八 木 北	銀 北大(3)	失権	

JUMP OFF

《標準障害飛越競技M級B》				減点	TIME	減点	TIME
1位	ヤン・カンレ	グラニット	N. H. P.	0	100"1	-3	39"77
2位	白 井	ラ レ イ	日高KF	0	101"9	-3	45"72
3位	白 井	ミ ド ラ	日高KF	0	102"5	-4	33"09
4位	長谷川	明 日 檜	北大(3)	-3	100"0		
6位	祝 前	北 駿	北大(4)	-8	99"24		

《障害飛越競技L級 S & H》

(成年)				TIME
1位	斎 藤	リアルイージー	早田牧場	55"49
2位	伊 藤	ダ ニ ー	N. H. P.	57"74
3位	伊 藤	モ チ ョ ボ ス	N. H. P.	59"01
1 1位	池 田	グレンエトワール	北大(4)	66"65
2 4位	池 田	北 黠	北大(4)	119"15
2 7位	祝 前	北 黠	北大(4)	179"54
(婦人)				
1位	村 上	チ ア ガ ー ル	北 星 R C	60"44
2位	竹 内	マ ド ン ナ	北 星 R C	63"92
3位	宮 野	カリスタヒーロー	静内農業高校	65"16
9位	岡 部	北 玲	北 大 (3)	110"83

◆全日本学生馬術選手権大会(於馬事公苑 7月3～5日)

出場選手 祝前(4) 飯田(4)

◆第17回北海道地区馬術大会(於ノーザンホースパーク 7月18～19日)

《馬場馬術競技第二課目》(成年)				TIME
1位	田 伏	ジ ィ ー	モモセRC	57"1
2位	千 島	ハミングダンス	JRA日高育成	56"4
3位	増 本	ホワイトキッド	十勝柏友会	55"7
9位	祝 前	北 駿	北 大 (4)	51"3
1 0位	長谷川	明 日 檜	北 大 (3)	50"8
1 2位	横 幕	北 銀	北 大 (3)	49"2
1 4位	飯 田	北 凜	北 大 (4)	47"3

19位	荒瀬	アブサロム	北大(3)	43"9
20位	岡部	北玲	北大(3)	42"9

《内国産馬障害飛越競技M級C》

				減点	TIME
1位	祝前	北駿	北大(4)	-1.25	86"48
2位	吉田	シベリアンテースト	N. H. P.	-1.75	88"10
3位	賀山	コジロウ	十勝柏友会	-4.00	76"71
5位	長谷川	明日檜	北大(3)	-7.00	81"37
OPEN	永田	北皇子	北大(4)	-12.00	78"88
OPEN	横幕	北銀	北大(4)	-4.00	71"98
OPEN	荒瀬	明日檜	北大(3)	-19.75	124"70

《障害飛越競技L級2段階》(成年)

				TIME
1位	伊藤	ベネファクター	N. H. P.	23"13
2位	土井	スーパージャック	N. H. P.	25"86
3位	杉水流	モチヨボス	N. H. P.	27"31
11位	岡部	北玲	北大(3)	31"76
	祝前	北銀	北大(4)	失権
	横幕	北銀	北大(4)	失権

《内国産馬スピードアンドハンディネス》

				TIME
1位	村上	メジロウィッカー	北星RC	67"70
2位	吉田	フェニックス	N. H. P.	70"54
3位	賀山	アブサン	十勝柏友会	72"11
7位	長谷川	明日檜	北大(3)	74"79
13位	祝前	北駿	北大(4)	87"25
15位	横幕	北銀	北大(4)	104"21

JUMP OFF

《内国産馬障害飛越選手権競技》

				減点	TIME	減点	TIME
1位	祝前	北駿	北大(4)	-1.25	86"48	0	48"39
2位	吉田	シベリアンテースト	N. H. P.	-1.75	88"10	-8	43"51
3位	村上	メジロウィッカー	北星RC	-4	76"71	-37	79"89
4位	横幕	北銀	北大(4)	-4	68"42		
5位	長谷川	明日檜	北大(3)	-4	72"69		

《障害飛越競技L級スピードアンドハンディネス》(成年)

				TIME
1位	土井	スーパージャック	N. H. P.	58"76

2位	伊藤	ベネファクター	N. H. P.	66"53
3位	増本	アブサン	十勝柏友会	68"58
11位	岡部	北玲	北大(3)	78"20
33位	永田	北耀	北大(4)	264"67
	祝前	北耀	北大(4)	失権

◆北日本学生馬術大会（於帯広畜産大学 8月6～10日）

					一走目	二走目	
《障害飛越競技（二回走行）》					減点	減点	総減点
1位	大村	騾	狼	酪農学園大	-4	0	-4
2位	竹之内	マリオン	弘前大	弘前大	-4	-4	-8
3位	飯村	カムイ	弘前大	弘前大	-4	-4	-8
5位	長谷川	明日檜	北大(3)	北大(3)	-4	-8	-12
12位	祝前	北駿	北大(4)	北大(4)	-15	-4	-19
	永田	北皇子	北大(4)	北大(4)	-11	失権	
	横幕	北銀	北大(4)	北大(4)	-15	失権	
	池田	グレンエトワール	北大(4)	北大(4)	失権		
	横幕	パシオンM	北大(4)	北大(4)	失権		
	岡部	北玲	北大(3)	北大(3)	失権		

《賞典馬場馬術競技》					得点
1位	八田	騾天鳳	酪農学園大	酪農学園大	510(45.9%)
2位	林	サンルミエール	東北大	東北大	504(44.2%)
3位	兼松	翠麗	岩手大	岩手大	484(43.6%)

《総合馬術競技（3DAY EVENT）》					調教	耐久	余力	総計
1位	頃末	柏雲	帯畜大	帯畜大	-148	0	0	-148 2/3
2位	藤本	カシワハーディ	帯畜大	帯畜大	-145 1/3	0	-5	-150 1/3
3位	祝前	北駿	北大(4)	北大(4)	-139	-13.6	0	-152 3/5
10位	横幕	北銀	北大(4)	北大(4)	-152 2/3	-46	0	-198 2/3
13位	長谷川	明日檜	北大(3)	北大(3)	-150	-44.8	-11.5	-206 3/1
19位	岡部	北玲	北大(3)	北大(3)	-159 1/3	-120	-40	-319 1/3
	飯田	北凜	北大(4)	北大(4)	-153 2/3	E	E	
	池田	グレンエトワール	北大(4)	北大(4)	-156	E	E	
	祝前	北耀	北大(4)	北大(4)	-157	E	E	

				JUMP OFF			
《新人新馬障害飛越競技》				減点	TIME	減点	TIME
1位	菊 地 越	若 岩 手 大		0	67"1	0	41"3
2位	山 森 シルバードリーム	東 北 大		0	70"4	0	46"2
3位	河 名 柏	雲 帯 畜 大		0	73"0	0	48"3
	深 部 北	熊 北 大(2)	失権				

◆第39回北海道体育大会（於帯広畜産大学 8月15～16日）

《総合馬術競技》				調教	耐久	余力	総計
1位	久保田 ア ブ サ ン	十勝柏友会		-108.6	0	-0.75	-109.35
2位	藤 本 カシワハーディ	帯広畜産大		-135.3	0	-10	-145.3
3位	賀 山 ジャンボリバー	十勝柏友会		-128.6	0	-19	-147.6
4位	祝 前 北 駿	北 大(4)		-117.6	0	-32	-149.6

2段階

《L級障害飛越競技》（一般）				減点	TIME	減点	TIME
1位	平 松 柏 斗 王	帯 広 畜 産 大		0	39"8	0	27"7
2位	原 アンナクィーン	十 勝 柏 友 会		0	47"5	0	27"7
3位	長 屋 フ ラ イ ト	メインフィールズ		0	40"2	0	29"8
	横 幕 ファストバロン	北 大 (4)	失権				

《ダービー競技》（成年）				減点	TIME
1位	頃 末 柏 雲	帯広畜産大		0	198
2位	船 越 碌 泰 斗	酪農学園大		0	211
3位	平 松 柏 斗 王	帯広畜産大		-4	209
4位	永 田 北 熊	北大(4)		-7	215
10位	祝 前 北 熊	北大(4)		-17	222

◆第6回北海道障害馬術選手権大会（於ノーザンホースパーク 8月29～30日）

2段階

《一般L級障害飛越競技》				減点	TIME	減点	TIME
1位	伊 藤 ベネファクター	N. H. P.		0	41	0	22"31
2位	斎 藤 ロ ン タ ー ノ	オ ー フ ル		0	43"9	0	24"65
3位	雄 谷 モ チ ョ ボ ス	N. H. P.		0	41"5	0	25"79
20位	横 幕 ファストバロン	北大(4)		-4	47"3		
29位	横 山 北遼	北大同好会		-13.25	60"7		

〈一般内国産障害飛越競技〉					減点	TIME
1位	八田	騾天鳳	酪農学園大		0	68"79
2位	土井	ダイナアトランダム	N. H. P.		-1.25	80"41
3位	土井	フェニックス	N. H. P.		-4	71"46
5位	横幕	グレンエトワール	北大(4)		-7	82"79
7位	岡部	北玲	北大(3)		-15.75	86"08
9位	八木	北銀	北大(3)		-21.25	84"96

〈一般L級障害飛越競技S & H〉				TIME
1位	早田	リアルイージー	早田牧場	63"38
2位	伊藤	ベネファクター	N. H. P.	62"47
3位	斎藤	ロンターノ	オーフル	71"17
	横山	北遥	北大同好会	失権
	横幕	ファストバロン	北大(4)	失権
	黒崎	明日檜	北大(2)	失権

〈一般内国産障害飛越競技S & H〉				TIME
1位	松井	大天山	メインフィールズ	73"94
2位	土井	フェニックス	N. H. P.	76"21
3位	小野	ユーウグレイ	メインフィールズ	82"79
5位	横幕	グレンエトワール	北大(4)	102"6
	八木	北銀	北大(3)	失権
	岡部	北玲	北大(3)	失権

〈一般内国産障害飛越選手権競技〉				減点	TIME
1位	小野	ユーウグレイ	メインフィールズ	-5	85"73
2位	土井	フェニックス	N. H. P.	-5.5	87"45
3位	伊藤	プリンスファイター	N. H. P.	-9.5	91"56
5位	横幕	グレンエトワール	北大(4)	-17	89"73
	八木	北銀	北大(3)		失権

◆東日本馬術大会（於馬事公苑 9月11～13日）

〈内国産馬標準中障害飛越競技〉				減点	TIME
1位	芹沢	クリーンヒット	北聡 R C	0	41"64
2位	横溝	ジャパンⅢ世	桜井スティーブル	0	47"37
3位	岡崎	メイハウザン	J R A 馬事公苑	0	52"39

祝 前 北 駿 北 大(4) 失権

◆オーマイホーフスティバル（於日高育成牧場静内種馬場 9月13日）

《ジムカーナ競技》（貸与馬）

出場選手 鎗木（1） 兒玉（1） 溝井（1）

《障害飛越競技》

3位 八 木 （3） 北 銀

横 幕 （4） ファストバロン

3反E 横 山 同好会 北 遥

団体成績 準優勝

◆モモセダービー（於モモセライディングファーム 10月4日）

《ジムカーナ》（貸与馬）

7位 会田（1）

10位 米家（1）

11位 鶴見（1）

12位 田中（1）

E 保坂（1）

◆ノーザンホースパークカップ（於ノーザンホースパーク 10月10～11日）

《馬場馬術競技第二課目》（シニア）

得点

1位 田 伏 ジ ャ ー モ モ セ R F 318

2位 開 発 オスカー メインフィールズ 313

3位 祝 前 北 駿 北 大(4) 295

《ジムカーナA》

TIME

1位 早 田 シ ャ レ イ 早 田 牧 場 131"19

2位 谷 地 グレンエトワール 北 大(1) 130"90

3位 岸 田 コパスパイス 輪厚乗馬倶楽部 130"05

10位 川 合 北 銀 北 大(1) 141"27

《障害飛越競技L級B S & H》

TIME

1位 杉水流 セイルオンシャダイ N. H. P. 73"85

2位 堀 井 グ レ ー ス 足 寄 R C 76"65

3位	伊藤	クリスカントリー	N. H. P.	86"18
	横山	北 遼	北大同好会	失権

《障害飛越競技L級A》

	(シニア)			TIME
1位	斎藤	ウェルダン	オーフル	81"28
2位	土井	アクティブダイナ	N. H. P.	99"79
3位	酒井	リゾートタウン	JRA日高軽種馬	85"61
10位	横幕	ファストバロン	北大(4)	122"61

	(ヤング)			TIME
1位	伊藤	ベネファクター	N. H. P.	81"22
2位	荒瀬	北 皇子	北大(3)	95"77
3位	天羽	メイシヤ	日高KF	87"44
	塚脇	グレンエトワール	北大(3)	失権

JUMP OFF

《障害飛越競技M級C》

				減点	TIME	減点	TIME
1位	祝前	北 駿	北大(4)	0	101"50	0	29"21
2位	土井	ディクターランド	N. H. P.	0	114"20	-3	49"36
3位	土井	セイルオンシャダイ	N. H. P.	0	120"22	棄権	
4位	横幕	ファストバロン	北大(4)	-3	126"48		
10位	八木	北 銀	北大(3)	-20	159"79		
	岡部	北 玲	北大(3)	失権			
	長谷川	グレンエトワール	北大(3)	失権			

《障害飛越競技M級C S & H》

				TIME
1位	クレア・ハニウェル	ル ミ シン ダ	早田牧場	86"21
2位	土 井	セイルオンシャダイ	N. H. P.	92"73
3位	天 羽	ク ラ ビ ス	日高RC	99"97
8位	八 木	北 銀	北大(3)	155"99
9位	長 谷 川	グレンエトワール	北大(3)	191"01

◆山下杯（於酪農学園大学 10月18日）

《ジムカーナ競技》					TIME
1位	河本 駿	鷹	酪農学園大		44"07
2位	西田 北	銀	北大（1）		44"45
3位	大原 北	銀	北大（1）		47"94
7位	谷地 北	遥	北大（1）		55"39
8位	森沢	グレンエトワール	北大（1）		56"98
9位	後藤	グレンエトワール	北大（1）		57"48
OPEN	横山 北	遥	北大同好会		51"17
	杉野	グレンエトワール	北大（1）		失権
	竹田	グレンエトワール	北大（1）		失権

《新人新馬障害飛越競技》					減点	TIME	JUMP OFF
1位	杉坂 駿泰斗	酪農学園大			0	67"29	40"76
2位	福士 駿泰斗	酪農学園大			0	64"89	44"94
3位	福田 駿	鷹	酪農学園大		0	79"01	45"79
5位	八木	パシオンM	北大（3）		-3	95"87	
9位	横山 北	遥	北大同好会		-9	116"77	

《L級障害飛越競技》					減点	TIME	JUMP OFF
1位	道谷	ローカルプレスリー	酪農学園大		0	63"69	34"55
2位	横幕	ファストバロン	北大（4）		0	70"08	40"71
3位	岡部 北	玲	北大（3）		0	70"13	42"03
4位	三浦 北	玲	北大（3）		0	63"60	42"73
5位	深部 北	駿	北大（2）		0	71"53	42"82
	松原 北	銀	北大（2）			失権	

◆OB戦（於北海道大学 10月25日）

《L級》					減点	TIME
1位	福岡 明日	檜	OB		0	50"50
2位	長屋 北	銀	OB		0	60"06
3位	堀川 北	駿	OB		0	63"02
4位	松原 北	駿	2年		0	66"59
5位	高野 北	玲	OB		0	68"02
6位	河合 明日	檜	1年		-3	70"28

7位	岡 部	ファストバロン	3年	-3	85"12
8位	黒 崎	北 玲	2年	-4	65"74
9位	近 藤	ファストバロン	OB	-7	84"04
10位	野 中	グレンエトワール	OB	-17	104"27
11位	西 村	北 銀	2年	-17	121"40
12位	船 越	グレンエトワール	3年	-60	2落馬E
13位	荒 瀬	グレンエトワール	3年	-100	3反E
14位	堀 崎	グレンエトワール	OB	-140	3反E

(10cm down)

八 木 パ シ オ ン M 3年 0 69"65

(20cm down)

横 山 北 遥 OB 3反E

《ジムカーナ》

				減点	TIME
1位	高 野	パシオンM	OB	0	41"59
2位	野 中	北 瑛	OB	0	53"49
3位	米 家	北 玲	1年	0	54"67
4位	岡 田	北 玲	OB	0	62"88
5位	杉 野	パシオンM	1年	-3	83"27
6位	兒 玉	北 瑛	1年	-6	68"15
7位	松 尾	北 瑛	OB	-20	2落馬E
7位	鎗 木	北 瑛	1年	-20	3反E

◆全日本学生馬術大会（於馬事公苑 11月11～15日）

《第42回全日本学生賞典障害飛越競技大会（二回走行）》

				一走目	二走目	二日間合計	
				減点	減点	減点	TIME
1位	萩 原	フェザーフレーム	法 政 大	0	0	0	192"59
2位	中 村	イ ン カ	同志社大	-3	0	-3	192"65
3位	大 村	騾 狼	酪 農 大	0	-4	-4	192"17
35位	長谷川	明 日 檜	北大(3)	-13.75	-14	-27.75	246"38

《第35回全日本学生3DAY-EVENT（総合）》

				調教	耐久	余力	総計
1位	松 本	明 月	明 治 大	-122 2/3	0	0	-122 2/3
2位	宮 野	桜 翠	日 本 大	-125 2/3	-0.4	-10	-136 1/15

3位	土屋 明	撞	明治大	-126 1/3	-5.6	-5	-136 14/15
	祝前北	駿	北大(4)	-165	-61.6	3反E	

◆国立九大学定期戦（於群馬大学 11月29日）

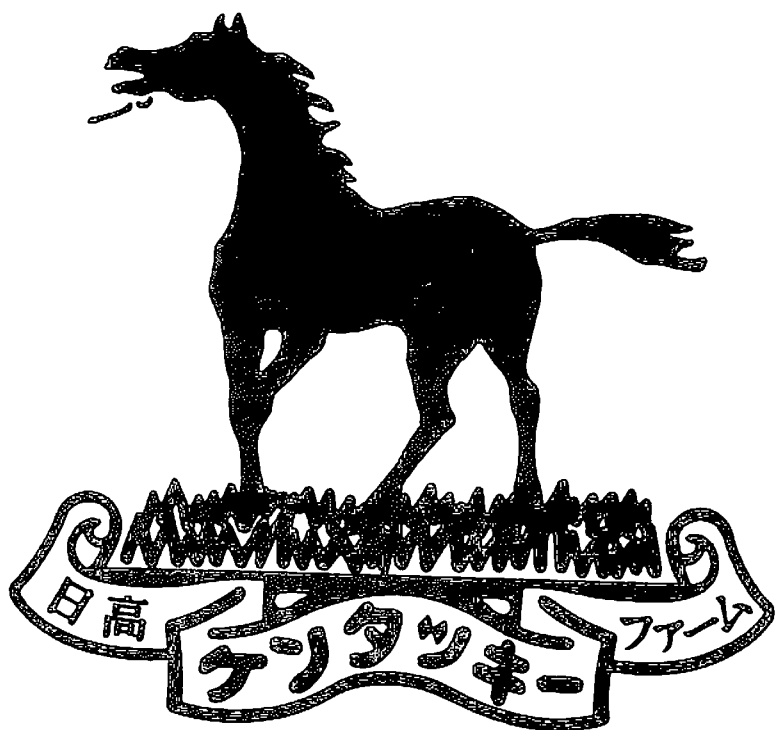
出場選手 荒瀬（3） 黒崎（2） 谷地（1）

戦績 1位 新潟大

2位 北大

3位 茨城大

優秀選手 荒瀬（3）



北海道沙流郡門別町字福満 ☎01456(2)0811

大自然の価値ある休日

乗馬・テニス・ペンション

FRONTIER HOLIDAY RANCH
フロンティアホリデイランチ

〒061-33 北海道厚田村しゅぶ165の3

TEL (0133)66-3858

北水馬術部活動報告

主将 徳本 龍志

話はいきなり逸れるが、私の持っている北大ジャンパーの背中には、1925という数字が描いてある。これはもちろん1925年創部という意味であろう。一方私達北水馬術部が一昨年に作った赤いジャンパーの背中は、1965という銀色の数字が光って見える。クラブには大学の存在が切り離せないため、北大の本学と40年もの開きがあるのは当然といえるのだが、それでも創部が1965年というのは、北大水産学部馬術部もずいぶんと歴史を重ねている。私が1970年生まれだから一層その感慨は深い。昔の話をほんの断片しか知らないのは恥ずかしい限りだが、それでもダイパレードという馬の話だとか、せっせと競馬場に通いつめていた頃の話などを耳にすれば、大先輩に対して「へー、あの頃もそうか」と親しみを感じたりする。

私達の知らぬ処でそういった歴史が積み重ねられた後、北水はしばらく途切れる（詳しくは知らないが）。その傾いた北水を再び土台から建て直したのが上本さんだった。函館東山の中腹にある東山乗馬クラブで再び馬に乗せて貰うようになり、北水は新たな出発をしたわけである。その後何年も地道な努力を重ね、根井兄の代で北水をひとつの団体として北日本の中に独立させた。そしてその翌年である一昨年、田村前主将は東山乗馬クラブでの活動からさらに一步進んだ道を選んだ。函館のはずれの小さな牧場へ東山からのクラウンと共に移り、本学と同じことを求めようとしたのである。

前置きが長くなってしまったが、今回の北水活動報告は、その牧場に移ってから一年がたった1991年8月～1992年10月までを北水の自馬であるクラウン号の調教報告を交えながら書く事とする。振り返ってみれば苦しい一年であり、特に後半は悪い夢でも見ているのではないかと思ったりもしたが、とにかく北水の歴史の貴重な一ページとして詳しく書き記したいと思う。

平成3年8月 北日学終了後、田村主将より北水馬術部を引き継ぐ

そして部員は私と奥村の二人となった。私は主将とクラウンのチーフを兼ね、奥村は会計の役職を受け持った。これまで五人だったものが二人に減ったわけだから、一人の仕事量がぐんと増えた。私達は家から12キロの高村牧場まで朝夕に忙しく往復する。

北日でクラウンは一枚の賞状を持ち帰った。2課目2位。一年間賞典を目指して乗り込んできた結果のこの賞状をどう評価するかは難しい問題だった。もちろんこれまでの状況、つまり北水が今回一団体として初めて自馬を参加させたこと、またクラウンが一年間突貫工事的に造った馬場馬であったことを考えれば、両手を離して喜ぶ結果なのかもしれない、がしかし・・・

私は函館に帰ってきた直後からクラウンに障害の調教をはじめた。私たちの置かれた環境、馬の能力、自分の能力、自分の意欲、それらのすべてを踏まえて考えた結果といえる。つまり一年後の北日総合競技への出場を目標としたのだ。環境は最悪だった。何と言っても私達には数本のバーと高さをつけるためのビール箱以外に障害と呼べるものが何一つ無かった。またクラウンも私も障害

飛越というものをほとんど知らぬ輩であった。ともあれ障害をやりたい、総合に出たい、という私の気持ちがそれらを遥かにしのぎ、クラウンの性格も肝っ玉の太い野外向きのものだったので、とにかく一年間突っ走ってみようと固く決意した。

一日の練習は約四十分。クラウンが障害に馴れるまでは調馬索でキャバレッティなどをやり、それから私が乗っておよそ二十分程フラットワークを行った。初めバーを踏んでも平気な顔をしているクラウンに参ったが、そのつど注意していくと良くなった。キャバレッティがうまく行く様になると、次はそこから小さな単一を繰り返して飛ばした。これは馬と人が飛越に馴れるため、高さは60センチまでとした。フラットワークでは、基本的な扶助をそれこそ新馬並に一からやり直した。脚に対して反応が鈍いこと、半減脚が効きづらいこと、口が堅いこと、左右前後に体が固いことが問題となるクラウンの場合、基本からやり直すことは、決して遠回りではないと思った。もちろんすでに出来た馬ならば、人間が馬に追いつくことが第一で、追いついてしまえば後は人馬で調教をどんどんと掘り進み、リズムを合わせて行けばいいのだけれども、クラウンはそういう訳にもまだまだ行かず、実際には、右脚を使えば左に、左脚を使えば右に動くことを、しだいに脚力を弱めながらそれでいて馬に同じ動きをする様に要求して行くことから始めて、次に内方と外方を区別し、内方で前肢旋回、外方で後肢旋回を、運動の最初、合間、最後に馬が飽きない程度に繰り返した。脚を微妙だが弱くしていくといつか馬が迷って動かなくなるときがある。その時は瞬時に鞭を入れ、馬が正しく動く様に仕向け、動けばすかさず愛撫した。すぐにとは行かなかったが馬は変わって行った。脚に対して敏感になったのは、脚に対する集中力が増したからだと思う。

10月 倉本 本学より移行

彼女は馬匹の役職を受け持った。声の色がひとつ増えただけで活気が増した。寒い冬に向けての景気づけとなった。

秋が深まって、本学主将の永田が、東京OB会からの援助を、北水にまわしてはどうか、という話を持ってきてくれた。喉から手が出るほど障害の欲しかった時である。「もしかしたら、」と期待は膨らみ、私たちは飛び上がって喜んだ。その後、この援助の話は、東園会長の御理解と、事務局の名越さんの御尽力、永田を中心とした本学の協力により、年も明けた初春の頃念願の障害を手にするに至ったのである。このことを始めとして、以後様々な事に、永田、ドンパには協力してもらった。迷った時には相談にもってもらい、ずいぶんと心強く思った。それに対する感謝の気持ちは、言葉では言い尽くせないものがある。

秋から冬にかけて雨が多くなった。元々放牧地であった馬場はぬかるみ減多に使えなかったもので、練習は自然と外乗が多くなった。ここの牧場は辺りに民家も少なく、一步外に出ると広い自然に囲まれており格好の外乗コースであった。クラウンは何処へ行こうと物怖じする事もなく、まだまだ馴致の必要はあったが、彼ならば初めてのスティーブルもきっとたくましく走ってくれるだろう、と思った。

また馬場が使える時は、少々無理をしても障害を飛んだ。ビール箱とバケツをかき集めてオクサーを作り飛ばせたりもした。この頃には馬もいくらか軽くなり、それまで外していた拍車をつけ鞭を持てばガンガン前へ出るようになってきた。九月の終わりに私は札幌に行ったおり、全日前のギャランに乗せてもらった。久々に乗ったギャランは雲のように軽かった。というよりも、ずっと乗っているクラウンが重すぎるのだ。このときの感覚は後々まで、クラウン調教の方針となった。

12月26日～ 徳本、倉本ノーザンホースパークにて合宿

倉本は一週間、私は二週間お世話になった。試合まで一日もおろそかにできないクラウンの調教に二週間も穴を空けてしまうのは気になったが、人間が練習するには良い機会だったので、あえて函館を留守にした。吸収する事は多かった。飛越のリズム、特に連続において、まだクラウンは出来ていなかっただけに勉強になった。

1月 初乗り

ささやかなイベントだが、クラウンと共に私達は近くの神社に出向いてしっかりと願をかけた。

年が明けてからの調教は、伸縮の要求を高くし、障害では連続を頭に置きながら一つ一つの飛越を丁寧にいった。

2月の終わりに、札幌からドンパの横幕と後輩の佐土谷が函館に来てくれた。自分自身調教に迷いがあった時だったので、とても嬉しかった。彼らにクラウンを乗ってもらう事で、下から客観的にこの馬を見ることが出来た。問題点もいくつか上がったが、一番頭を痛めたのは半減脚の不理解だった。これについてはバランスバックによる停止を繰り返し、馬が悟ってくれるのを待った。

3月の声を聞き雪解けが始まると、そろそろ試合を意識し始めた。部員三名、函館の地であって、北日までの三カ月間に人馬がどれだけ試合経験を積めるか、そう考えると、最初の試合は人間に勝手の分かっている半沢杯が最適であった。

そして冬が明け春になった。粉雪の隙間から覗く日差しに私達は目を細めた。半沢杯はすぐそこだった。冬を越して倉本も技術的に成長し、学校の忙しい奥村は裏方としてきめ細かく北水をバックアップしてくれていた。頭は試合の事で一杯だった。私達は半沢杯に向けてクラウンの冬毛にせっせとブラシをかけたりしていた。後に、ここの牧場主から大きなしっぽを食らうとも知らずに……。

5月 半沢杯

馬の輸送は試合の前々日に済ませ、一晩外厩でクラウンを休ませると、翌朝は本学の連中に混じって練習を行った。初めての馬場でクラウンがどんな動きをするか楽しみだった。フラットワークでは予想以上に反応が良かった。しかし障害に移ると、のっけから前肢で障害を引っかけた。こんなはずではない、でもこの程度なのかもしれない。私は顔が引きつった。ドンパが障害のまわりから、アドバイスをくれる。「新馬のような飛びをしている」というのはさすがに耳に痛かった。試合は明日である。

試合当日。午前中倉本と私で二鞍二課目に出場したが、結果は芳しくなかった。残すはし級競技である。準備運動では、短時間で馬のボルテージを上げ何度か障害を飛ばす。呼び出しの声。下から永田の「行ける、行ける」という声が届く。スタート。結果は一落。前日の練習から正直帰ってこれるとは思っていなかったで、とても嬉しかった。しかし踏切はばらばら、随伴はむちゃくちゃ。まだまだ道は遠いといった感じだ。

同月 北日本学生馬術選手権大会

徳本、倉本、参加。本学の選手と函館で乗り合わせて北里へ向かう。しかし両選手一回戦で敗退。そしてこの時、函館で留守を守っている奥村のもとでは信じられないことが起こっていた。

話は平成2年11月までさかのぼる。私達北水馬術部はこれまで活動していた東山乗馬クラブか

ら、クラウンという馬を一頭借りて、この高村牧場に移った。その際の契約として、餌代などすべてを込みで毎月五千円を高村氏に支払い、また足りない所は労働力を提供することで返す、と口約束する。そして当然のことながら、朝、夕の自分たちの馬の世話は必ずすることも約束する。

平成3年夏。代が交代して、部員が三人となったのは前にも書いたとうり。学部生だけの部活動は、猫の手も借りたい忙しさとなり、仕方なく毎週約二回夕方の餌付けだけ高村氏にお願いすることにした。

そして事件の起きたのは選手権のあった5月10日。函館に残っていた奥村はこの日、学校が忙しく夕方牧場に行くことが出来なかった。また牧場主の高村氏も夕方忙しく、自分で馬に餌をつけることが出来なかったらしい。それで奥村に餌付けを頼もうとして、しかし彼女と連絡がつかず、高村氏は彼女が遊んでいると早合点してしまったのだ。それ以前にも様々な伏線はあったのだが、ここに来て頑固おやじの怒りが爆発した。「もう来なくていい」と、OBの所に電話があった。

翌朝、三人で誤解を解きに行ったが、高村氏は聞く耳持たずで、逆に「出て行け!」と一喝された。しかしそうは言われたものの、クラウンに餌をつけない訳には行かないので、朝夕と、引き続き顔を出し、誠意を見せようと努力した。しかし、それから四日後の夕方、私達の誠意は高村氏には届かず、とうとう力づくで牧場を追出されてしまった。だが、クラウンはその牧場に残ったままである。OBの3人に、牧場の方へ話を聞きに行ってもらった。そこで高村氏は、「馬はこれまで俺が餌を食わしてやったのだから、俺のもの。返して欲しいのならば、金を持ってきなさい」と、これまでの餌代7万円など、ほとんど言い値で計180万円近くの高額を要求してきた。私達はその金額に度肝を抜かれた。最初に月5千円の約束があったからこそ、これまでやって来れたのである。それがいきなり馬を担保に捕られ、180万円を支払えという。どうすればいいのか。まったく途方に暮れた私達は、連日連夜思案を重ねた。話し合いで解決しようと、牧場に何度も足を運んだが、お金を持って来なければ、ただ追い返されるだけで、クラブ顧問の先生と連れ立っていても無駄であった。

札幌へ行き、斎藤先生に話を聞いて頂いた。少し光が見えた。ドンパからのアドバイス。気持ちが楽になった。函館に帰って、東山乗馬クラブとの話し合いを平行させながら、学校と相談し、警察に出向き、市役所に足を運び、裁判所まで相談に行った。とにかくクラウンを取り返すこと。そのために最後の手段として選んだのが、裁判であった。

時間は刻々と過ぎて行き、遠い帯広ではすでに北日が始まっていた。私と倉本は、車を飛ばしてそれを見に行った。その場にクラウンの姿がないのは、何とも歯がゆい思いだった。私達は二回走行だけ見ると、再び函館に戻り、弁護士との相談を重ねた。

最初の裁判が行われたのは9月10日であった。しかし高村氏は出廷せず、裁判は、私達の一方的なものになりそうだった。更に、東山乗馬クラブのかねてからのご好意により、9月16日から私達は再び馬に乗り始めた。一時は潰れる事も覚悟した北水馬術部であったが、何とか軌道に乗り始めたのだ。

9月24日。2回目の裁判が開かれ、判決が下りた。私達の正当性が認められ、お金を払わずともクラウンを取り返せるという、待ちに待った決定だった。この後、多少のいざこざはあったものの、クラウン号は、無事東山乗馬クラブに移され、私達の活動はクラウンと共に続いている。

10月 佐土谷 函館に移行

主将の役は、3年目2年の彼に引き継いだ。佐土谷、倉本、部員は二人と少ないが、岸本、菊地両教官のもとで、日々トレーニングをつんでいる。本学の方にはお世話になる事も多いと思うが、暖かく見守って頂きたいと思う。

東山を飛び出して1度は牧場に移ったものの、再び活動の場を東山乗馬クラブに戻した。これは単に振り出しに戻っただけの事ではないと思う。私達北水馬術部は、どう意気ながらも結局はどこかの巨木の陰で畑を耕すしかないのである。それを良く理解し、お互いが相手の気持ちを深くおもんばかれれば、巨木と農夫はこれまで以上に良い関係を保ち続ける事が出来るだろう。今回の出来事が、決して失敗ではなく、今後の東山との関係においての深い礎になる事を願いながら、北水の活動報告を終える事とする。

最後になりましたが、この一年間無能な私達をご指導して下さいましたOB諸兄、永田以下現役の方々、他大学の皆さんには、大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、これからもご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



クラウン号とともに



炭焙き珈房

るびあ

お届けできません。

いつも変わらぬ味は。

●北 15 条店

北区北 15 条西 3 丁目

北皇子号



騙 サラ 栗毛
昭和51年5月12日生
新冠郡新冠町産
父 アストラルグリーン
母 ハーバーガール
競争名 ハーバーギャラン
愛称 ギャラン

北皇子号調教報告

永田 修

自分がこの馬に騎乗する事になり一にも二にも考えていた事は“いかに北日、全日まで馬体を維持し、そして、いかに本番を万全な体調でむかえるか”という事でした。騎乗している者がうまいので馬のことだけを考えていたという訳でなく、下手でも試合に出ないことには話にならないし、馬体が良ければ何とかなるとは、はずかしながら思っていました。馬体管理について留意していた点は、次のような点です。

- (1) 運動量に急激な変化をつけない。
- (2) 日頃から悪くなりそうな所(腰、右前脚)は予防をする。
- (3) 草刈のできる期間はできるだけ刈ってきて与えてやる。
- (4) 共に馬体管理に携わっている者への指示の徹底。

これら挙げた点は北皇子だからというわけではなく、馬に関わるものなら当たり前といえば当たり前な事ばかりです。

運動量については細かく計画を立てていた訳ではなく、週のこのあたり、月のこのあたりに運動をあげるというぐらいのものでした。そしてその中に試合が入るといふふうに考えていました。練習時間は他の馬と変わりなく乗っていましたが、下級生の練習として外乗、北大富士での登り降りなどはかなり時間を取ってやりました。この様なことを行うことで馬の体力の増加があったかどうか

かは分かりませんが、かなりいい状態で夏を迎えたことは確かです。障害練習は週に、2、3回ぐらいの割合で行い速歩飛越より駢歩飛越を中心に行い、間歩も実際の試合で見られるようなもので行いました。騎乗者の技術を思えばこの様なことをするのは間違った事かもしれませんが、数カ月で何とかしなくてはならなかった事を考えれば実戦的な事に慣れる方が結果に結びつくと思いこういう形を取りました。

2つ目の事に関してですが、腰に関してはできるだけ冷やさないようにする事を心掛け冬場は勿論の事、暖かくなってからも腰に毛布や布を掛けていました。また、マッサージをしたり、マイクロレーダーを照射するのを練習後や夕方の手入れの時だけでなく朝の練習前にも欠かさず行いました。脚は練習後の水冷と焼酎によるマッサージを行い、焼酎は効果があったみたいで、脚に関しては全くと言ってよい程心配せずに済みました。

以上のような感じでやってきて北日には、馬体的には問題のない状態で臨めました。しかし、肝心の結果というものは、この馬に乗ってきた責任者としても出せなかったし、また主将という立場から部としての結果も出せず、部報に、こういう人物が調教報告という形でこの場で原稿を書くという事には書いてる自分自身以上に、これを読んで参考としようと考えている後輩の人達には抵抗があるのではないかと思います。本当に勝てる体制、本当にうまくなる練習方法、騎乗技術というものの確立というものを、現役で乗っているものは勿論の事、自分達を含めたOBも、ともに考えていく必要があるのではないかと、できなかった事なのに、些か、無責任ではありますがその様に感じています。

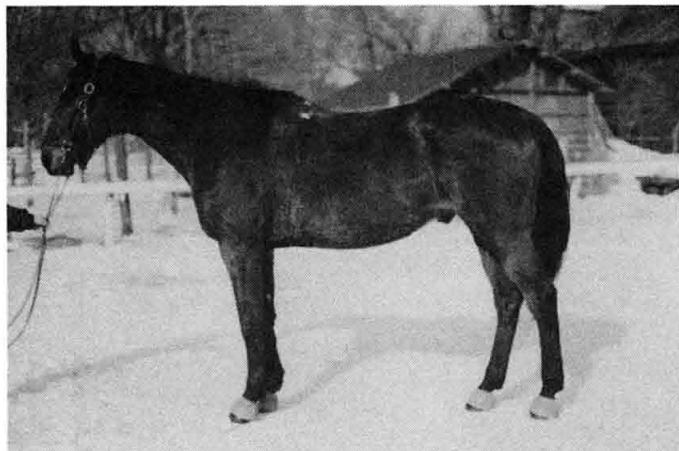
これから先、こんな自分にでもできる事があれば力になります、その時はいつでも声を掛けて下さい。

競馬、乗馬用品、バック、サイフ、小物、ベルト

ソメスサドル 株式会社

- 本 社 / 〒073-03 北海道歌志内市神威264
☎ (012542)代2152 F A X (012542) 6716
■東京営業所 / 〒111 東京都台東区浅草橋5-12-6明治堂ビル
☎ (03)代366-2131 F A X (03) 363-4652

北銀号



騙 サラ 鹿毛

昭和55年4月28日生

上川郡新得町産

父 ヤマブキオー

母 ソーゴータカラ

競争名 トカチヤマブキオー

愛称 ギン

北銀号調教報告

八木 聡

北銀には1月に乗り始めました。北銀は全日学に何度も出場している馬なので調教に関しては特に問題はないと考え、当面の目標を馬のボルテージを上げることにおいたが、それよりも自分の騎乗技術のほうに多くの問題がありました。

具体的にはまず馬を前に出すということでした。このことはシーズン後半まで、自分ではっきりと認識することができませんでした。練習中に障害をやるときはいつも丁寧に飛ばすことばかりを考え過ぎていました。そのためシーズンの半ばには馬を推すことができなくなり、拒止を繰り返していました。試合においても拒止のことが頭をよぎりとても北銀を信頼して飛ぶ状態ではありませんでした。また分速350mを感覚としてはっきりと認識できませんでした。失権を繰り返すたびに頭はだんだんと固くなってしまい、馬のペースを感じ取れなくなってしまったのだと思います。

第二の問題点は馬の飛越の邪魔をしているということでした。これは特に拳に集約されていると思いますが、飛越の度に馬は飛びにくくなり後肢を踏み込ませることができませんでした。シーズンの初めのうち連続障害で手綱を伸ばしてしまい飛越がフラットになって最後の障害が飛べないことが何度かありました。その時はもっと手綱を短く持つことを指摘され自分もそのとおりにしました。そのため今度は飛越中に十分に拳を送ることができず、特に着地で拳でバランスをとっていたため馬は自由に飛べないことからだんだんと固くなったのだと思います。

最近になって思うことは放棄手綱（自由手綱）でもしっかりと前に出してやればどの馬でも120cmの障害は飛べるのだということです。学生のレベルでは間歩とか踏み切りとか難しく考える必要は全くなく、飛ぶのは馬であって人間はただ邪魔しないことのみ注意を払えば良いのだということです。（もともと深く考えてはいなかったがはっきりとこのことが意識できるようになった。）

3番目には馬を起こすことについてです。それまで自分は馬を起こすというのは回転で内方脚を

使い外方拳の方へ力押しやるように考えていました。したがって馬の動きの流れの中で運動をとらえることができず、回転と飛越がバラバラになっていました。回転の前で馬をしっかり前に出しておくこと、そして回転でその推進力を後軀に乗せること。ここで馬の前に行く力を上へ弾ませるようにバランスバックしてやり、それをこなせるだけの馬の柔軟性を準備運動でしっかりとやること。そしてまた障害ラインに入ると馬をしっかり前に出すこと。

以上基本的なことを書いてきましたが、そのことが自分でよく分かっていなかったのだと反省しています。もう一年北銀に乗ることになりましたが、北銀が北大のエース馬として活躍できるように頑張りたいと思います。

太田装蹄所

☎782-6084

札幌市東区伏古10条1丁目15番5号

北玲号



牝 サラ 鹿毛
昭和56年4月8日生
梶泉郡えりも町産
父 ノーザンアンサー
母 クレメンタイン
競争名 クイーンクレメン
愛称 おじょう

北玲号調教報告

岡部 靖子

私がチーフとして北玲に乗り始めたのは年が明けて1月16日からだったが、北玲の力に比べ私
があまりに未熟だった為、5月中旬頃まではとにかく北玲のペースや性格に慣れることだけに費や
してしまい、そこから少しずつ私の意志を北玲に伝えることに努力してきたものの、やっとそれが
伝わり反応が返ってくるようになったのは8月になってからというお粗末さで、調教とはほど遠く、
北玲とクラブに対して大変申し訳なかったと思っている。私が下級生のうちにもっと知識と技術を
身に付け、強い意志と長期の調教計画を持って騎乗していればしなくて済んだまわり道と後戻りを
いくつもしてここまでできてしまった。調教報告とはとても言い難い文章になってしまったことをお
許してください。

乗り始めた頃はちょっとした物音ですぐに走られていた。落ち着いて運動を続けている時でも遠
くから除雪車の音が聞こえてきたり近くを他の馬が通りすぎたりというささいなきっかけで、すぐ
パニック状態になって目をむいて走った。障害飛越をしている他の馬がバーに蹄を当てる音が聞こ
えただけで走ることもあり、北玲の神経質さと潔癖さを改めて実感した。しかし、単にそれは騎手
に全く集中していないということであり、北玲のワガママを許しているということであった。最初
のうちはリラックスして乗ることが大切だと思い、拍車もつけず、脚も使わず、手綱もほとんど持
たずに乗っていた。それは私が北玲に対して何か知らず知らずのうちに悪影響や精神状態を悪くさ
せる要因を与えてしまうのが怖かったからでもあった。けれどもそんなことをいつまでも続けてい
て、北玲と私の意志はかけ離れていくばかりであった。諸先輩方の北玲号調教報告によれば、「非
常に人に頼ってくる馬で・・・」と書かれているし、話にも聞いていたが、私にはとても信じられ
なかった。シーズンに入って競技会にでる度に拒止されたり反抗されたりで、裏切られたとしか思

えなかった。特に馬場の競技においては、準備馬場でとても良い反応を示し、今日はいけるぞ、と思いつきながら本馬場に入ったとたん制御できなくなったということが幾度もあった。このことは結局北日学までズルズルひきずってしまったが、今思うと私の要求も北玲には理解できなかったし、北玲からの応答も私は感じていなかったという全く対話のない関係が続いていたように思う。北玲にとっては何を頼りにしていったら良いかわからなかったに違いない。もちろんある程度の期間騎乗して信頼関係の成り立った上で話だが、騎乗者が北玲をリードしていくつもりでしっかりと誘導してやればとても素直にに応じてくれる馬だと思う。その上で、強い要求をすればするほどこちらに注意を向けて、「ついて行きますよ。次は何ですか？」という待つ態度をとるようになる。そうなった時（はもう時すでに遅しだったのだが・・・）初めて北玲が頼ってくるという意味がわかった。

調教していくとき、北玲には声の扶助が大変効果的である。人間の言葉をいくつも聞き分けているのはもちろんだが、叱る声と誉める声をきちんと使い分けると驚くほど聞き分けているのがわかる。そして誉められれば誉められる程、その行為を続けようと努力しようとする。フラットワークをしている時でも、絶えず北玲に声をかけていると、安心したように落ち着いている。このことはこれからも大切にしていかななくてはならないと思う。また、騎手に対して集中させる方法として、最初は次々と移行や細かい図形を入れたりして注意を向けさせようとしていた。しかし、5月23日の馬場馬術大会の後のクリニックに参加させて頂き、日馬連の照井先生に御指導していただいた後、今までの考え方をガラッと変えることになった。その時は4頭の部班であったが、特別な運動は何もなく、ひたすらゆったりとした輪乗りと蹄跡行進の連続であった。次々と違う扶助を与えていくのではなく、実に落ち着いたペースの中で、内面から沸きあがるようなボルテージを感じた。この状態になれば、要求を厳しくしていてもとても素直に反応することがわかった。私と照井先生との騎乗で2時間以上も運動したが、最後まで良い状態を維持し、北玲にはこういう運動の仕方が合っているのかもしれないと思った。そしてそれ以後、クリニックの時の運動を基に普段の練習の組み立てをしてきた。

また、8月23日には大変幸せなことに加藤ゆうこ姉に練習を見て頂くことができた。その日は障害選手権の1週間前であり、準備運動とコンビネーションの飛越練習を見て頂いたのだが、「たとえ80cmの障害を飛越するだけのつもりでも120cmを飛越できるくらいのいい駢歩を準備運動でしてから向かうこと。そして脚力が足りないのなら足りないなりにその脚に北玲が反応しなければ意味がないのだから鞭でも拍車でも効果的に使うこと。」とアドバイスを下さり、そこでもまたハッとさせられた。私がチーフとして騎乗している以上、私の言うことをきかないということがあってはならないのだ。このことは前述の北玲をリードしていくということにもつながると思う。

結局、シーズンをとおして馬場の種目においては最後まで鎮静ができずに終わってしまったし、特に駢歩区間で制御しきれないということが課題として残った。障害飛越に関しては、拒止されることが多く、中でも連続障害において障害間で人間が体を起こしきれずにつまこんで止まり、それが続くことによる人間の恐怖心も手伝って北玲を不安にさせ、その悪循環から最後まで抜け出すことができなかった。もっと普段から競技会を想定した練習をし、競技会で通用する緊張感と厳しさをもって騎乗して、北玲がいつどんな場面に会っても「いきます！」と言えるような状態をつくっ

てやることが大切だ。

話はだいぶそれてしまうかもしれないが、北玲の馬体管理と運動管理の責任者として接してきた7カ月半、北玲の扱いと下級生の練習に関して私の中でいろいろな矛盾を感じながらやってきた。私は北玲という馬を他の馬とは違う特別な馬だ、という意識を下級生に持ってほしくなかった。もちろん牝馬だということも、神経質で注意深く扱わないとダメになってしまうということもわかってはいたが、それだからといって下級生のさわれない、存在の遠い馬にさせたくなかったのだ。クラブの馬として、みんなが触って、みんなが乗って、みんなが可愛がった馬を、勝たせたかった。このことについては先輩や同輩からかなり反対されたし、言い合ったりもした。あまりいい状態にならないのに長時間下級生を乗せて運動を続けていたり、北玲がイライラしているのを知っているから装鞍させていたりしたからである。でも私は、私が下級生の時にやはり先輩から教えて頂いたり責任を持たせて下さったりしたことを私も北玲をとおして教えていきたいという考えがあった。しかし、今シーズンそして北日学で結果は残せなかった。私のあいまいな扱いのせいで、北玲の素晴らしさの一つであるシャープさはかなり失われ、ただの食いしん坊の馬になってしまった。歴代チーフが守り通してきたものをぶち壊してしまっただけであった。確かに私自身1年生の時、いい試合を見て、勝って一緒に喜んで、それが今の私をどれだけ支えているか、と考えると私が乗って私が結果を出すことが先なのかもしれない。私は、今シーズンをとおして常にこの考えにぶち当たってきて、最上級生になろうという今、もっと悩んでしまうが、クラブの馬が成績を残す、ということがどれだけクラブの人と馬を支えているかは重要なことだと思う。

私と北玲の戦績を記しておく。

◇5月4日 半沢杯（於：北大）

二課目と小障害にエントリーした。私と北玲のデビュー戦でもあった。雪割りの終わった3月下旬から本格的にコンビネーションで速歩飛越中心の練習を始めたが、高さも上げなかった為、ひどい姿勢の私におかまいなく北玲が勝手に飛越しているという感じで、止まる気も全くなかった。練習や経路まわりでは、まわりから北玲のペースはもっと速いはずと言われ続け、本番ではかなりいい走行ができたと思う。反対に馬場は、馬も準備馬場から鎮静させることができず、惨々であった。

◇5月23、24日 馬場馬術大会（於：N. H. P）

当日までに岡田監督に何度か見ていただいたが、蹄跡をまっすぐに走らせられないことを毎回注意された。特に駢歩区間では腰がずっと右に逃げたままで走ることが直せず困った。当日は準備馬場で北大の他の馬がいなくなるとなきまくり、人馬とも全く集中力の欠けたまま終わってしまった。けれども前述のとおり、その日照井先生のクリニックに参加させて頂くことができ、大変勉強になった。

◇6月13、14日 道自馬（於：N. H. P）

8月に中障害の経路を返ってくるにはこの時期に中障害に出ておかななくては、という私の焦りのみからM級Cにエントリーし、結果は6番の連続障害の前で3反抗失権となった。6月の始め頃から、練習においても拒止されることが多く、この高さになったら馬がよほどボルテージを上げ、や

る気になって騎手に敏感に応答して来なければ飛越できない、と言うことに気付いていなかった。私は気持ちばかり焦り、高さばかり求めていた。北玲は1度止まらせてしまったら、いつまでも覚えていて立て直すのは難しい。いつか北銀で障害練習をさせてもらったことがあったが、北銀はたとえ止まったとしても鞭を1回入れれば次は必ず飛ぶ。この時、北玲はそれが効かない、と再確認した。拒止されてからの対処を考えても遅い。北玲が自分から障害に向かって行くまで集中させた状態で飛越練習に入り、短時間で切りあげ、絶対に止まらせるような状態をつくらないことが最重要点である。そこの見きわめが私にはできず、北玲との関係をガラガラと崩してしまった時期であった。

◇7月17～19日 公認（於：N. H. P）

この大会は北日学前最後の競技会ということもあり、自馬大での反省もあわせて私と北玲との関係を改善することを目的とした。練習でもコンビネーションの最後をオクサーにして、最高でも110cm以上は上げないことを決め、1間歩や2間歩の連続障害を駢歩飛越する練習もした。道自馬の時の最悪な状態からはなかなか抜けきれなかったが、当日は向け方やペース、姿勢などについて落ち着いて考えながら走行する余裕が持てた。また、障害前で一瞬躊躇する気配を見せた時も脚を使って「行け！」ということができたし、北玲もそれに応えてくれた。17日にはフレンドリーシップがあり、その最終障害は私にとっては初めての水濠だったのだが、何のためらいもなく飛んだ。

◇8月6～10日 北日学（於：帯畜大）

公認が終わってから学科の実習で1週間札幌を離れ、帰札してから出発まで幾日もなく何をして良いか分からなかったが、とにかくやるしかないという気持ちになっていた。出発まではひたすら北日学のビデオばかり見てイメージトレーニングをした。私も北玲も元気を出していくために、二回走行では入場門から駢歩で入場させた。敬礼からスタートまでは、どんどんスピードを出していく中で極端な伸縮をして脚反応を再確認した。一走目は4番で3拒止。もともと総合のための馴致という目的も大きかったため、二走目を出場することによる悪影響を考えて迷ったが、一つでも先に進もうという気持ちで出場させてもらった。結果は問題の3連続で（8-B. C. Bでそれぞれ拒止）3拒止であった。調教審査は駢歩区間で落ち着かなかったものの、今までの馬場の中では一番良かったと思う。耐久では緊張でカチカチの私を乗せてどこまでも勇敢に飛んでいった北玲に感謝し感激した。耐久における北玲の力は本当に素晴らしいものがあると思う。もともと中途半端なことは絶対にしない性格から、川だろうとスキージャンプだろうと力強くシャープな踏み切りでどこまでも飛び続けた北玲には頭が下がった。余力では、してはならない2反抗をしてしまった後、何とか還ってくることができた。

北日学では5日間毎日というハードなスケジュールをこなすための人間の体力のなさを思い知らされた。それとはうらはらに北玲は、慣れない地に来て飼食が減るところか毎日元気でペロッと平らげ、隣の馬房にあったにんじん段ボール箱を一晩で食べてしまうという事件（？）までひきおこした。

ここまでくるのに本当に多くの方々にお世話になった。岡田監督をはじめ、長屋さんには競技会場でいつもの的確なアドバイスを頂いた。そして未熟な私と北玲号を励まし、見守って下さった皆様

に心から感謝致します。

さて、北玲も12歳。明けて来年は13歳となる。右腰の調子も決して良いとはいえないが、だからといって使わないと硬くなる一方なので毎日少しずつほぐしながら使う必要がある。現在、本城さん（昭53卒）からいただいたマイクロウェーブでの治療を毎日続けているお陰で右腰による跛行や馬休はほとんどない。それと、昨年 of 全日学で耐久審査の時につくった左蹄冠の傷は、5月頃までは時々傷んで跛行したりもしていたが、1年近くたとうとしている現在、すっかり良くなった。太田さん、野中さんのおかげと大変感謝している。

北玲にとって、私のために払うにはあまりにも大きな代償となってしまった1年。しかし北玲は、北大のエース馬として活躍しなければならないのだ。来年の全日学にむかって日数は確実に減り始めている。

—————おじょう、頑張ろう！—————

岩城弘侑 法律事務所

弁護士 岩 城 弘 侑

事務所／札幌市中央区南1条西10丁目南大通ビルアネックス6階
☎241-0797・251-2470

北駿号



編 ア・ア 鹿毛
 昭和58年4月3日生
 三石郡三石町産
 父 トップホース
 母 プルコワヒメ
 競争名 チャフルガイ
 愛称 チャフル

北駿号調教報告

祝前 伸光

競技成績

H3. 9. 7	障害選手権 (M級C)	1位	-7/0(J.0)
9. 14	ノーザンカップ (M級C)	14位	-8
11. 10	馬場馬術大会 (2課目)	2位	358(47.7%)
H4. 5. 4	半沢杯 (複合)	3位	-120/0
	(M級C)	4位	0/0(J.0)
5. 23	馬場馬術大会 (2課目)	4位	386(51.5%)
6. 13, 14	自馬馬術大会 (M級C)	8位	0/-4(J.0)
	(S & H)	12位	73"79
	(M級B)	6位	-8
7. 18, 19	地区大会 (M級C)	1位	-1.25
	(2課目)	9位	385(51.3%)
	(S & H)	13位	87"25
	(M級C選手権)	1位	0/0(J.0)
8. 6~10	北日本 (障害2回走行)	12位	-15/-4
	(3DAY-EVENT)	3位	-139/-13.6/0
8. 15, 16	道体 (3DAY-EVENT)	4位	-117.7/0/-32
9. 11, 12	東日本 (M級B)	失権	
	(S & H)	45位	
10. 10	ノーザンカップ (M級C)	1位	0/0(J.0)
	(2課目)	3位	295(39.3%)

1年を振り返って、競技成績に明らかなように、尻すばまりに終わってしまったのは、まことに残念なことである。特に北日が終わってからの各競技は全く精彩を欠いており、そのことから、乗馬技術や調教云々というよりも、たとえどんな事情があるにせよ、自己の精神をベストの状態にすることが出来なかったことに敗因は集約されるものと思う。北日までは、拙い騎手をしばしば窮地から救ってくれたが、それ以降は騎手の心の乱れが伝わったものか、二度と救いの手を差し伸べてくれることはなかった。

この1年私と馬を助けてくれたたくさんの方々、とくに東日本大会の時馬を置いてくれた東京大学馬術部の皆さん、どうも有り難うございました。応援してくれた全国の祝前ファンの方々（本当に居るんだ、これが）、チャフルファンの皆さん（これもいる、競馬時代から追っかけているという人が）、最後の最後で期待に応えられなくてごめんなさい。祝前はもう消えますが、チャフルはこれからも応援して下さい。

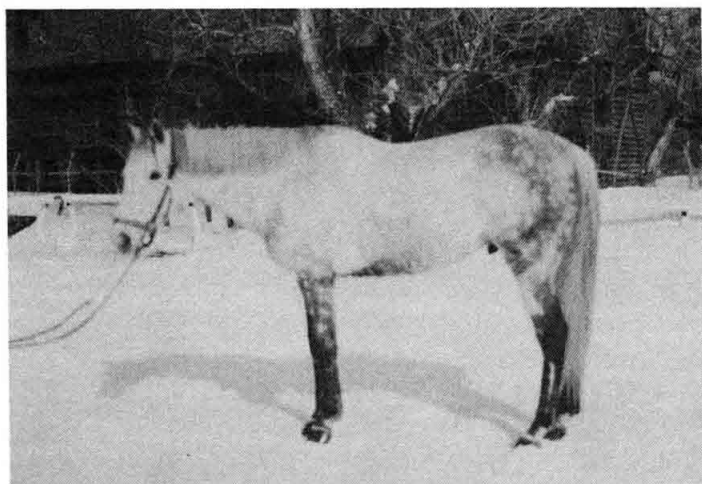
千キニ卵
とい...
サッポロみ店
居茶珈屋
ニワタマ



居茶珈屋
NIMATORI GA SAKIKA
TAMAGO GA SAKIKA



さっぽろ北36西4. 山ニビル1F
☎ 736 - 3851



騙 サラ 芦毛
昭和55年4月28日生
湧別郡鶴川町産
父 トレントム
母 ホクエイフブキ
競争名 ニューギャロップ
愛称 ギャロップ

現在、我が北大馬術部の12頭の馬達の中で最も小さく、しかも唯一の芦毛とくれば見間違えようのないギャロップ。実は愛らしい外見的特徴からは想像できないくらい、頑固で愛想のない奴です。とは言え、ヒト嫌いというだけで馬は好きらしく、曳き馬の時、他の馬に近寄りたがって困るのですが……。その上、つれない態度をとる割にはすぐに跳ねる臆病者だし。人間に対してなんだか一線引いているように思われて、最初のうちは馴染みにくいのですが、徐々に自分を認めてくるのが感じられると、彼が可愛くて仕方がなくなります。

障害はどうも苦手ようですが、これからも馬場馬として頑張ってほしいと思います。

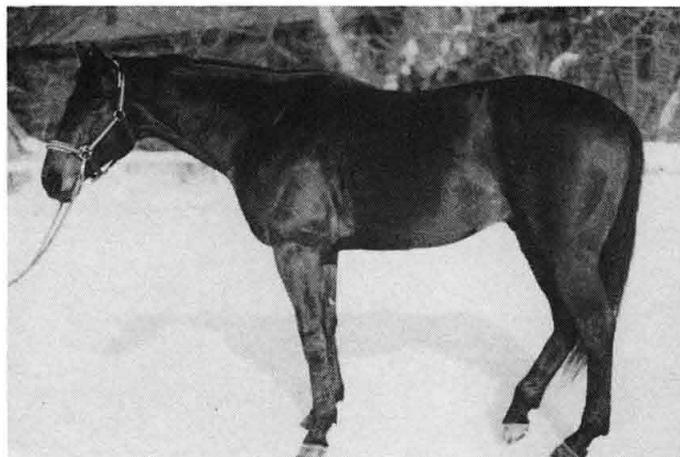
学生さんにはネタもシャリもジャンボ
とにかくジャンボ ネダンと同じ

舌鼓 鮎 の 正 本

コンパは30名様までと40名様まで 11:30~12:00 30

北16西4北向 ☎746-4231

グレンエトワール号



牡 サラ 鹿毛
昭和61年3月26日生
静内郡静内町産
父 サクラシンゲキ
母 ホシローズ
競争名 グレンエトワール
愛称 エトワール、エト

グレンエトワール号騎乗報告

池田 直弥

一年間グレンエトワール号に騎乗しました。

エトワールは僕たちが入学した年に入厩した馬です。長屋さんが調教され、期待された馬だったのですが、今年の結果は、悉くそのような期待を裏切るものでした。これはすべて僕の未熟さからくるものです。今回原稿を書きますが、エトワールに関して参考になれるようなことは何も残せません。今の状態でも、長屋さんのお書きになった、No. 35の部報のほうが、現役の皆さんには役立つはずです。以上前置きさせていただきます。

明らかにおかしくなったのは六月末、ノーザンでの二回走行の経路回りのときだった。それまでは、たとえ踏切が近くても、まっすぐアプローチを取れなくても飛越していた馬が、五番目の障害で止まってからは、どのような障害でも、自分から向かっていかなかった。そのような兆候はしかし前からあった。道自馬の時でも、逃避されることがあった。競技でも一反した。しかし、アプローチが悪かったり、準備運動が悪かったり、等の理由を見つけて、それで満足していたのかもしれない。そして、崩れてしまったことがはっきりしてからは、もう、何をしてもよいかわからなくなってしまった。長屋さんがNo. 35の部報の中で言うところの「むぎむぎと味をしめさせ」たのだろうか、何をやっても騎乗者に答えてくれるものがなくなった。焦っていたこともあったのだろう。北日までの間、すべてが空回りしているようだった。

乗り変わった頃目標にしていたのは、落下しないようにすることと、馬場運動を丁寧に行って、調教審査でよい評価をされる動きをさせることだった。それでフラットワークでは頭を下げさせることに集中した。拳が固いのと、推進不足とが原因なのだろうか、首は固いまま、動きのメリハリもつけられず、よくならなかった。夏頃にはサイドレーンなどつけてみた。道具を使えば、背中を使って運動できる。しかし外してしまうと維持できなかった。現役の誰が乗っても首をあげてしま

うようなら、これからも道具を使った方がよいと思う。北瑛などと違い反動は小さいし、乗りやすいのだが、逆にしっかり体全体を使って運動させるのは難しかった。よくいう「後軀の推進を拳で受けて」なんてことには程遠く、それを無理に続けようすると、馬が苛々する。それで、外乗で大きい歩度で走らせたり、つめのばしをくり返すなどしてとにかく体全体をなるべく使うように心がけた。北皇子に関して町田さんや福庄さんが、この方法をよしとしていた。しかし僕の場合、それがどうしても馬場での動きにつながらなかった。畜大OBの鷺田さんが、エトワールの駢歩を見て、これでは中障害もかえって来れないだろうと仰っている。フラットワークからして、馬を満足に動かせなかったということか。

障害は、馬が落下しないような障害を飛ぶよう心がけたが、これは自分も障害を余り飛んだことがなかったから丁度よかった。3m-6mや3m-3、3m-6mのコンビネーションを中心にやるのだが、フラットワークがまずいので、ゆっくりしたペースでまたぐように飛ぶ。他の馬なら自分から向かっていくところのないこのような状態なら拒止するものだが、とにかく飛んでしまう。脚で推進と思うのだが障害前の回転で失速しなくても、同じようになってしまう。それで、鞭をもって、障害を飛ぶときに見せたり、尻や肩に入れて一そうすると切れよく飛ぶので一飛越をくり返すことになった。このくり返しが一番馬に悪影響を与えたような気がする。鞭を使ってもしっかり前をもつことができ脚で挟んでいればまだしも、そうではないので、終に馬が逃げることを覚えたのではないか。

ところで僕が騎乗しているときはあんまり障害を落とさなかった。（程度の問題だが）これは脚でもって前に出すよりも馬が勝手に障害を飛ぶに任せていた、またそれで「この馬は飛ぶなぁ」と安心し切っていたのだろう。今年のOB戦の時野中さんが騎乗された。その時仰ったのは、障害の三步前になったら、人の指示を受け付けず、完全に自分の判断で飛ぼうとする、ということだった。そうってしまったのかもとからそうだったのかも僕にはわからない。推進できる分だけよいに推してしまって落下につながる、なんて事はあるのだろうか。

春になって、鷺田さんに見てもらったときには、フラットワークと同じく、もっと体を使って飛ばせる、ということで、幅のある障害を勧められた。これも馬は難なく飛ぶ。この練習をしているうちに馬が前に出ていくを感じるようになった。つまり、何でも、体を使わせれば、馬はボルテージが上がるんだ、とは思ったが、いつまでたってもそれがフラットワークの中でできなかった。

コンビネーションではなく、単一の障害を飛越するには、踏切がばらばらであった。どちらかというところからボコンと飛ぶのだが、前に出して遠くから踏み切らせたほうが随伴もしやすかった。なるべく近くから踏み切らせないよう、障害前でとにかく前に出ている状態を目指した。北日の時は、これで前に出そうとばかり思っていて、前を楽に持とうという意識が、障害前でしっかり持てないことを助長して逃避された。

結局北日では一度もゴールを切る事なく終わってしまった。去年のチーフの横幕に競技に出てもらい、M級Cの易しい経路ではあったが、満点ではなかったけれどもゴールは切ってくれた。しかし、九月のIBGでは、だれもゴールを切れなかった。だれが乗っても遅る馬ではない。乗り手を選ぶ馬になってしまった。

エトワールに何もできなかったのに騎乗報告を書くのもおこがましいのだが、少しでも来年につながればと思って書いてきた。横幕ならゴールは切れたのだから、現役の誰が乗っても遅ってこな

い訳ではない。だが、逆に誰でもよい訳ではない。フラットワークでしっかりボルテージを上げなければならないし、障害も含めてしっかりコンタクトを保って、それに負けないだけの推進ができなければならない。それは一年生のときからの練習の仕方です。上達するはずだ。さらに、馬に負けないで調教できる当たりの強さが必要だ。多くの馬がいる中で、エトワールをどのように位置づけるかわからないけれども、まだまだ学生が乗って行く上で十分な才能を開くことはできるはずであり、将来にわたって主戦馬として活躍できるようになって欲しい。僕の技量不足で今のようになってしまい申し訳ない。

エトワールは、今年は怪我が多く、特に公認大会の際の怪我では、メインフィールズの方々や、JRA日高育成の坂本さんにはたいへん迷惑をかけてしまった。装蹄師の太田さんには、特別な蹄鉄を作っていただいた。また野中さんにはたいへんお世話になった。この場を借りてお礼申し上げます。また岡田監督はじめ練習を見てくださいたり貴重なアドバイスをくださったOBの皆様、どうも申し訳ありません。すべてにおいて人間の考え、行動が甘かったと恥じる次第です。皆様本当に申し訳ありませんでした。

北海道大学生協指定

- 延長補習料金無料 普通免許
- 生協組合員特別価格
- 短期速成科開設

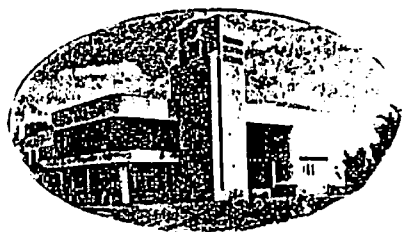
●普通自動車 ●大型特殊 ●身障者科 ●自動二輪(中型・小型)

④完全責任指導制

入校と同時に担当指導員が決まります。

⑤日曜、祝日も平常通り営業致しております。

入校申し込みは北大生協迄

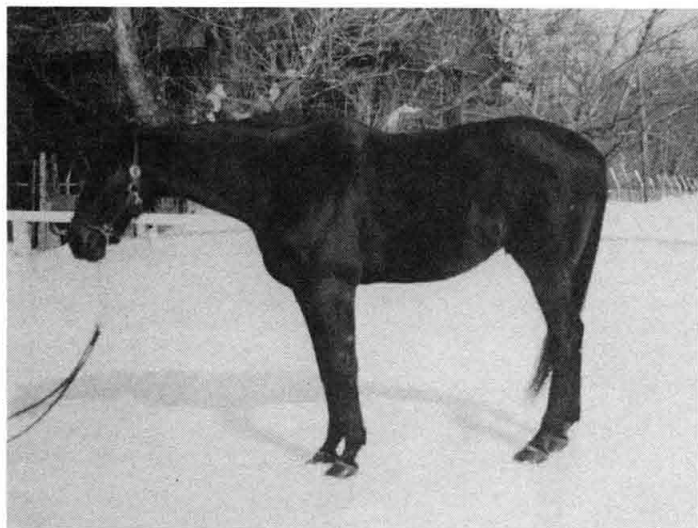


技能試験免除

北海道公安委員会指定

札幌 篠路自動車学校

☎771-2224代



騙 サラ 黒鹿毛
昭和56年4月19日生
三石郡三石町産
父 アローエクスプレス
母 スターブルー
競争名 ダイエクス・ピー
愛称 P

真っ黒な馬体に、ワイルドな容貌。北大の中でも「かっこいい馬」として注目される彼。

彼こそがPことパシオン・Mです。

彼はその名のとおり情熱的（パシオン：スペイン語「情熱」）であり、自分（？）というものをしっかりと持っている、馬らしからぬ馬です。いわゆる“人なつっこい”馬ではなく、見慣れない人には耳を伏せ「なんだよー」と攻撃することもあるけれど、本当はとっても寂しがり屋で、心を許した人には顔をすりよせて甘えてきます。彼の眼光の鋭さに最初は近寄り難いと思われがちですが、しだいに心を許してくる彼に心を奪われた人は多いはず。

彼はとてもよくケガをします。治療は嫌い。獣医さんはこわい。でも本当は何をされるのか分からないから、ドキドキ緊張してしまうのです。「こういうことするんだよ」ってちゃんと教えてやると彼だってじっと我慢するのです。目をパチパチさせながら・・・

24:00
☎ 716-2575
食品、酒類、塩、たばこ
つちの



騙 ア・ア 栗毛
昭和52年5月23日生
沙流郡平取町産
父 フロルア
母 ギンチョウ
競争名 フロルアタロウ
愛称 シケレペ、ペ

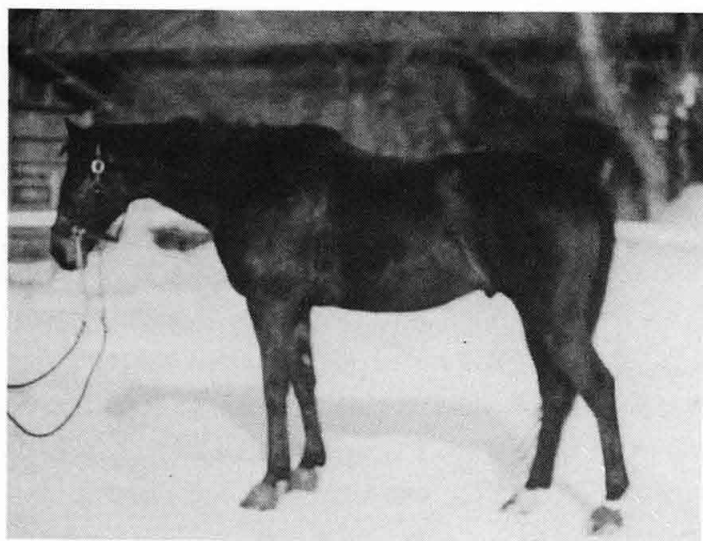
馬房の前を通りかかると、かまってもらえるかな？って期待の顔、手を伸ばすとペロペロなめて可愛いんだけど、そこでそのまま通り過ぎようとする、イーーンと歯をむきだしてしかめっつら（？）するペーは、極度の寂しがり屋です。試合に行っても北大の馬が視界から消えともう大騒ぎ。北日のとき、広い芝生で曳き馬をしていたら、急に遠くの林に向かってペーがズンズン歩き始めた。？？と思いながらついて行ったら、数分後おじょうがその林の陰から姿を現したのにはびっくり。どうやっておじょうが来るのが分かったのかは、いまだに謎です。

そんなペーも年明けて16歳、部内ではギャランに次ぐ長老であります、若い者にも負けちゃいません。去年は北日学の二回走行で権利を獲得し、見事初の全日学出場を果たしました。道馬連ではその成績が認められ、本年度の優秀馬に認定されました。

昨年の秋から故障していました両前肢ですが、獣医学部の奥山さんに、レーザーの治療をして頂いたりしてだいぶ回復致しました。

松原兄とのコンビで来シーズンはどんな活躍を見せてくれるか、楽しみにしてるからね、ペー。

ファストバロン号



騙 サラ 鹿毛
昭和61年3月8日生
浦河郡浦河町産
父 スイフトスワロー
母 インターブロッサム
競争名 ファストバロン
愛称 バロン

横幕 宏幸

——競走馬として活躍した馬が全て、乗馬としても成功するのだろうか。馬に素質があったとしても、果たして自分たちの力で、その才能を開花させる事ができるであろうか。“馬をつくる”為に未熟者は未熟者なりに何をすればよいのか。（もちろん、上手にならなければいけないのだが）

菊花賞7着、その後、調教中右前つなぎ骨折、骨折部をボルトで固定したものの、競走馬としての使用は無理との判断で引退。乗馬として再出発という事で北大に入厩してきたのは、今からちょうど3年前の真夜中でした。「なんだか年令の割に生意気そうな奴だな。でも力強さがあるな。」その頃、新2年生になりたてのほんの少しだけ右と左が分かりかけてきた自分の印象でした。それから3年が経ち、OBとなっても未だに調教がうまく進まず、頭を抱えている訳ではありますが、これから、この馬に乗っていく下級生に、自分の考えてきた事、失敗、苦労話などを調教報告として残し、少しでも役立ててくれたらと思い、以下に残しておきます。

F. バロン号の性格、馬体に関しては前回の部報を読むと良く分かるが、とにかく一言で表すと、“きかない馬”というのが自他共に受けている印象である。日々の手入れなども、以前には蹴られた、咬まれたなど、馬と人間が付き合っていく中であってはならない事が何度かあったが（もちろん人に危害を加えた馬は悪いが、人間が注意すればそのほとんどが防げたはずであり、一概に馬が悪いとは言えない。）最近では馬も、この馬術部で長い間生活してきて、してはいけない事が分かってきたのか、全くもって人に危害を加えるという事をしなくなった。たまごが先か、にわとりが先か、分からないが、普段の生活で人間に従うようになってから、騎乗のほうでも徐々に良くなってきたように思える。

以下で何度か触れるかもしれないが、馬と人が付き合っていく以上、してはいけない事については、“馬に分かるように”教えなければいけないし、分かるまで根気よく教えていかなければならない。時には1度馬がおびえるくらいしかなければいけないだろうし、馬をいじけさせるのも良くない。

これ同様、褒めるのもやたらめったら褒めればよいというものでもなく、その、強弱、タイミングが大切になってくる。この事は自分にとっても、毎日が試行錯誤であり、分からない事ばかりだが、これを読んだ下級生諸君はもう一度、考えてみるべきである。上級生も、しっかりした意志、態度で、馬と接して欲しい。そういう上級生を見て、下は育つのだから。（少し自分を棚に上げてしまったが）

話がF. バロンの調教報告から脱線して、ややこしくなっているようなので、再びF. バロンの話に戻る。F. バロンに関しては、北大にいる他の馬達よりも性格的な難があるように思われ、わがままな所が多いが、しかるとたいてい言う事を聞き、それでいていじけたりしないので、しかる、という事についてはかなり扱いやすい所もある。とは言っても、いじけて、卑屈にならないというだけで、一度興奮してしまうと、なかなか治まらず、又、興奮している間は人間を無視し、手に負えなくなることもしばしばあり、最近では手に負えなくなることはないが、ひっかかる癖は、未だもって治ってはいない。このことが悩みの種になっているのだが、ひっかかる回数も、ひっかかっている時間も、経験を積むことで、昨年1年間、少しずつではあるが向上しているのも確かである。この馬が成長し、活躍するにはこの性格的な所を、いかに克服してゆけるかが、今後の課題となってくる。

自分がF. バロン号のチーフと決定したのが2月中頃であった。全くのド新馬という訳ではなく以前にも騎乗はしていたものの、競技会などにも出場したこともなく、先年度は馬体維持程度のものであった。

まずは様子を見るため、調馬索を用いてあまり過度な事は要求せず、リラックスして馬が走れるよう心掛けたが、天候、馬場の状態が悪かったこと、長い間調馬索を使用していなかったこともあり、調馬索を切って、逃げていってしまうなど、思うような運動ができず、かえって馬が凝固してしまい、逆効果だった。その為、調馬索での運動はとりあえずやめ、外乗と放棄手綱での2点で行った。外乗は初めのうち自分で行くことにしたが、慣れてくるに従い下級生を乗せて行った。しかし、下級生を乗せて、構内を走り回ったことなどもあり、その後はなるべく自分で行くようにした。外乗中、リラックスできる馬とそうでない馬の2種類があるが、F. バロンなどはその後者であり、外乗を自分が乗って行くことにより、馬の性格、嫌なものに出会ったときの馬の反応など、馬を知る上で、その後の競技会などに大いに役立った。それと並行させてシャンボンを使用し、放棄手綱での運動を行った。普段普通に走っている分には一応首を伸展させて走るのだが、リラックスして活発に走らせようと思い、要求を高めボルテージを上げていくと、ボルテージ(?)が上がりすぎ、人間を無視し、減却が効かなくなってしまうことがよくあった。1度、疲れ切るまで走らせてやろうなんて事も考えたりしたが、何分、肢に爆弾を抱えている為、そういう訳にもいかず、ほとほと手を焼いた。ひっかかっては怒り、ひっかかっては怒りしたのでは、ますますきかなくなる恐れがあったので、とりあえずは、馬が興奮するまでボルテージを上げず、馬が興奮しそうになったら運動をやめ、再び落ち着いたら行うということの繰り返しで1カ月近く行った。それがよかったのか、

思ったよりも成果を上げ、手綱を軽く持った平場の運動は長い時間一定のリズムで行えるようになった。

歩度の伸縮については、脚の反応に若干にぶいところもあり、それなりの強い脚が必要だったが、最近では馬も理解してきたように思われる。

減却については常歩から停止、速歩から常歩などは割合軽い扶助で行えるのだが、速歩から停止、駈歩から常歩、停止などでは馬の反応がかなりにぶい。この為、あまり長い時間同じ歩度で運動することを避け、又、歩度を伸ばすときなども、脚に反応すれば良いという程度であまり長い距離を行わず、短い間隔に分け、繰り返すことにより、馬が自分が走るのに熱中することを避け、いつでも騎乗者に注意を向けていられるよう心掛けた。これを長い期間コンスタントに続けることによって、かなりの成果は得られたが、騎手の体重移動（バランスバック）に反応しているというよりは、手綱に頼っている所が大きいのは今後の課題である。

左右の偏りについては、馬体的な問題のため、かなりの違いが見られる。先にも触れたが、右前肢のつながきを骨折し、ボルトで接続しており、左前肢より右前肢のつながきが下がっている。そのため速歩などでは、若干跛行が見られたが、痛さのためということではなく、物理的なものということであり、注意はしていたが、あまり気にせず運動を続けた。最近では太田装蹄師などの御尽力もあって、右前肢の蹄が広がってきたためか、ほとんど跛行が見られず、右前のつながきによる跛行については、ほとんど問題はなくなった。とは言え、これにより左右のどちらかの肢に負担がかかる恐れがあるので毎日注意しておく必要がある。この肢の為もあるのか、右内方姿勢が取りづらく、小さい回転などは、かなり窮屈に感じる。

次に障害練習及び経路走行について。

時期的な調教状態が良く把握できない文章になっているが、その辺は頭があまり良くない人間が書いているため勘弁願いたい。

冬の時期から、少しずつでも障害に慣らした方が春の障害練習に役立つと思い、放棄手綱のみの運動の時期より行った。初め、キャバレッティー通過から行った。その頃の馬の状態からいって、ひっかかるのでは？という不安を持っていたが、これについてはほとんど問題がなかった。特にひっかかることもなく、かといってボケてバーに肢を当てることもなく、ほどよい緊張で行うことができた。

地上横木にもほどよく慣れたところで、うさぎ跳びを含んだ簡単なコンビネーション障害を行った。放棄手綱でリラックスした飛びを、馬に求めた訳だが、初めはその思いと逆に障害中、首を凝固させ、突っ走っていくことが多かった。

最終障害を飛んだ後首を前に伸ばし、ハミを持って行ってしまい、そのままの状態で行ってしまい、なかなか手の内に入らないような状態が続いた。最終障害後走るのも、バカっ飛びするのも、障害に対して恐怖心があるためであり、これは馬に数多く経験させるのが一番よいと考え、この時期肢の状態も良かったこともあり、週に3～4日は同じコンビネーションを繰り返し行った。これにより、かなり馬がその障害に慣れ、半沢杯までにはほとんど放棄手綱で行えるようになった。飛越後、駈歩から速歩への減却も、直線上では無理であったが、回転上ではかなり楽に行える。

ここまでは思った以上に馬が成長してくれ、いい気になっていたのだが、それがたたってその後大きなミスをしてしまった。そのミスに関しては後程書くことにして。

コンビネーション障害において、ようやく安定してきたので、経路走行を意識して駢歩飛越を行った。（コンビネーションでは少しは安定した飛びができるようになったというだけで卒業したという訳でなく、今後も続けていく必要があり、馬に一番飛びやすい踏み切り位置と、一定のリズムで飛ぶことを覚えてもらうには、一番リスクが少ない練習MENUだと思う。）コンビネーション障害においても、ある程度のバカッ飛びではあったが、駢歩飛越になると、障害の上30cmというバカッ飛びに加え、飛んだ後、一直線に突っ走っていってしまうという有り様。

障害に向かう直線の距離をなるべく短く取り、又、着地後も、すぐに回転することにより、あまり馬を直線上におかないよう心掛けた。もちろん、障害飛越中は直線であり、曲線上を飛ばすほどの技術は持ち合わせていないが。

単一障害が一定のリズムで飛べるようになったのは1年過ぎた最近のことで、当時は障害後、走られることが多かった。走られるのは、馬の性格と経験上百歩譲るとして、問題なのは走られた後に、誘導不可能になること。これはそれまでシャンボンを使い、首を前に伸ばして走らせることに頭がいつてしまったため、障害飛越後にも必要以上に首を伸ばし、そして再び頭を上げて自分の誘導下に入らないという状態になってしまった事も、原因の一つであると考えている。頭を下方に下げて走ることは良いと思うが、いざ手綱を短く持ったときにそれが弊害になるようなら、それは考えものである。首を伸ばし、体を使って走っていても、手綱が長くて誘導できないのでは、経路を廻って来れないのだから。F. バロン号は案外物見をする様で、まだ新馬の域を脱していないからかもしれないが、反抗なども障害を見てビタッと止まってしまうことはまずなく、かわった障害ではそのほとんどがバカッとびをするか横にふっとんで行ってしまう。止まり癖よりはまだましではあると思われるが、この横への逃避もたちが悪く、今後必ず矯正しなければいけない問題点である。障害前など、いついかなる時でも人間の扶助の中に馬が入ってられるよう、平場での運動においても重点的にやって行く必要がある。

そんな状態で半澤杯に出たのだから、ましてや競技会の雰囲気を経験するのも初めてなのだから、内容がウンメンといったものではなく、還ってくるのがやっとのところだった。半澤杯では2鞍使った。2鞍目では落ち着いて回ってこれたが、これも1鞍目の疲労の為といったところだった。半澤杯で安心した事といえば、2鞍使っても肢に異常がなかった事くらいだった。

初めての競技会ということもあって、ある程度は興奮すると思っていたが、思った以上だったため、いつも生活しているのとは異なった環境に馴らしていく必要があった為、できるだけ馴致を行うようにした。場所の馴致を行い、その上で競技会の雰囲気に慣れさせようとするのには、ノーザンホースパークでの試合が多くなっている為、ノーザンでの馴致が好都合だった。それまで調子がよかった事もあり、半澤杯の経路走行に焦りを感じ、又、半澤杯において肢の故障もなかったのでつい運動量を増やしてしまった為か、右前肢に骨瘤ができてしまい、北日後までの長い馬休になってしまった。もともと肢に問題がある馬だと気をつけてきたつもりであるが、それまでなんともなかったために気がゆるみとんでもないミスをしてしまった。無事これ名馬とはよく言ったもので、せっかく積み上げてきたものが無駄になり、馬休後もまた1からやり直してあった。故障する前に馬休にできなかった自分がなんとも情けない限りである。2度と同じミスを繰り返さないようにしなければ・・・。

馬休後にまた新たな気持ちで再出発した訳だが、自分のF. バロンのチーフとしての任期は今年

の8月までであるので、それからの報告は次の部報ということにします。

性格がきかない馬だがバネはある。飛びはパツとしないが人に従順である。よく言われる学生向きの馬とそうでない馬。そんな馬達を学生レベルの力で“良い馬”にするにはどうしたら良いのか。一年間、F. バロンと付き合ってきて考えてきたけれど、どうも考えがまとまらないし、たかだか4年、5年しか馬歴がない者が馬について何を語るかと怒られるのですが、しかしその辺については、次回の部報までもう少し考えてみようと思っています。

信頼を生む確かな仕事を



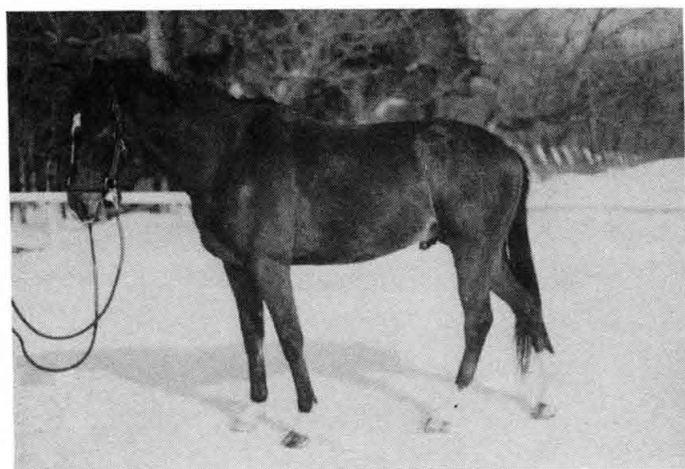
協信電気工業株式会社

代表取締役会長 加藤 弘

代表取締役社長 加藤 勝利

本 社	〒060 札幌市中央区北13条西15丁目	旭川支店	〒070 旭川市近文町21丁目
	☎011-736-8311 JR021-2794		☎0166-51-0971 JR024-3288
東京支店	〒124 東京都葛飾区新小岩3-9-2	釧路営業所	〒085 釧路市若草町8-12
	☎03-3674-8640 JR057-2388		☎0154-22-2723 JR027-2588
函館支店	〒040 函館市大川町6-22	小樽営業所	〒047 小樽市長橋2-2-15
	☎0138-41-6995 JR023-2829		☎0134-22-6434

北 遙 号



サラ・騾

昭和62年4月17日生

北海道浦河郡浦河町産

父 ベストブラッド

母 カワチカホ

競走名 ベストエンゼル

愛称 エンゼル

北遙号調教報告

横山 勉

北遙号(♂)は僕が3年のときの夏に札幌競馬場より入厩し、OBの前田さんにその年の9月から約1年半調教して頂いた後、僕が引き継いで調教してきた。大学院での研究の傍らという事情もあるが、馬に乗ることに限らず現役の頃ほど真剣に取り組むことができず(決して適当に乗っているわけではないが)、一生懸命頑張っている現役の方々に対してたいした役に立てていない気がして申し訳なく思うことが多かった。初めの頃はつけていた騎乗日誌もつけなくなってしまい、あまり細かいことは覚えていないので簡単に書こうと思う。

昨年(昭和61年)の5月に前田さんから引き継いだ時点では、既に半澤杯の新人新馬も帰ってきて基本的な扶助やある程度の障害経路はこなせるレベルにまで調教は進んでいた。まだ残された課題も多かったが、特に調教がこじれたところがあるわけではなく、順調といえる状態だった。そのため当初は秋までにL級は確実に帰れるようにし、さらに引継ぎも兼ねて現役も乗せていこうと考えていた。またそのような具体的な目標とは別に、1年生でも誰でも動かせる乗りやすい馬にしようと思った。

ところが予定通りには調教は進まず、能力的、体力的にはL級レベルの障害はこなせる力はあるが、試合や経路周りといった周囲の環境、雰囲気(霧)に敏感過ぎて興奮してしまい、経路走行どころではなくなってしまうという問題点をなかなか克服できなかった。対策として北日の遠征に連れて行ったりしてできる限り馴致を行ったが、慣れない場所で知らない馬と運動することや、逆に一頭だけになってしまうことなどでは多少興奮するくらいで却って運動しやすいくらいだ

った。結局何度もL級や新人新馬の試合に出たが、確実に帰るというのには程遠い状態でシーズンが終わってしまった。

④の昨年の秋の時点での調教状態について書いておくと、まずフラットワークでは、斜め横歩前・後肢旋回くらいの横運動を含めた基本的な運動はこなせる。体は柔らかく、若干右手前が固いということはあるがそれほど問題ではない。乗る人が自分の上半身・肩・肘・拳は固くなっていないか、それによって馬の首・動きが固くなっていないか、脚の使い方・位置・タイミングは馬の動きにあっているかなどに注意して乗れば自然と良い運動ができるようになる。正反撞での運動はあまりやっていないが、障害練習の後など、かなりほぐれた状態では柔らかい運動ができた。準備運動が不十分であると頸を固くしてガツガツとした運動になってしまうため、まだ誰にでも勧められるというような状態ではないだろう。駈歩は乗り始めの出しただけで興奮していた頃に比べてかなりフラットワークらしいゆったりとした駈歩ができるようになった。シンプルチェンジ・速歩を入れた踏歩変換くらいは十分に可能で、調教審査や第二課目くらいはうまくやればまわれると思う。ただ、当初後退する癖や巻き込む癖（乗る人の問題でもあったのだが）があったので、後退の扶助はまだ教えていない。

障害では初めはコンピネーションにしても単一障害にしても、飛ばば突っ走るという様な状態だったが、飛んだ後は走ればいいのではなくてとにかく騎手の方に注意を向けさせるように注意したのと数をこなすにつれてその辺は落ち着いてきたようで、普段の障害練習は90cmくらいまでなら問題はなくなった。それ以上になると落ち着いた状態では止まるようになり、だからといって気合を入れてしまうと突っ走ったりする。この辺の兼ね合い、精神状態のコントロールが難しく、結局解決には至らなかった。また、試合や経路周りの雰囲気に対して何かコンプレックスを持たせてしまったらしく、練習馬場では調子良くいっていても本馬場に入った瞬間に緊張してパニックになってしまい、経路走行をし、障害を飛ぶ以前の問題になってしまうことが多かった。これはいくら障害や経路のレベルを低くしても同じだった。

このような状態でシーズンを終わってしまったため、今後の方針として、まず90cm、100cmくらいの障害を飛んでも落ち着いた状態を保てるようにすること、また競技場の雰囲気の中である程度興奮するのは仕方のないことなので、そのような興奮した状態でも騎手の指示に注意を向けられるようにすることを考えた。そして冬期間のブランクで試合に対するコンプレックスがなくなってくれば良いのだがと神頼み的なことも考えていた。

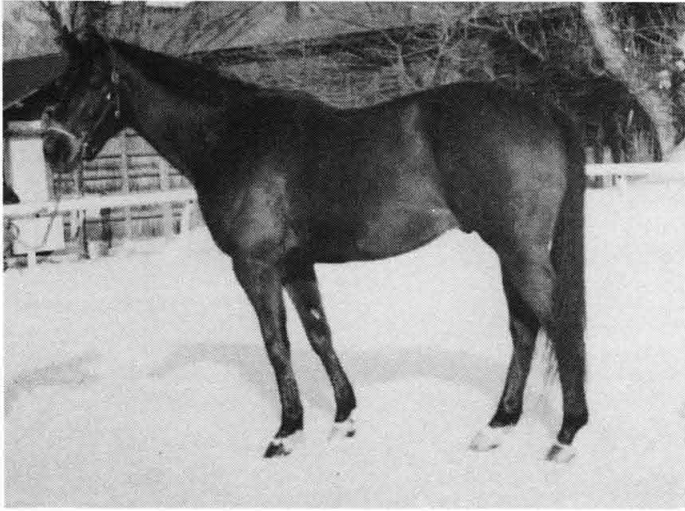
このような状況で来シーズンに向けての調教を続けていた11月頃、夏に入ってきた新馬の調教者がなかなか決まらず僕にやってほしいという話があり、色々問題はあったが結局④の調教の継続はあきらめざるをえなくなった。正直言って、もし一番重大な問題だった試合に対するコンプレックスが運良く取り除かれたとしても、④を全日学を狙えるような馬にまで育てられる自信はなかったのだが、もしかしたらという気持ちもあり、とりあえず来シーズン1回でもいいから試合でどの様な状態になるのか試してみたい気がしていた。しかし一度調教がこじれた馬をなおすのよりは新馬を初めから調教した方がはやりという考え方に基けば仕方のないことだった。

調教報告としては担当外だが、④のその後の身の振り方についても書いておくと、現役としては、

僕の調教をあきらめると決まれば即、或いは春になるのを待って離厩という考えだったようで僕としても辛いところだったが、冬合宿で試験的に1年生にやらせてみたところ、予想以上に練習馬としての存在価値があることが分かり一命を取り留めている。僕としては、それならばもう壊してしまってもいい馬なのだから、結果の良し悪しは考えずに誰か下級生に自分で考えさせて思いきりやらせてみればきっとその経験がその次に主戦馬に乗るときに役に立つと思った。2年目或いは3年目の9月に1頭の馬を任されて、馬の能力は十分にあるのに、人もそこそこに乗れる技術を持っているのに、いざ馬を任されると今まで言われた事や与えられた事しかしてきていないために、馬を調教していくのに必要な知識がなく、そのことが原因で失敗した例を何度か見てきているだけに、以前からこの気持ちはかなり強く持っていた。僕の場合は3年のときに練習馬だった明日檜（@）で思い切りやらせてもらえた経験があったからこそ北銀（@）に乗ったときにそこそこの結果を出せたのだと思っていることもある。しかしクラブの責任者としてしかたのないことなのかもしれないが、3年生としては考え方が保守的になってしまうようでこの意見は受け入れられず、現在は調教をする練習の為の練習馬ではなく、完全に練習のみを目的とした練習馬として働いている。

最後に、僕の考えはくどいほど伝えたし、それを考慮に入れてもらった上での決断だったと思うのでもうあきらめているが、@は自分達の代で前田さんに調教をお願いし、その前田さんから僕に任された馬だっただけに何とかしたかった。しかしこうなってしまったのも僕の知識と技量の不足が原因だと思うと逆に現役の皆さんに申し訳なく思う次第である。この経験を現在調教している新馬に生かせたらと思っている。

ハギノレジェンド号



騙 サラ 鹿毛
昭和62年4月10日生
浦河郡浦河町産
父 ハギノカムイオー
母 ハギノコトブキ
競争名 ハギノレジェンド
愛称 レジェ

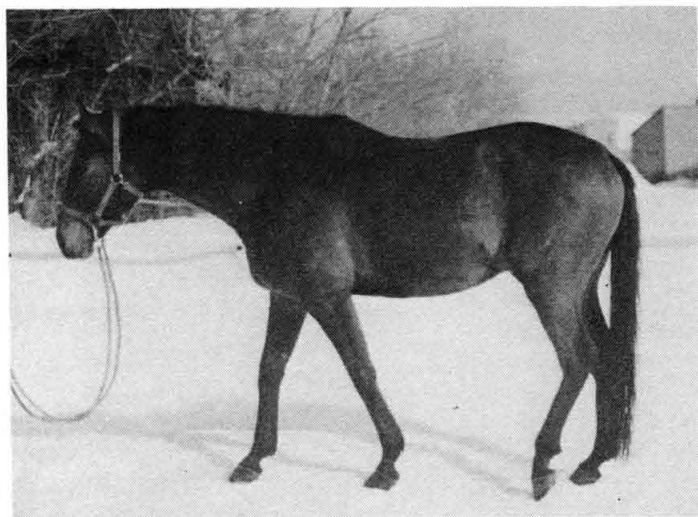
ハギノレジェンド号新馬紹介

松原 貴史

北大にきた当初、どんな暴れ馬がやってくるのだろうと思いましたが、馬運車から降り、落ち着き払った様子で、馬場を常足している彼を見ると、安心してしまいました。新馬は、もっと扱いづらいものだという、勝手な思い込みがあり、気軽な気持ちになった。なんておとなしい馬なのだ！これが第一印象である。この馬が北大に来てから、ずっと僕が世話をしているわけですが、徐々に、こいつの考えていることが分かってきました。普段はおとなしいが、いざ、馬が驚いたときの対処の仕方、これの重大さがよく理解できた。馬は非常に臆病者であり、それを第一に考えてやらないといけないことを……。いつでも、馬の気持ちになってやること。僕は、この馬の馬責について、勉強させられた。

自分のことはこれくらいにして、この馬は、競走馬時代は、GⅢ3着など、現在活躍している競走馬と共に闘ってきた、名の知れた良血馬である。しかし、環境慣れは、極めて良いと思う。馬が納得すれば、もう安心である。右前が屈腱症であり、現在では、ほぼ大丈夫だと言われている。まだ本格的に調教を始めてなく、どんな馬であるか、全く分からない状態ではあるが、僕はこいつの潜在能力のすごさを確信している。絶対に、今後の北大のエース馬として育ててもらいたい。オレはおまえしかいないと思っている。NHKで、君の雄姿を全国の人々に見せてやれ！！

北鷲号



騙 ア・ア 鹿毛
昭和62年4月26日生
沙流郡平取町
父 エビタカラ
母 マイティスカレー
競争名 ライトセカンド
愛称 ライト、しゅう

北鷲号新馬紹介

西村 雅夫

競走馬時代アラブのレースでは30戦ほど走り、1着4回、2着11回と安定した成績を残してきた彼ですが、右前肢屈腱炎という事で、札幌の中央開催で使われた直後の6月23日、JRAの本城さんの紹介で入厩しました。入厩直後は落ち着きなく、泣いてばかりで、又、ハングリーなためかイライラ、セカセカしており、先に入ったハギノレジェンドに比べ、部員の人気も注目度も二番目（セカンド?）でしたが、最近はすっかり北大の空気に溶け込み、愛想も出てきました。引退の原因となった屈腱炎も回復し、騎乗を開始しています。素直で頭がいい彼は、物覚えも早く、試合デビューも近いうちに果たせそうです。

ところで彼の競走馬時代の名はライトセカンド。この妙な名前（お父さんのエビタカラも相当変な名ですが）のおかげで、部員の彼に対する呼び名も「ライト」「セカンド」「セカ!」とみんな勝手に呼んでいます。北大でアラブ種の「ライト」といえば全日学優勝馬のスターライトですが、そこまで近づけるか、はたまた追い抜けるか、当人（馬）はそんな期待をよそに、ポケットとする毎日たぶん何のプレッシャーも感じず、成長していくことでしょう。北鷲と名前も決まり、あとは飛び立つのみ、です。

北 涼 号 離 厩 報 告



飯田 雅代

結局、スプリングにとって最高のパートナーになることが出来なかった。1年間という限られた年月の中で私が学んだことは本当にたくさんあったけれども、スプリングには何も教えて上げることが出来なかった。だからこの原稿を書こうにも気が重く、でもそんな気持ちは時間が解決してくれるわけでは決していないということがわかってきたのでスプリングとの1年間を騎乗日誌をたどりながら書き綴ることにしました。

9月にスプリングとのコンビが決まり、前の騎乗者の清水姉に引き継ぎしてもらい、この馬のボルテージを上げることの難しさを思い知らされた。山下杯では、清水姉に騎乗してもらいこれから自分の目指そうとするところを見極めようと思っていたが、結局ちょっとしたスキでも与えるとすぐにボルテージが落ちてしまい十分飛べる能力はある80cmのドラムで3拒止。日頃のフラットワークの中で短時間でも人間に対して本気で集中させることを教えなければならないことを痛感した。

実際に自分で騎乗するようになってこの集中させることの難しさがよくわかる。運動にメリハリをつけるにはまず馬の体が十分にほぐれていないとできない。柔軟運動をするつもりで体を自由に使わせ、前によくでるようになり首を自然に下に下げ後軀をしっかり使うようになれば準備体操は十分できたということになる。旨くいかないとき（大抵はヒトが馬上で知らぬ間にジャマをしていることが多い）は、調馬索運動が非常に有効だった。十分に馬が伸びた運動をしたところで今度はつめて、上へもっていく運動へとときかえなければならない。ここがスプリングにとって1番大切なところだった。つめた状態で躍動感のあるリズムのある運動が出来れば伸長も速やかにできるし、何よりも騎乗者の集中力を養うことになるからだ。障害への素直なアプローチへもつながり障害の異常なほどの反抗もなくなるはずだ。そう思ってこのことに半年以上の年月を費やした。OBにみていただく機会があるときもとにかくこのフラットワーク中心の運動を指導してもらった。半澤杯

前になり雪もとけ障害を徐々に始めた頃、急に前からもっていた左前肢管骨瘤が熱をもちだした。腱鞘炎も併発しており跛行もしだした。太田さん、野中兄にはいつも気にかけていただき蹄鉄と蹄の間に負担を軽くするためのゴムを入れてもらったり、保温バンテージ、水冷などつくしたがなかなかすっきりとひいてくれず、シーズン始まってからは、馬体と相談しながら練習せざるをえなくなってしまった。6月以降の試合をこなして北日に望むべきなのに、試合をステップにするどころか思った通りに練習時間もとれず人間ばかり焦ってムリな要求をしてしまったのかも知れない。春までに繰り返してやってきた練習が障害へとつながらなかった。馬にいやなものはいやだと拒止させるスキを与えてしまいそれを押し切って前に出す技術が私にはなかった。

北凜号は下級生が乗っても素直にうごき日常の彼女の生活は非常に穏便で扱いやすく裏戸を夜な夜な蹴っとばしてチーフ、サブチーフを泣かせる以外は本当にかわいい馬です。今はモモセさんのご好意で引き取っていただき乗馬クラブの馬として人気者になっています。

ブリ、北大で活躍させることが出来なくて本当にごめん。



北星乗馬クラブ

〒061-22 札幌市南区白川1814番地3

TEL (011) 596-2407

北 飛 号 離 厩 報 告



祝前 伸光

入厩後のようすは部報34号に新馬紹介として岡田監督がお書きになっている。監督の初期調教ののち、平成元年卒部の高野薫先輩が1年あまり調教を続けられた。当時の部報担当者のずさんな編集態度のおかげで、このときの高野先輩の調教報告は部報には掲載されていない。その後の伊藤顕治先輩、野田英文先輩の調教に関してはそれぞれ部報の36号、37号掲載の調教報告にあるとおりである。平成4年9月より約1年祝前が騎乗を担当したので、いささか簡単ではあるがその報告をさせて頂き、競技成績とあわせて離厩報告としたい。

1. 目標

- ①北日本学生3DAY-EVENT完走
- ②2年生の障害競技に使えるようにすること

主戦馬になりそうには思えなかったが、まるっきり練習に使えない新馬より、練習に使いながらも調教を進め、下級生の競技や3DAYに使えるようになれば、そのほうがいいのではないと思った。

2. 練習内容

- ①コンビネーションを中心とした飛越練習
- ②障害経路やクロスカントリー走行上最低限必要となる基本的な約束ごとの確立

踏み切りが遠く飛越の弾道も低いので、ややせまめの間歩のコンビネーションをつくり、冬季間は毎日のように練習した。準備運動を十分に行い、障害へは向けたら飛ぶという状態にして、1年

生や2年生を乗せて放棄手綱で練習させた。シーズン中はこのほかにも駈歩での飛越や経路まわりも多く取り入れた。コンビネーションでの練習ではリズムカルに飛ぶことを憶えていたが、単独障害では踏み切りが安定せず、幅のあるオクサーではしばしば拒止された。フラットワークでは脚と半減脚に対する反応を特に重視したほかはあまり多くのことを要求しなかったのだが、この二つさえも最後まで良くわからせることは出来なかった。

3. 結果

- ①シーズン中の各競技では2年生どころか自分や他の4年生が乗ってもL級でほとんど失権
- ②北日本学生3DAY-EVENTでは耐久で失権

当初の予定としては、各競技会ではL級に祝前と2年生1、2名に使うことを考えていたが、東北大との対抗戦で80までの経路に1年生2人使った所、1人がやっとゴール、もう1人は全くお話しにならず3反し、さっそく計画に狂いが生じてきたことを感じた。特に冬季の練習が計画どおり進んでいただけに、自分の騎手に対する指導力のなさを痛感したと共に調教者としての自信もすっかり失った（この時は北駿も失権しており、ダブルパンチであった）。半沢杯では、そんな事情もあって2年生のエントリーはやめ、L級に祝前と永田、新人新馬には3年生に一鞍使った。いずれも満点であった。5月末に帯広畜産大でクロスカントリーの馴致と北日余力の経路まわり、ノーザンホースパークで障害経路まわりを行った。クロスカントリーでは下級生を乗せると、止まったり逃げたりでお話しにならなかったが、少なくとも自分が騎乗するかぎりはずっと反抗することもなかったし、余力の経路も120の経路は初挑戦であったが4反抗でまわることができ、北日の3DAYへの希望を何とかつなげたように思った。ノーザンホースパークでの経路まわりも、自馬大の2週間前にして110の経路を落下のみでゴールできた。しかし自馬大ではL級に祝前の2鞍と池田に1鞍使ったうちの1回は失権、後2回もやっとゴールというありさまで、競技の難しさも感じた。6月末ノーザンホースパークで北日の障害経路まわりを酪農学園大と合同で行った。130のコースでは無理があるので10cmダウンのコースでまわり、中盤のオクサーでてこずりトータル5反抗ではあったが、後半は落下のみで、この時も少しずつは良くなっているなど実感した。7月の地区大会でもやはり2年生のエントリーはやめ、L級に祝前が2回のほか横暮と永田にも1鞍ずつ頼んで乗ってもらった。前日にフレンドシップジャンプを行ったので出場したが、3、4回出たが、1番障害さえろくに飛べなかった。本番も3鞍失権し永田がようやく最下位でゴールしただけであった。北日3DAY耐久ではピアノバンケットで失権した後も走行を続け、結局2箇所での3反抗を含めトータル10反抗。余力では3番で失権。2年生の新人新馬も失権。この時点で私の仕事は失敗に終わった。国体予選にはすでにエントリーしてあったので、最後の競技と思い出場した。ダービー競技で祝前は2反1落馬、永田が1反1落で4位であった。

今にして思えば、北熊を自分の手でなんとか出来ると思ったのがそもそもの思い上がった勘違いで、見通しや判断も常に甘く、調教者として失格。結局乗り手の1年間のツケを払わされる羽目になった馬の方には迷惑な話であろう。

北郷号競技成績

〈平成元年〉	10. 21, 22	障害選手権	L級	高野	0	5位
〈平成2年〉	5. 5	半沢杯	3級馬場	伊藤	225(32.6%)	21位
			新人新馬	伊藤	-4.5	13位
	5. 20	ノーザンホースパークステークス	初級障害	伊藤	E	
	6. 23, 24	自馬大	新馬障害	伊藤	-20	20位
	7. 21, 22	地区大会	3級馬場	伊藤	E	
			L級	伊藤	0	10位
			M級C	伊藤	E	
	8. 8-12	北日本学生	3級馬場	伊藤	295(42.8%)	13位
			新人新馬	伊藤	E	
	8. 25, 26	道体	L級	伊藤	E	
	9. 16	馬場馬術大会	3級	高村	285(41.3%)	12位
	10. 6, 7	障害選手権	L級	野田	E	
〈平成3年〉	5. 5	半沢杯	L級	野田	-4	23位
	6. 8, 9	自馬大	2課目馬場	野田		22位
			L級	野田	-11	24位
	7. 13, 14	地区大会	L級	野田	E	
			L級	高村	E	
			2課目馬場	野田		9位
	8. 8-12	北日本学生	3DAY-EVENT	野田	E	
〈平成4年〉	5. 4	半沢杯	L級	祝前	0	3位
			L級	永田	0	9位
			2課目馬場	祝前	333(44.4%)	22位
	5. 23, 24	馬場馬術大会	2課目馬場	祝前	342(45.6%)	24位
	6. 13, 14	自馬大	L級	祝前	E	
			L級(S&H)	祝前	179"54	27位
			L級(S&H)	池田	119"15	24位
	7. 18, 19	地区大会	L級	祝前	E	
			L級	横幕	E	
			L級(S&H)	祝前	E	
			L級(S&H)	永田	264"67	33位
	8. 6-10	北日本学生	3DAY-EVENT	祝前	E	
	8. 15, 16	道体	ダービー	祝前	-17	10位
			ダービー	永田	-7	4位

アブサロム号離厩報告



荒瀬 匡宗

昭和60年3月27日、ノーザンホースパークより入厩しました。有名なリアルシャダイを父にもつ、良血のサラブレッドです。下級生の練習馬として使えればと考えていたようですが、入厩当時は、ただただ走り回って、下級生はほとんど乗れませんでした。

1月に突然僕が乗ることになりましたが、相変わらず走り回って、下級生を乗せるわけにもいかず、他の上級生も手が空いていなかったのも、ほとんど僕が一人で乗っていました。毎日、走られては止め、走られては止めの繰り返しで、他の馬に迷惑ばかりかけていました。

それでも、3月くらいには、簡単なコンビネーションは飛べるようになり、4月には新入生を乗せて速歩の練習もしました。その後もだんだん落ち着いて、5、6月には馬場で走ることもほとんどなくなりました。

障害は、どうしても中身の入ったものを飛ばすことができず、成績を残すことはできませんでした。

アブサロムに乗って北日に出ようと思いつきながらも、心の中に、僕に課せられた責任は競技で勝つことではなく、うちの馬場でおとなしく下級生を乗せることなのだ、という考えがあったように思います。この甘えが、この馬の運命を決めてしまったようです。

競技には勝てないために練習馬と呼ばれる馬の存在を認めることが、正しいか否か断定することは無意味でしょう。しかし、いずれの状況であっても、この馬をこのクラブに残れるようにできなかったことは深く反省しています。

僕がアブサロムにしてやれることは、僕自身が来年他の馬で成績を残し、それは、一年間アブサロムに乗っていたからこそできたのだ、ということを示すことくらいでしょうか。

新飼料庫建設報告

長い間、部の厩舎道具、飼料置場として役立ってきた飼料庫でしたが、その間も風雨や雪にさらされ、雨漏りが激しく、壁の板も腐って、床も抜けている状態でした。近々大規模な改修工事を、と考えていた矢先の事、特別後援会員の佐合さんの援助で、新たな飼料庫建設の運びとなりました。

その飼料庫建設のあたっては、旧飼料庫の解体や、新飼料庫の土台づくりなど、全日学とちょうど重なり人数も少なかったのですが、全て部員の手で行うなど、自分たちの飼料庫だという思い入れが強いものとなりました。また飼料庫の完成まで空き馬房や時には馬運車を飼料置き場として使うなどやりくりの苦労はあったものの、12月初旬には無事外装が出来上がり、電気配線などの工事の後12月20日落成式を迎えることができました。新しい飼料庫は高床構造で切り乾草庫もあり、一部二階建てという立派なものです。部員一同この美しさを保ち、有効に利用して行くつもりです。

最後になりましたが、佐合さんには多額の援助だけでなく業者の手配など全て御尽力いただきまして、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。



東京OB会だより

札幌は今頃まっ白な雪に覆われ、とてもきれいな景色を見せていることと思います。東京方面では暖冬の影響かこの冬は一度も雪を見ておらず少々寂しい気がしております。

OBの皆さん、現役の諸君いかにお過ごしでしょうか。今年度の東京OB会の活動をご報告致します。

1. 平成4年度の活動報告。

1、春の乗馬会、観桜会《平成4年4月26日、馬事公苑、出席OB32名

家族・友人を合わせ約55名》

今年は好天のもと、やや桜が散ってはいましたが、頭上には桜、地面の上にもまた桜といった中で開催することが出来ました。馬術部のOBに限らず、皆で楽しもうという主旨どうり、OBのご友人夫妻や飛び入りの参加も有り、また札幌からいらっしゃった岡田監督も参加されて大変賑わい、皆でラム肉に舌鼓を打ちました。

2、根岸競馬記念公苑見学ツアー《平成4年10月25日、根岸競馬記念公苑、

出席OB19名、家族・友人を合わせ29名》

心地よい秋空の下、馬についての知識を深めたいという皆の希望がかないました。ここは馬全般の資料が充実していることは勿論、緑に囲まれた小高い丘の上にあり、東京近郊にもこんなに素晴らしい場所があったのかと思いました。

博物館の館員の方、千田さん、千葉さんありがとうございました。

見学会の後は横浜中華街に移動し、皆で中華料理を食べながら、馬の話をしたり、いろんな楽しい話が飛び出したりで、和やかなうちに会が進みました。

3、現役部員との懇親会《平成4年11月14日、馬事公苑、出席OB19名、

現役22名》

OBからの激励の言葉、現役部員の若々しい決意が続き、互いに刺激のある交流となりました。

現役の皆さん、また来年も晴れ晴れとした顔で来てください。

4、平成5年総会・新年会《平成5年2月13日、レストラン高松》

来月13日、例年どうり開催する予定です。

今年の年間行事、現役への援助等についての、活発な意見交換が期待されます。

5、現役への援助

今回はいくつかの案があった中、現金で援助しましたが、部員同士相談した結果、北大水産学部馬術部の障害物を購入しました。

東京OB会では、現役部員の活動を物心ともに出来る限り援助していく所存です

ので、ご意見・ご要望がありましたら是非お知らせください。

II. 事務局より

去年名越さんより事務局を引き継いで、何とか1年間無事会を運営することが出来ました。今年の会合は幸運にもすべて良い天気恵まれ、多くのOBの方々及びそのご家族ご友人の方と楽しく集うことが出来ました。

東京OB会では、新年会（2月）、観桜会（4～5月）、現役との懇親会（全日学の開催日）を年3回の恒例行事として開催しております。今後ともたくさんのOBの方々の参加でより良い会にしたいと思っておりますので、関東圏にお住まいの方はもちろん、それ以外の地域の方も上京の機会等ありましたらお気軽に参加下さいますようお願い致します。関東圏以外にお住まいの方もご一報下されば案内状をお送りします。また関東に転勤などで移られる方がおられましたらご連絡ください。

北大馬術部東京OB会

会 長 東園 基文

幹事長 樋口 正明

（記 事務局 平山、平石）



50才からのカムバック

近藤 喜十郎

《乗り始めた動機》

学生時代は殆ど生活の大部分だった馬との生活が、いざ卒業して社会に入ってしまうと、大抵馬と無縁の毎日となる。中心がポッキリ抜けてしまい、実社会での活動で時間的な部分は埋められるが、心と体は穴の空いたままとなる。新聞やテレビや雑誌等で馬の話を見聞きすると真っ先に眼が行ってしまうのはそのせいかも知れない。

年齢と共に結婚、仕事、育児、教育、財産作りと次々にやらねばならない事がでてきた。今でもその大部分は続いているのだが、自分の年齢を平均寿命と比べてみると、峠を登りきり下り坂にいる。振り返る暇もない日々が多かったが、ここまでの人生の中でキラキラ輝いている時は馬上にあった時だったと気付く。

《きっかけ》

これからは馬に出来るだけ接しようと考えていた所に帯広の高野君から誘いがきた。

彼はとくに会社とともに帯広に移り自馬を持っている。なんでも同年代に卒業した畜大の仲間が同窓会をするから一緒に加わらないかという事だ。もう現役以来会っていない連中ばかりなので懐かしく、取るものもとらずあえず遠路帯広へ向かう。

畜大の厩舎は昔のままだった。柱や外観はそのままでも内部を変えたとか、30年前に戻った様な雰囲気だった。集まった仲間、久保田、鍋谷、前田、飯島、萩原、吉井、尾上君は懐かしい顔ばかり。2泊3日の馬合宿は文字どおり朝から夕方まで鞍上にいた。多い時は一日8鞍乗る。よく乗れたものと後から感心してしまう。

最終日に北大OB、畜大OB、畜大現役の3チームで小障害の試合をする。本当に何十年ぶりだ。形式は現役の時と同じ貸与馬、しだいに血がうずいて来た。8障害程を馬に乗せて連れて行ってもらったようだったが体にはいつまでも飛躍の感覚が残る。

思った以上に体は固くなっている。なかなか戻ってこない感覚にイライラしたり年齢の恐ろしさにガクゼンとしたりの日々が続いた。

《再度挑戦》

障害がだめならと言うわけではないが、馬場の試合にでる機会をもらう。どこまで出来るかわからないが、とにかく馬に頼んでやってみる。途中経路を忘れかかったりしていささかあわてた所もあったが何とか運動をこなした。一番易しい第二課目だったが何と4位で入賞していた。レベルが低かろうととりあえず賞状はもらった。

勝手なものでひとつはずみがつくと積極的になるものだ。時間と金がかかったが足繁く三重県まで通う。

〈優勝する〉

乗りだして8カ月くらいだったろうか、東海地区のホースショウが行われるので、その新人戦に出る事になった。今回も2頭乗ることにする。騎乗する馬の1頭はヨーロッパ産で700万とか、小障害にはもったいないぐらいだ。逆に還って来ないと笑い者になる。出場馬も多く、障害は少ないのでタイムレースの様子だ。この頃になると大分雰囲気にも慣れ、体と心があまり離れなくなった。1頭目をまず満点で還す。一安心。ところが一秒早く回った馬が出たので、2頭目はもう障害正面にきちんと向けて飛ぶというセオリーを無視して最短、最速を目指す。見事、高価な馬のせいか期待に応えてくれた。結果は優勝と三位をとった。金メダルならぬ金色メダルと銅色メダルをもたらした時は暑い夏、森林公園での七帝戦を優勝した時の事を思い出した。

〈遠征する〉

まだまだやれるという自信がついたのか、友人から鹿児島での障害大会への誘いを簡単に乗る。帯広や鹿児島とはまさに日本縦断で馬の試合を経験することになる。馬は向こうで用意してくれ、殆ど貸与馬の試合と同じだ。入賞は逃したが満点で還ることが出来た。

その後、再び三重県で馬場の試合に出て、前とは違った馬で4位入賞。いよいよ本格的に自馬を持つ事を考えるようになった。

〈胆石で倒れる〉

好事魔多し、世の中はそううまくいかない。ある日突然、急激な腹痛が襲い、七転八倒。検査の結果胆石と分かる。ただちに騎乗禁止が言い渡される。友人はありがたいもの、八木橋君がどっさり治療等の資料をくれる。学生時代、4年目の春に札幌馬術大会の複合で優勝し、いよいよ国体予選と張り切った時腰痛で入院。国体出場は夢と消えたが今回も平成6年愛知国体に向かっての準備は無理なようだ。しかし、年輪からか経験からか、学生時代のように絶望感に浸る事なく「とりあえずおとなしくして」と、「機会はまた思っていれば来る」という気持ちが育っている。

〈見る事と経験する事〉

連日騎乗することはしばらく無理なようなので、体と相談しながら乗ることにした。結構東京に出る機会が多い。堀川先輩に頼み東京乗馬クラブで乗せてもらっている。やはり馬も回りもすべて違う。高浪先生の騎乗ぶり、松平氏を始め、クラブの人々の操作は大変勉強になる。

歩みは遅いかもしれないが少しずつ技術を蓄積して行こうとしている今日この頃である。



卒部にあたって

飯田 雅代

北大に入学してから1ヶ月の間、馬場の横を通り過ぎながら放牧されている馬をいつも見ていた。あんなに大きくて、それでいて、やさしそうな目を持った生き物に近づいてみたい。そんな漠然としたあこがれから馬術部の生活が始まりました。

入部はしたものの、獣医になる夢は捨てきれずにクラブと学校が両立できずに、いつも、こんなことではいけない、他の部員の迷惑になるのだから中途半端なことはやめようと、何度思ったことかわかりません。しかし馬に接しているうちに馬の不思議な魅力にとりつかれ、今思えば何とも勝手な考えですが、こんなに馬が好きなんだから、とにかく自分なりの方法で続けてやろうと、決心してしまったおかげで何とか卒部までたどりつくことができました。

今、また入部前と同様に外から馬術部を見る立場になったわけですが、この3年半の年月馬に接するという貴重な体験ができたおかげで、馬がただのあこがれの対象ではなく人の気持ちを敏感に察し信頼関係を大事にするスポーツのパートナーになりえる本当に素晴らしい生き物であることがわかりました。

今回の卒部生の中では、最も怪我や病気が多い問題児であったにもかかわらず、先輩、同輩、後輩のささえにより何とか卒部できました。本当にありがとうございました。

それから最後になりましたが、馬匹という役職の中で馬の健康管理にもひととき考えさせられる1年でしたが、どんなに小さいことでもいつも真剣に相談にのってくださった太田さん、野中さん、本当にお世話になりました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

池田 直也

入学してから今日までの年月はやはり短かった。今回も団体を組んで全日学に出場することはできなかったし、自分も、権利を取れなかったばかりか、乗ってきた馬の状態を下げてしまった。九月になって部活から解放されて、いろいろなことを思い出したり、考えたりした。自分がこの四年間で得たものはたくさんあった。しかし部のために何もできなかった、ということを強く意識してしまい、ずいぶん辛かった。北日が終わったときもそうだったけど、悔しいとかよりも、たいへん虚ろな気分になってしまい、それこそ無気力状態だったと思う。

そのような状態でこの文を書かなければならないのは残念なのだが、少しでも書いてみる。九月の役員交代コンパのときに長屋さんから「情けない」という言葉を頂いた。その一番の理由は「熱意が感じられなかった」事であるそうだ。現役として、そんなつもりはなかったはずだが、やめてしまってから今の練習などを見ながら振り返ってみて、自分なりに思うところはある。上級生として部をひっぱって行くとき一番必要なのは自分達がここで何をするつもりなのかをはっきりさせることであろう。それは同級生にも、後輩にも理解されるようにならなければ意味がない。そのためには、ミーティングも必要だろうし、ふだんから議論のできるくらいの構えが必要だろう。自

分もそうなのだろうが、部員の多くは「議論」することを避けようとしているのではないだろうか。あるいは人の意見に反論できるだけの自分なりの考えが作れないのかもしれない。そうなれば団体の意識も希薄になるだろうし、誰が見たって何かを目指している部にはならないだろう。そうなれば、部の外からみて、「熱意がない」と取られてしまうのではないか。自分のことを棚に上げて言うのも何だが、上級生も下級生も自分の考えをしっかりと持ってやっていかなければならない。

全然関係ない話だが、現在でもやはりバイトはかなりしなければならない。授業との兼ね合いで土日以外のバイトはどうしてもいく人が偏ってしまうが、最近、バイトによく行く下級生が不満を口に出すことが多い。それはバイトにあまり行かない人（特に女子）に対してだったり、当番を楽にして欲しいことだったり色々なのだが、考えさせられることが多い。バイトは大事な活動であって、行く人はそれなりの自覚を持ってやって欲しいし、多いからといっても何も自分一人だけがバイトに行っている訳ではないのだから、文句という形で口に出して欲しくはない。しかしバイトに対して無関心な部員の数やその度合いが増えたこともこれまた事実であろう。部員が増えて、バイトに行けない人でもやっていける部活になったのはいいことだと思うが、それが逆に無関心でいることができる状況を作り出している。これはどうもバイトに限らないようで、役職についてもいえるようだ。自分に与えられた仕事に満足してはいけない。練習でももっと切磋琢磨してやらなければいけないし、部活のあらゆる面に積極的に参加していくべきで、そういう面で今の部は甘えが非常に強いと思う。またそれが騎乗にまで及ばないようにして欲しい。

何だか支離滅裂なことを書いてきましたが、一つの団体としてやるからには、人間同士の関係を強めることは非常に大事なはず。ただの「なかよしクラブ」にならないためにもあらゆる面で自分が甘えていないかが大事だと思う。その上に騎乗技術、人のメンタルトレーニングなどを加えて、全日学での団体での出場が夢物語にならないようなクラブにして欲しいと思う。

本当はこんな事の書ける結果も残せず、おわびの文章でも載せなければならないところです。岡田監督、斎藤部長始め多くの諸先輩の方々、どうもありがとうございました。現役の方々、健闘を祈ります。頑張ってください。やっぱり結果が残せてなんぼの世界だと思うなぁ。

祝前 伸光

卒業と違って、単位をそろえる必要もなく、僕みたいな最低な人間でも4年間いただけで、卒部したことになります。むしろ自意識過剰と思われるかもしれませんが、いろいろな人に協力していただいたのに、果たすべき役割を果たせず悔やむばかりです。しかしこれからの3年間は、とても楽しみです。自分がちょっとでもその選手育成にかかわった代が次々と活躍してくれるでしょう。一生懸命やっている彼らの努力がぜひむくわれてほしいものです。

という巡り合わせか、卒部とほぼ同時に、新馬の調教に携わることになりました。優秀な馬を台なしにしたことはあっても、調教はしたことがありません。自分にどれほどのことが出来るかわかりませんが、今度こそまじめにやります。

ちょっとした軽い気持ちでのぞいてみた馬術講習会。気づいたら、もう4年も経ってしまった。

現在、馬術部と離れてしまっているせいか、なんだかすべてのことが妙になつかしく感じます。できればもう一度、あの生活に戻ってみたいような気がします。決して2度とは経験できないのが現実であり、また、戻れたとしても、体と気持ちはついて行けないような気がします。

今となれば、あの時〇〇〇しとけばよかったなぁと思うことが山ほどあります。それゆえに、現役部員のみなさん、私のように後悔しないように、いろいろなことを経験しておいてください。

最後になりましたが、斎藤先生、岡田監督、OBのみなさん、同輩のみんな、また後輩のみなさん、4年間お世話になり本当にどうもありがとうございました。心から感謝します。

徳本 龍志

他人行儀でよそよそしくて、少し照れ臭そうに小鼻などすすって、伏し目がちに素っ気なく、「じゃ、またいつか」などと、短い台詞を吐いて別れを告げる。相手の振る手は背中に強く感じるが、決して振り返らず、遠くの景色を見たり見なかったり、ただひたすら時間の過ぎるのを待つばかり。

別れの季節というのは、自分のような感傷的人間にとって、もっとも苦手とするところである。冬が終われば、至極当然のように春がきて、また様々な人達と別れなければならないのだろう。

しかし今頭に浮かぶのは、それは人ではなく、クラウンという名のサラブレッド。さていったいどんな別れ方をしようか。彼の額の白い星を、コツコツと2回ほど叩いて、「あばよ」と去って行くのも良い。あるいは、首の根をひしと抱き締め、ウルウルするのも情がある。しかし彼は何とも思っていないから、もぞもぞと鼻を擦り付けて人參をねだることだろう。それではこちらの立場がないから、彼の眼に、たっぷりの目薬でもさし込んでやろうか。とにかくそれなりの別れをしなければ、こちらの気持ちが納まらない。それが、感傷的人間の役所。そしてそれだけの思いがこの馬にはあった。

最初に出会ったのは、僕が函館に来た2年の秋。むっつりとして耳を伏せ、北大の馬に比べれば、相性は悪いな、と思った。性格は温厚。プライドも余り高くなく、ただ食い意地の張っている、おとなしい馬であった。それから約2年のつき合いは、長いといえば良いのか、短いといえば良いのか。大喧嘩をしたこともあった。その夜はお互いに落ち込んだ。次の日は、牧場までの道をいつもより強くアクセルを踏み、彼も僕の車の音を聞きつけると、高いいなないた。朝、夕、12kmの距離は、しんどいことも多かったが、クラウンの眼は、くじけそうな僕を「まだ行ける」という気持ちにさせてくれた。

技術的なことは勘弁してほしい。実際、本学を含めた後輩たちに、何も残せなかったのは残念である。いろんなところで馬に乗せてもらい、自分なりの道はしっかりとつかんだつもりだが、実績がなければ何もでてこない。否定されればそれまでである。だから誰も僕とクラウンを、名コンビだとは言ってくれないだろう。でもそれはそれで良いではないか。自分が強くそう思っているのだから。誰も彼も、馬を乗り終えたときの満足感にさしたる違いはないと思う。勝った、負けたの違いはあれど、誰もが、ソウ、選手になれず裏方に回ったものまでが、等分の満足を得てこそ、そこ

に、クラブの本来の姿があるのだと思う。

はっはっは。甘い、甘い。それじゃ強くならん。北大勝つべし。石にかじりついてでも勝ちをもぎ取れ。何て言葉も聞こえてくる。しかしそれはもっともな事。現役だってそれなりに分かっているはず。ここでは敢えて口をはさまず、下手糞は下手糞なりの言葉に止めておこう。

そして4年目の春。あの事件は突然に起こった。まるで自分の子供が誰かに拉致されたかのような気持ちで、まず最初にクラウンの無事を祈った。そのときはクラウンが高村の手でどうされようと、手の届かぬところにあったし、最悪の場合肉にされても不思議はなかった。頭の中は悪い予感が次々と錯綜した。しかしクラウンは、高村の牧場でのはほんとと放牧されていた。一時のパニックが過ぎ去った。そして頭がいくらかの冷静さを取り戻した時初めて僕は、自分がおそらくこのまま北日に出れないであろう事を理解した。その時は悔しくて悔しくて、布団を握り締めて泣いた。

時が過ぎ、我々の努力が実ってクラウンと再会したのは、北日が終わってから二カ月もたってからであった。再会の感激はひとしおで、誰彼となく有り難うを言いたい気持ちだった。

そして間もなく、そのクラウンとの別れがやって来る。いつもと変わらぬキョトンとした眼には、皺も一つ増えた。馬齢10才。まだまだこれから。水産の後輩には、彼とともに大活躍をしてほしいと切に思う。

北日に出れなかったことは残念だが、4年間に悔いはない。そして最後に、我と彼とを会わせしめたすべてのものに感謝する。

卒部に 当たって砕け散って - - -

ながた おさむ

勝てるはずや、上手くなれるはずや、俺は主将としてみんなを引っ張って行く力があるはずや、北日本の他の勢力見たら団体の権利とれるはずや・・・

そう思うのは簡単やし、4年間そう思いながら部を続けていくのも簡単、思った事を実現せんと、やってなかった方がよかったかもしれへん。

横幕 宏幸

男が弓を引いたとき

女は愛を語った

月は銀色に森を照らし

そして、真実は彼方へと去りゆく・・・

“若かりし日”



《4年目》



左より 池田兄、永田兄、飯田姉、祝前兄、横幕兄

《3年目》



左より 船越姉と北遥号、三浦姉と北皇子号、岡部姉と北玲号、
八木兄と北銀号、荒瀬兄とグレンエトワール号

《2年目》



上段左より 黒崎兄、西村兄 下段左より 深部姉、松原兄

《1年目》



上段左より 児玉、荒瀬兄、近藤先生、森沢、竹田、米家、大原、
谷地、後藤、保坂、河合

下段左より 三浦姉、溝井、会田、鎗木、田中、鶴見、杉野、西田

自己・他己紹介

☆ 4 年 目

飯田 雅代

1 年生で常歩

2 年生で速歩

3 年生で駆歩

4 年生で競歩

是、我4年間で取得した技術なり

ではなくて、体感した1年間の長さでした。



北凛とのコンビ、そしてあの独特のポーズを僕は一生忘れないでしょう・・・。

初めのうち、なんだか近づきがたかいな—と思った頃もありましたけど、スプリングのところへ行って話しかけたら、ニコッと笑っていろいろ教えてくれました。4年目の中では紅一点の存在、その大変さでは有名な獣医学部と両立しての活動には、きっと想像以上の苦労があったと思います。そんな姉が、すてきな獣医さんになる日を、部の馬たち共々、心待ちにしています。

池田 直弥

「夢は見るもの、希望は叶えるもの」夢見るだけで終わってしまった。残念でならない。



僕は、競馬が大好きなので、この度JRAに就職することになりました。

僕の夢は札幌競馬場のえらい人になって、馬術部員のバイト代をあげてあげることです。なあんて言ってないで、万馬が来そうな時はこっそり教えてね。

酔っていても素面でも、にこ笑顔で意地悪を仰言る。そう指摘すると“だって意地悪だもん。” “・・・・・・”でも、コンパの席ではよく愚痴を聞いて下さる兄に、“兄のような人を先輩にもって幸せ”と思います。

祝前 伸光

僕は動物の中で猫が一番好きです(馬より)。そこで猫のはなしをします。チロは岡山にある両親の実家で飼っていた猫で、白くて太った猫でした。子供を産んで、車にひかれて死にました。ランラン(僕はこの名前が嫌いで、いろいろな別の名前前で呼んでいました)は、昔住んでいた室蘭で、晩ごはん

のおかずを盗んで以来、どういうわけか居つきました。ブラウンポイントのシャム猫で、ルックス抜群、気品のある猫でした。どこだかのチビとは大違いです(失礼)。でも僕はよくいちめていたので、僕のことは嫌いだったようです。晩年は下半身不随になりながらも結構長生きし、この前老衰で死にました。避妊手術をしていたので残念ながら子孫はいません。ミャアは僕が1年生の時、まだのらの子供だった彼女と目が合ってしまい、拾いました。前のミャアが車にひかれて死んだばかりで、ちょうどいいので部屋にもっていきました。すぐに慣れて部屋に住みつきました。翌春、部屋で子供を産みました。その中の一匹がデビです。その後ミャアは死んだんだとかどうだかわずれました。いまでもミャアを自転車のかごに入れて部屋に行ったことを思い出します。にゃっ太は三毛の雌猫で最初とても太っていると思ったのですが、どうやら妊娠していたようで、最近とつぜんやせてしまいました。いま毎日僕のうちに牛乳を飲みにくるのです。産んだ子供は死んだのか、連れてきたことはありません。とても用心深く、なかなか近づきません。

●

●

●

祝前兄は、北駿号とのコンビで全日学出場を果たしました。最も頼りになる兄であります。最近酒の席での奇行もめだたなくなり、少々寂しい気もしますがそれも学部生となった兄の貫録でしょう。たまには兄にもノーマルな他己紹介をおくっておくことにしておきます。

最初の印象と実際とのギャップがここまで大きい人は今までいなかったように思います。見た目がまじめなエリート商社マンのようなのに、ふだんはおちゃらけてて、冗談ばかりいっていて、それでもやっぱり練習のときはすごく真面目で、性格をTPOで使い分けているようです。

そんな祝前兄は、尊敬に値する人物だと思います。

奥村 浩美

同じ「ウ」からはじまる動物でも、今私は、ウナギの世話でてんてこまいよ。

ㄣ

ㄣ

ㄣ

楽しいことは良いことだ。特に彼女にとって。笑っている時が一番良い。

怒ると怖い。キラッとメガネの奥で何かが光る。やばい！あわてて僕は彼女の顔色を下斜め45度の角度から伺う。ホッ。何でもなかったようだ。やっぱり彼女は笑っているときが一番良い、と僕は思う。

“馬術部ってパワーあるよなぁ” こんな声が北水で聞かれる時、その陰には姉の姿があるのです。姉の活躍は昼夜を問わずコンパの花であることはここに言うまでもありません…

徳本 龍志

後悔をしない。これが出発である。生き甲斐を持って、と言う助言を聞きながら駆ける。成功か、それとも失敗か、そんなのは後で教えてくれ。

中学校のとき、国語で5の成績を貰ったこの私が、なぜ4年間も漢字に関してさげすまれなければならなかったのだろう。みんな間違っている。私が漢字を知らないのではなくて、漢字が私を知らないだけなのだ。しょうがないのだよ、諸君。

頼りない、頼りないと言われ続けてきた徳本君。今では見違えるほど立派な北水の主将だね。

『とくもとりょうじー1970年広島生まれ。北海道大学水産学部を経て出版界で活躍中。主な著作“馬の乗せ方”など』

こんな著者紹介が掲載されるのも多分近い将来のこと。詳しくは兄の著作を待ちましょう。くれぐれも立ち読みは御遠慮下さいますように。

永田 修

『会えば、分かる。』

親子はども歳の違う私達を引っ張ってよくぞ最後までやってくれました。最近顔を見せてくれるのは夜ばかりで、朝はちっとも姿を見せません。彼からのいじめを日課とされていたY子も、「最近ミーティングでの精神的いじめが辛い。朝の肉体的いじめがなく寂しい」（関係者談）ともらしているとのこと。たまにはきばらしにいじめてあげれば？

永田兄はあのヒゲのせいか貫録たっぷり。外見だけでなく中身もさすがに貫録あります。でもたまに放馬状態に陥ります。そんなときは、もう誰にも止められません。

横幕 宏幸



言葉では語れない・・・

この背中がすべてを語る

『時代は、横幕だ！』

横幕さん、私は、よこまくさんが、スキ、です。

彼との出会い—それは四年前のまだ春浅い日の出来事だった。

僕がまだ教養生で、右も左も上も下も分からなかった初な頃、僕が所属していた35組に一人の青年がいた。彼は、まだみんながクラスに馴染んでいないにもかかわらず一人でクラスの中を駆け回っていた。それもいつも女の子の所を行ったり来たりしていた様に記憶している。そんな彼の姿をいつも横目で見ていた僕は「なんて、いちびった奴なんや」と思っていた。そうしているうちに数日経ちよいよ僕も馬術部の門を叩いた。すると、「開けてビックリ玉手箱」なんと、僕がいつもクラスで「なんや、あいつ」と思っていた彼がいたのであった。

馬術部で共にやってくるうちに僕の気持ちも変わったというか、そんな事はどうでもよくなり、その後、僕たち二人にもう一人のクラスメイトであったI君、そして途中で退部してしまったが、伝説の狂人ムーことM藤君の四人は、**四天王**としてドンパからの信仰を頂くようになった。

四人とも飲むとそれぞれの個性を発揮したが、若かりしころの彼の特徴は何と言ってもその撃沈の早さにあった様に思う。乾杯して五分と経たない内に、というのはけっこうあり、乾杯！！と言った直後にリヴァースなんてこともあったっけ。それでも彼は、飲むということに関して妥協を許さぬ若者であった。それだから先輩達にも、マク、まく、と可愛がられたのだろう。彼の雄姿を目の前で目の当たりにした後輩も少なからずいると思うが、君達に彼と同じ様にやれというのは、新馬を調教するよりも難しいことなので、せめて彼と一緒に飲む機会があった時は彼が心地よく飲めるように演出してあげて下さい。彼も上級生になって飲んだ時に、語りで下級生を泣かす様になったが彼は決してそんな他人を泣かして喜んでいる訳ではないのでそのへんの所は理解してあげて下さい。「横幕さんカラオケ行きましょう」の一言は忘れずに・・・

彼女との出会いーそれは突然やってきた

彼の女性関係についての経過を知るためには教養食堂で、毎日の様に行われていた通称、影のmeetingについて語らねばならないだろう。このmeetingではおもに二つの議題についての白熱した議論が行われた。二年以上に渡って、たった二つしか話がなかったのかと言う事なかれ、何を隠そうI田君とF越さんがゴールインできたのもここで各界の博識者？による有り難いお言葉があった為である事はこの御両人の証言からも明らかである。彼もここで約二年ほど修行したがなかなかその成果は出ず、後輩にも先を越されることもあった。そのうち彼の話はだんだんと段々と影を潜め、専ら話の中心はI君とFさんの事になっていった。そうして三年目の春がやって来、新たな部員達が期待に胸躍らせて入部してきた。そう彼の様子が変わったのはその年ももう暮れようとしていた頃だったのだろうか、あれは一個のZIPPから始まり彼の二年間に渡る修行が実を結ぶ時がきたのである。あのとき以来彼は、生まれ変わった。そうだよな。

彼との別れーそれは・・・

彼との思い出はいくつか有るが、印象深いのは二つある。一つは、一年目の時の事だった。あれは四月だったろう、その時僕たち一年目はよく意味もなく部室に行って飲んでた。その日はお客様がいらっしゃっていて、一人は北玲号に乗り一時代を築き上げたKさんと、もうひとかたは、OBであり日本獣医界の第一人者でもあられるMさんであった。Mさんは僕と横幕を並べそして僕に向かってこう言った『こいつ（横幕）は今から馬に乗ってもなんとかなるけどおまえはやっても無駄やからはよやめたほうがええ』とこんな事を延々と言われ俺は、こいつマジにこいつ

糸対まけへんでと固く心に誓った。しかし、あの時のMさんにあんなけ関西弁でボロクソゆわれた僕の立場がなかった事はゆうまでもない。もう一つは三年目の冬の朝から飲みました事件である。その日はいつもの様にボストンベイクで朝食をとっていた。何の弾みか朝から飲むかということになり横の藤美荘に赴いた。そうしているうちに夕当の時間となり僕ら（I君も当然含まれていた）は部屋に向かった。と、ここまではよかったが結構酔っており案の定お叱りを受けた。その時の様子は省略するが僕にとってこの時の彼の様子は今でもはっきりではないが印象深いものであった。こんな風に数年間過ごしてもそれぞれの道へ旅立つと思いきやどうやらもう一年近所で暮らす事になり彼との別れはもちこされた。彼とだけでなく四天王と呼ばれた四人ともが残ってしまったのはたたりなのかもしれない。

彼の未来—それは 赤い軍団 神戸製鋼だ！！

横幕よ安心して神戸へ行くがよい 心配せんでも神戸のことに関しては神戸の生き字引みたいな人しとるから面倒見てもらえる様たのんどくから 綺麗なおねいちゃんもおるし ヤクザ屋さんもおるし 東南アジアの人ようけおるし セーラー服着てうろうろしとおっさんもおるし 海あるし 山あるし 新幹線も走っとるし たこ焼きもお好み焼きもうまいし 神戸はええとこやから神戸で会える日を楽しみにしとるからな

☆ 3 年 目

荒瀬 匡宗（会計、理学部数学科）

私は誰かって？

説明してもわかりませんよ。

ぜひ一度、お会いしましょう。

噫

噫

噫

今日はARASEくんの誕生日。みんながお祝いを言います。ARASEくんは律義にお礼を言います。

うしさん「おめでとうARASEくん」「ありがとう」「これからも頑張っていこうね」 ひつじさん「おめでとう」「ありがとう」「ケーキ作ったんだけどちょっとしっぱいしちゃった」

やぎさん「おめでとうございまーす」「ありがとう」「のんでくださーい」

うまさん「カンパ－イ！！」「かんぱーい」「カンパ－イ！！」「かんぱーい」「カンパ－イ！！！」

ろばさん「おめでとう」「ありがとう」「年とったね」

えとわーるさん「ブブブ」「ありがとう」「ボボボ・・・」

それからみんなはウイスキーをさんざん空けてつぶれていきました。

そんなみんなをお姫様が微笑みながらちょっと困った顔で見ているのです。

兄は気がつくといつも部屋で寝ています。兄はいつも気持ち良さそうに眠っています。日高合宿

では、走路の砂の上で、大口を明けて寝ている兄の姿が印象的でした。そんな兄を無情にも起こさなければならぬ朝当のときが一番つらいのですが、兄は「朝ですよー」の声と共に決して起きません。しかし、ふと気が付くと、いつのまにかフルパワーで馬房を上げている兄の姿がそこにあるのです。その姿を見ると、私もボロとりの手に力が入るのです。

今年はとうとう最後の年ですね。兄の活躍に期待しています。

岡 部 立 青 子（副将、農学部畜産学科）

拝啓

O Bの皆様、お元気でいらっしゃいますか。甘えてばかりで曳き馬に行っては馬にひきずられて泣いて帰ってきていた岡部もなんと3年目になりました。恐ろしい。こんなことでいいのでしょうか？競技会の日には毎回成績が悪く飲まされていましたが、来シーズンは毎回祝い酒を飲みたいと思っております。来シーズンまでには必ず成長した岡部をお届け致します。

敬具

~~~~~

この春もまたイメチェンを図ろうと試みましたが、最初のコンパで早くも醜態をさらしてしまいました。そんな姉ですが、馬に乗れば北日中の女子部員のあこがれの的ですよ。最近は上級生になって悩むことも多いせいか、暗い顔をしていることがありますが、昔のようにいつもにこにこしていてもらいたいです。

一緒にいると楽しくなる姉です。

倉 本 暢 子（水産学部）

していることは、みんな自分で決めた事だと思ったら毎日がとても楽しくなりました。“running free”これは海の上で“順風満帆”という意味になります。水産に来て私が覚えた大好きな言葉です。

~~~~~

思慮深いのは、私など足元にも及ばない。よくは知らないが、あの細腕で一家を支えているらしい。一步一步確実に道を進んで行く彼女に対し、方向音痴の私は尊敬の念を覚えるくらいだ。しかし自信のなさ過ぎるところがたまに傷である。

時には周りがすったまげる位のハッタリをかます事も大切なんだよ、倉本。

北水のアイドル、ですね♡。

佐土谷 昌 良（北水主将、水産学部）

海はいいよ。

幼稚で自分勝手だけど、いいやつなんです。
気が弱くてたよりないけど、いいやつなんです。

ほら、みんなあいつのまわりに集まっている。

もっとみんな力をかしてあげようよ。

しばらく会っていないうちにいつのまにか函館で馬に乗っているそうですね。そちらの生活にはもう慣れましたか？いつもにこにこしている兄がクラウンと一緒に駆け回っている姿が目につきます。

それにしても、兄はほんとに海の男になっちゃうんですか？兄が海の荒波にもまれている姿なんて、私には想像できません・・・。

船越 美和子（主務、文学部史学科）

あんなに哀しみの深い人に会ったのははじめてでした。そこまで傷つかななくてもいいのと思うほどでした。そんなに深い哀しみから再び立ち上がることが純粋にすごいと思いました。すごい意志力だなと。

深く傷つく人はそれだけ強い人なのだと思います。

昔、本を読んでこんな文章を書く人はよほど深く傷ついたことがあるのだろうと思って、でもそんなにも傷つくことが本当に世の中にあるのだろうかと思惑でした。

世界は嬉しいことばかりじゃないけどつらいことばかりでもない。

私ももっと強い人間になる。

この人のとりえは、なんといっても元気なところでしょう。

最近（10月）前歯が変わって笑顔がかわいいです。

おかしい話だが、入部当初、私は、実は、困った事態に直面していた。船越姉と、1姉、0姉との判別がつかなかったのだ。とくに後ろ姿は困難を極めていた。

今ですか？そりゃーもう完璧ですけど（当然だろーが）

三浦 智子（馬匹、農学部林産学科）

「自分は何をしてきたんだろう？」と思うときもある。

でも今さら後ろを振り向いても何もない。前だけ見ていこう。立ち止まっている場合じゃない。わたしの前にはっきりと道は見えているのだから。

● ● ●
一見人あたりが良くフワフワしているようなのに、実は人一倍考えの深い牛乳が大好きな三浦姉です。（でも本当にぼーっとしている場合もある。）たまに失踪したりもしますが、その分成長して帰ってきます。限りない可能性を秘めた逸材だと、心から期待してます。いっちょやってくれよ。

三浦さんはあきたこまちみたい。

どうして練習中に、片方の足をすこし前に出して、ちょっと角度なんかつけちゃったりして、立っているのかしら。

どうしてなのかしら。

八木 聡（主将、法学部）

皆様にご迷惑をかけている今日この頃、皆様におかれましてはどのようにお過ごしですか。

皆に反感を買いつつ、これからもgoing my wayをつらぬき通してやるぞ。

☆ ☆ ☆

ハチキくんことこの八木君は、内に何かを秘めているような顔をしているかと思えば、1人でからまわりしてたりもする頼もしい存在です。でも、マージャンをしてミーティングに遅れるのはやめてね。おねがい。

とにかく頼りになる。いつも楽しく、やさしく、そしてここぞという時には厳しく、みんなをどんりードしてくれる。

なんでも話せるような雰囲気も、八木兄の魅力だと思います。

これからも私達をひっぱって行って下さいね。馬も、お酒も・・・。

☆ 2 年 目

黒崎 雅人（副務、教養部理Ⅱ系）

完璧になれない完璧主義者。

そろそろ、くもった玉を磨かなければ。

● ● ●

こいつは、何事にも、マイペースで、なかなか本心を見せないが、物事を客観的に考えることができ、世渡り上手である。2年目にしては、珍しい存在であり、良き上級生とのパイプ役をしているように思う。でも、2年目の意見をまとめ、頼りになる。勝手に突っ走る2年目のフォロー役としても、大活躍である。

これが黒崎さんの素顔の一部です。

♪「誰も知らない素顔の黒崎さん」（井上陽水「リバーサイドホテル」より）
この歌詞は見事に真をついていると言えよう。ふだんはクールでまじめな姿が目には焼き付いているのだが、夜になると、突然わけのわからない発言をしたりする。それが口だけでなく行動に出るのがコンパのときである。通称“抱きつき魔”。しかしその姿を見た1年目はいない。だから誰も知らない・・・なのだ。しかし、以前たばこは全然吸わなかった兄が最近極端に吸うようになった。兄に何がおこったのだろう。兄の仮面にピリッとひびが入り始めた今日この頃。

西村 雅夫（飼料、教養部理Ⅲ系）

ドカンと元気よくやってみようよ
死にものぐるいの明るさで
ドカンと元気よくやってみようよ
カラ元気をフル回転して
ずっとやな事が頭をかすめて
憂鬱な気持ちが広がってゆく
そんな空気をグッとこらえて
ドカンと元気よくやってみようよ
当たってください 死んでもともと
今年1年 これをテーマソングにしてゆきます。



一見頼りなさそうですが、実はかなりのしっかり者です。“ちょっとぬけてるかな？”ってところは忍耐と努力でカバーします。当番代行なら彼におまかせですよ。

ズバリ、クラブ内のパパ的存在！いつもにこにこして、将来いいお父さんになりそうな気がする。1年目の男が、この先輩の泊まりがいいというのは良く分かる。ライトセカンドの髪形をひどく気に入るのも、この兄の馬への愛の深さゆえだろう。

深部 ちさ（記録・薬品、経済学部経営学科）

落ち込んでしまったらちょっと違うことをやってみます。
いろいろ試すうちにふっきれるし、わりきれます。こうして毎日を送っている私です。
気まぐれな女、気分屋、いやなことがあったらストレートに顔にだし、そこら中に当たり散らす。
な～んていうと変な奴みたいだけどもしかしたら本当に変な奴かもしれない。

姉と一緒に当番に当たるとたいへんだ。重労働を一举に受けおわされてしまうのである。僕は当番のとき姉の目にとまらないう行動している。また、姉は時々お化粧をするが、そのとき部内で3本の指に入るくらい美人に変身する・・・と思うのは僕だけでしょうか？

松原 貴史（作業、工学部応用化学科）

・・・・・・あ、馬だ！・・・・・・

と思って、立ち寄った馬術部に入部して、はや、2年がたとうとしている。

悩むのだ！どうして、こんなに人との付き合いが難しいのだろう。馬に乗ることは大好きなのに。でも、こんな悩みを打ち明け、一緒に考えてくれる仲間がいる。こいつらとは、1年の時から、グチばかりではあったが、互いに助け、助けられ、その繰り返しだ。オレは、この絆を大切にしたい。絶対に、こいつらを見捨てるわけにはいかない。

この馬術部の生活は、半端にならない程、つらい。いつも、自分に問いかけている。なぜ、こんなつらいことをしているのかと。オレは、この仲間とともに、馬を愛し、試合に出て、そして、勝ち、最後に、馬事公苑に行きたい。それが、答えであることが、ようやく分かってきた。

・・・・・・一緒に、がんばろうぜ、力を合わせて・・・・・・

馬 馬 馬

この2年間、「人の話を聞かない」「軟弱」「調子こき」「インチキくさい」？・・・等々、上級生ばかりかドンパにまで、まともな評価をされなかった彼ですが、下級生からの評判もよろしいようで、また、O姉との師弟関係など端目で見てもわけわからん、いや美しいものがあります。かつてスプリングに向けられていた愛情は、今やレジェンドに対する溺愛に代わったようです。

いつの間にやら数少なくなった2年目だけど、君の存在は大きい。ま、そんなにブーたれんとかんばりまひょ。

「レジェ、レジェ。」兄は私よりもレジェ君を愛しています。朝も夕も「レジェ、レジェ。」。でも兄は人間にもとっても優しいです。頑張り屋の兄は作業に転職し、今日も馬房づくりに励んでいます。

☆ 1 年 目

大原 里麻子（レシート・馬具備品、教養部文Ⅱ系）

未だに馬に話しかけるのは恥ずかしくて抵抗があります。でも作業着に長靴はいてボストンベイクに入るのは余裕です。

馬 馬 馬

なんで、なぐられなあかんねん。なんで物、投げつけられなあかんねん。なんでおまえ、人に、「終わってる、おまえ終わってる」て言うねん。終わっとんはお前やろ。

もう僕OBやねんから、かんべんしてネ！！

大原といえばやはり北日でしょう。以前から、酪農のFさんのファンであった彼女は、指令隊長のI兄に、「Fをつぶせ」との命令を受け、「これは役得♥」とばかりに勇んでFさんにおそいか

かりました。すでにべろべろに酔っぱらっていた彼女は、Fさんに食いついて決して離れようとはしませんでした。まるでスッポンを見ているようでした。そして2カ月後、山下杯のレセプションでは、Fさんの復讐を受けていた彼女でしたが、あのくらいでFさんの恨みは晴れないだろーな、きつと。

鍋 木 照 夫 (衛生 教養部理Ⅲ系)

オレが鍋木だ。

オレにさからうやつは、オレの三角げりをおみまいするぜ。

ヨ ロ シ ク 。

☹

☹

☹

北大体育会には少ないおぼっちゃんタイプの彼は、いまだに馬術部に染まりきっていないように見えます。よく働きよく文句を言い上手に遊べるジェントルマンってところでしょうか。

中学時代は学校一の大モテ男だった彼と某兄と今夏、3人で海にナンパに行った。そして、一発でツモって、女とカラオケに行った。そこまでは調子よかったのだが、彼は自分達が北大馬術部であると正体をばらし、女は敬語を使っていた。また般教の実習では、同伴の先生の奥さんを学生だと思って声をかけていた。最近ではススキノの怪しいクラブでバイトをしている、馬術部一のナンパ男です。

河 合 由 枝 (副務、教養部理Ⅱ系)

元気一杯、精一杯、をモットーに頑張ります。

☹

☹

☹

馬に対する情熱と実行力は、まあ同輩の中ではNO. 1でしょう。

同輩を指図する姿はなんとも頼もしいものがあります。

河合は元気でまじめで超頑張り屋です。しかし一度波がくるとさあ大変。お酒が飲みたくなるらしいのです。悲しいときは食べるのが一番。ギョウザもいいしそばもいい。これからガンガン気合いを入れるヨ!!!。

後 藤 陽 子 (記録、教養部理Ⅲ系)

“かーちゃん”などという不本意(?)な呼ばれ方にも慣れてきてしまった今日この頃、馬たちにとってもそんな存在になれたらいいな、と思うものの、道のりは長く険しいようです。

☹

☹

☹

後藤妹は頭脳明晰な部員のようなようです。近年教養部における部員の移行点は低迷していますが、妹はがんばっているようです。獣医学部に行けるのでしょうか。しかし、移行点だけで頭脳明晰とい

うのも変ですね。「ごーちゃん」などというすこし間の抜けたようなあだ名で呼ばれているようですが、部活のなかで、持てる力を十分発揮できるようがんばってください。

小柄だけれど、明るくかわいい頑張り屋、料理が得意で趣味はフルーツときた日には、少女マンガのヒロインそのもの！・・・しかし彼女は「ごうちゃん」なのです。モモセバイトの帰りのバスで寝過ごして、日の丸団地に舞い戻り、ヒッチハイクで帰ってきた、とかいうエピソードは「ごうちゃん」のほんの氷山の一角にすぎません。

また、おいしいもの食べさせてよね、ごうちゃん♥

米家 直子（衛生、教養部文Ⅱ系）

自分のことがわかっているような性格ではないので、くわしいことは書けないけれど小さくて困ることが、ある。それから、インドに行かなきゃと思っている。

ひみつとしては、時々マンボウになるけどいいと思っている。おわり。

④

④

④

米家は、米家です。

「米家」という名前は どうして ついたのか、僕も知りません。

米家も知りません。

なぜならば、遠い昔の人がつけた名前だからです。

しかし、もしかすると、米でできた家に住んでいたからかも知れません。

「1億個卵を産むのにそのうち5匹しか生き残らない」という魚マンボウによく似た顔をする米ちゃんはかなり笑わせてくれますが根はまじめすぎるほどまじめです。でも真夜中、車も通っていないのに律義に赤信号をじーっと守ってる姿にはまじめで笑えました。

杉野 正之（作業、教養部理Ⅱ系）

うまくなるぞー。

おわり。

⑩

⑩

⑩

彼は〇〇〇である。カラオケで◆◆◆な画面が出るとテレビにはりつき、酒が入ると女の子の名前を叫びまくる。（分からない人は北日の時のビデオ参照の事。）まあ、地球上の男全員が〇〇〇でなかったら人類は滅亡する、とも言うし、それはそれでいいんじゃないでしょうか。

それだけではなく、人一倍責任感も持っている彼です。これからに期待しているよ！

彼がはるばる北大にきたのは、馬術部に入る運命のためだったと、僕は確信する。彼のボロ山に立っている姿、馬術部ジャンパーの着こなし様、せかせかと一輪車を引いている姿などは、あまりにはまりすぎていて、敬服してしまう。また、彼について話すときには、北日の酒の席での事件を

なくしては、終われない。ここでは、あまりに過激すぎて書くことはできないが、“北日の杉野ビデオ”は永久保存となっている。

竹田 智子（部報、教養部水産系）

「いつも、同じ時刻にやってくるほうがいいんだ。あんたが午後4時にやってくるとすると、おれは、3時には、もう、うれしくなりだすというものだ。そして時刻がたつにつれて、おれはうれしくなるだろう。4時には、もう、おちおちしていられなくなって、おれは、幸福のありがたさを身にしみて思う。だけど、もし、あんたがいつでもかまわずやってくると、いつ、あんたを待つ気持ちになっていいのか、てんでわかりっこないからなあ・・・きまりがいるんだよ」

もっと、曳き馬に行く時間がほしいなあ・・・。

🍷 🍷 🍷

まじめで、おとなしくて、頭がよくて、よく気が付いて、そんなおんなの子がクラブにいてくれて、僕たちはなんて幸せなんでしょう。（注 部報の方へ この文章は勝手に誰かの他己紹介に入れて下さい。別に誰でもかまいません。）

なにか失敗したりして、おちこんでるなあ、と思ってても、すぐに「よし、がんばるぞっ」ってたちなおれる、その強さが彼女の魅力じゃないですか。竹田はいつも明るくて、笑顔で、がんばってるよね。

田中 伴明（馬具備品、教養部水産系）

田中君はすごくまじめで優しい人です。練習も1度も休んだことはなく、先輩にも信頼されています。運動神経はバツグンで、勉強もすごく優秀で移行点は限りなく2.0に近いです。高校時代はモテモテで、女キラー田中と呼ばれていました。現在は馬にモテモテです。お酒をいくら飲んでも理性と常識はそのまま温厚な性格は変わりません。部内では一番よく仕事をし、バイトも率先していています。

こんな田中君の唯一の欠点は、大ウソツキであるということです。

🍷 🍷 🍷

退部と坊主頭、どっちをえらぶ？ときかれたら、思わず退部と答えてしまう・・・そんな人のような気がします。一般人の心を捨てず、「愛」について深く考える彼も、実は馬術部にはまりつつあるのでは？

“朝までフェスティバルにしましょ〜う”

彼の得意台詞が夜の部屋に響く。その後の彼の行動は、推して知るべし。自ら飲みまくり、先輩にも飲んでいただく。こんなとき彼は、

“はなさんかい オラッ！”

といった日頃滅多に口にしない関西弁をはく。そして、いいかげん酔っ払った周りの者が気付くと

彼は誰よりも早く眠りにについているのだ。すべての記憶を失いつつ・・・

そんな彼も実はいろいろやっていて、いろいろ考えている。筆者はなかなかの奴だと思う。

鶴 見 直 大（文化、教養部理Ⅰ系）

関西人だからと言って面白いということはありません。

ごく普通の、流れに身をまかせる人間です。

kg kg kg

メガネの奥のやさしそうな瞳。

細くて長い脚。

そう、彼のことを胸に秘めて馬術部の試練に耐えている男子部員は少なくないのです。別に妬んでいるわけじゃないけど・・・もうちょっと太ってよ。

あたりさわりのない性格です。

保 坂 晴 美（コンパ・教養部理Ⅱ系）

そんな、人に紹介するようなたいしたものでもないのに、あしからず。

♀ ♀ ♀

セミの話をします。たぶんウンカの仲間かなんかだと思うのですが、そんな昆虫を捕まえて、彼女は「これはセミだ」といいはるのです。否定すると、顔の管がどうか言ってゆずりません。挙げ句の果てに「この顔はどう見てもセミだ」などと訳のわからないことをいいたしたので思わずむかついて顔面パンチしてしまいました。すると大声をあげて泣き出したのでやむをえず首を絞めて殺し、山に埋めました。あれ？なんか変な文章になっちゃったな。

I t's n a t u r a r u. これで終わりにしたいが、1ページ綴りたくもなる。そんな彼女は、皆に「ほしゃか」と呼ばれている。彼女とは、冗談を交えて話すより、まじめに話した方がおもしろいのである。

溝 井 敦 史（飼料、教養部理Ⅱ系）

何も言う事はありません。

☹ ☹ ☹

「みぞty～ みぞty～！！どこにいるんだよォ～？」

彼に会いたければボロ山に行きましょう。「おっといたいた」「こんなんじゃまだまだ甘い」彼のつぶやきが聞こえてきます。ボロ山隊長として美しいボロ山づくりに命をかけている彼はボーッとしているように見えて実はオッと思わせるようなすどい発言をしてはみんなをビビらせています。（もしかすると1年目をひっぱって行くのは彼かもしれない・・・。）「がんばれみぞty！」

この男、とにかくよく食べる。そして“遠慮”と言う文字がない。思いついたら、辺りかまわず突っ走る。

オレは、この男の背中に、“真の男”を見た！

けど、前髪は、かわいい女の子みたい・・・・・・・・

森沢 美佳（部報、教養部理Ⅲ系）

嫌い、というわけじゃなくてむしろ好きなんだけど、美術館や展覧会に行ってもいまだに『芸術』というものがピンとこない。でも、紅葉した木々や、雲のかかった連なる山々、そして、駆けていく馬達を見る時、“神様の芸術だな”と思う。

□

□

□

埼玉の山奥から北海道の僻地にやってきて、よーかいにおそわれたかわいそうな女の子 さて、よーかいとは？

しっかりとしているようで、実はおっとりとしていて、そんな森ちゃんが私は好きです。簡単ながら、これで森ちゃんの紹介を終わります。

谷地 絳（薬品、教養部理Ⅱ系）

性格がエンゼルだとよく言われます。

表情がシケレペだとよく言われます。

♪

♪

♪

馬歴が長く、つわものである。また、自分の考えをしっかりとっているように見え、しっかり者のように思う。

馬術への上達心が旺盛で、やる気が非常に感じられる。1年目を引っぱっていく存在になり、また、君の今後の活躍を、大いに期待したい。

“馬術部にハマらないようにしてた”（本人談）努力も虚しく、今では立派な馬術部員。早朝、キュロットに北大ジャージ、そのうえにセーターといういでたちで颯爽と自転車を漕ぐ彼女の後ろ姿を見つめつつ、“かくあるべき”とつぶやかずにはられません。



馬という。

NORTHERN HORSE PARK

ノーザンホースパーク

Riding in Hokkaido

社台ファームは競走馬の世界において、日本一を誇っています。馬ひとすじに、懸命の努力を積みかさねてきたおかげだと思えます。けれども、馬ひとすじというならば、馬術とも取り組まねばならぬと考えました。馬術を中心とした公園がノーザンホースパークです。いちど馬に乗ってみませんか。馬車に乗って夢を見てみませんか。

伝統を支えに

シャダイターキン、アンバーシャイ、ダイナカリバー……。輝かしい名馬たちを生み出した「社台ファーム」。その伝統と実績を受け継いだ「ノーザンホースパーク」は、我が国唯一の「人と馬の自然公園」です。

パーフェクトな乗馬施設

●初心者から上級者まで本格的な乗馬練習ができるライディングエリア。●インストラクターの指導で気軽にレジャーライディングが楽しめるビギナーショートコース。●初心者と馬の調教のためのロンジングエリア。●夜間照明も完備され、雨や雪の心配がいらぬインドア乗馬場。●白樺やカラ松の林を抜ける2kmの外周乗馬コース。●ドレナージュエリア。●80頭収容可能な厩舎。

クラブハウスで「デリッシャス」

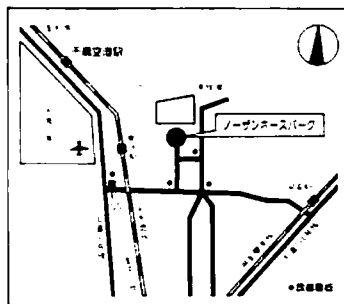
●8年連続リーディングサイアーに輝く「社台ファーム」の名馬にちなんで名付けられたレストラン「ノーザンテースト」。新鮮な食材を目の前で調理するオープンキッチンが自慢。●澄みきった空気と緑がいっぱい、ドリンクメニューを豊富に揃えた屋外テラス。●ロビー、スーベニアショップ、サウナ、シャワールーム、ブライベートルームも完備。

自分が感動するために

●全天候型テニスコートが5面、どなたでも気軽にプレイできるミニテニス用のコートが2面、計7面を完備。●公園内を自由に走ることができるレンタル自転車も用意。●お好みの乗馬をお好きなだけチャイプできる約300人収容可能なパーベキューハット。

ドラマの主人公のように

●公園内を一周する馬車コース(2人乗り、10人乗り、2階建て20人乗り)。●夏には鮮やかな色彩のブッシュローズガーデン。●世界中のハーブが育てられているハーブガーデン。●馬たちが水を飲む牧草池。●思いっきり森林浴が楽しめる緑の奥庭。



ノーザンホースパーク

〒059-13 北海道苫小牧市美沢114-7

開園時間

夏期間(4/29-10/31)9:00-21:00

冬期間(11/1-4/28)10:00-18:00

※夏期間は16:00以降の入場料金が無料となります。

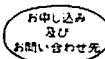
※冬期間は終日入場料金が無料となります。

※12/31-1/1は閉園いたしますので、ご了承ください。

■千歳空港から無料バス(中央バス)で約10分。

ノーザンホースパーク・ライディングクラブ事務局

〒059-13 北海道苫小牧市美沢114-7 ノーザンホースパーク内 TEL 0144 58 2116-8 FAX 0144 58 2377



(社)日本ベストコントロール協会 (社)日本しろあり対策協会 会員

建築物ねずみこん虫等防除業 北海道知事登録

株式会社

北海道防疫サービス



ネズミ・害虫など有害生物の防除、殺菌消毒・除草の施工・管理請負

本社 札幌営業所 札幌市北区新琴似6条11丁目9-20
TEL 001 (011) 761-2658

苫小牧営業所 苫小牧市日新町1丁目2-13
TEL 053 (0144) 73-3970

市内無料配達致します。

お気軽にお電話下さい。  はしもとフラワー

(地方配達も
受け承っております)

橋本秀弥

札幌市北区北21条西5丁目18番52号

TEL 709-7450番

コンパ予約受付中
ボリューム満点!
コンパ200人OK!



当店誕生日、御利用の方には
カラー写真・シャンペン・粗
品を差し上げます。

焼鳥 ■ 居酒屋

きよた

札幌市北区北17条西5丁目北向き

TEL 747-7000

PM5:00~AM1:00



馬と話がしたいなあ。



あなたと話したい競馬があります。

札幌競馬場

○学生、生徒または未成年者は、競馬投票券を購入できません。

早田牧場乗馬倶楽部

〒059-24 新冠郡新冠町字万世114

TEL 01464(9)5059

FAX 01464(9)5434

医薬品、動物用医薬品、資生堂化粧品

保善堂薬品

004 札幌市豊平区里塚4番57

TEL 884-5881

FAX 884-5887

やまわショッピングセンター

今 鷺 田 商 店

美園3の4 ☎ 821-6248

北大病院前の旅館

あけぼの旅館

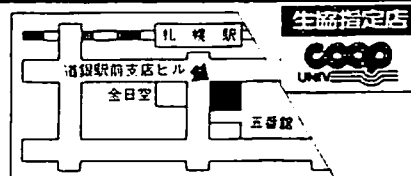
札幌市北区北13条西4丁目

TEL(代) (011) 747-1225

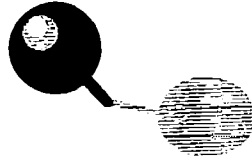
FAX(代) (011) 747-1225

◎ 札幌駅前コニタクト

- 受付時間 10:00A.M.~6:00P.M.
- 定休日 日曜・祝日
- 学生割引あります。健康保険証をご持参ください。



〒060 札幌市中央区北4条西3丁目 道銀駅前支店ビル7F ☎ (011) 222-2122



谷地浩税理士事務所

税理士 谷地 浩

事務所／札幌市中央区大通5丁目 昭和ビル7F

☎ 011-222-2341

F A X 011-222-2343

旭川乗馬倶楽部

☎070 旭川市花咲町5丁目

☎ 0166-51-1832

8_円 コピーサロン

書籍・原稿・預かりコピー致します。

北区北17条西5丁目 ☎716-6410

REST HOUSE

アニーズ

札幌市北区北19条西3丁目／☎ 011-717-9376

勝木クリーニング

北営業所

札幌市北区北20条西5丁目

☎ 011-716-2381

内外産エンバク販売

株式会社

大谷哲也商店

大谷哲也

札幌市中央区南一条西二十八丁目

電話 代表 (011)611-2531 番

あなたと御家族の健康をお守りする

わかば薬局

本店 地下鉄北18条駅前
札幌市北区北17条西3丁目 TEL716-4233
エルム店 札幌市北区北17条西4丁目 TEL737-7951
メディカル18 札幌市北区北18条西3丁目 TEL726-0533

車の免許

親切な指導

大学生協指定

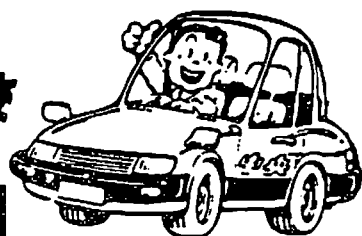
普通 大型特殊

北海道公安委員会指定 〈技能試験免除・初心運転者講習機関〉

北海道中央自動車学校

〒065 札幌市東区北25条東1丁目(創成川沿い)

TEL.(011)711-3344



ソフタレミュージックスペース

カラオケ・デポ

北23
西5

電話予約を承ります。

☎(011) 726-4433

■営業時間/AM11:00~AM3:00(年中無休)

7時間歌い放題

AM11:00~PM6:00(月~金)

2,500円

■料金表(通常料金) 全室1時間単位で消費税込

タイプ	昼間 AM11:00~PM6:00	夜間 AM6:00~AM3:00
オリジナルA	1,000円	2,000円
オリジナルB	2,000円	2,500円
クリスタル	2,500円	3,000円
ゴールド	3,000円	3,500円

有限会社 **菅原写真商会**

パスポート写真

カメラ・カラープリント

3分間写真

各種証明写真

北22条西4丁目 ☎716-2662



チキンをどうぞ

モ モ セ

札幌市豊平区真栄123番地

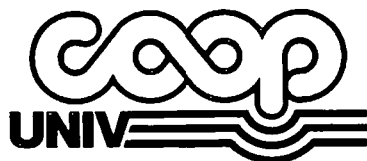
TEL 881-0470

(有)北洋給食センター

給食弁当、仕出し、お寿し、オードブル
多少にかかわらず注文うけたまわります。

東区北22条東1丁目304番地

TEL 722-5665



“ひとりは万人のために

万人はひとりのために”

をスローガンに学園に広く深く
根ざした生協運動を推進する

北海道大学生生活協同組合

理事長 中村睦男

札幌市北区北8条西7丁目

電話 011-746-6215

編集後記

ぶほう「部報」(1)部の活動状況を内外に報告する年刊誌

(2)その編集委員

(3)別な用事で声をかけたのに顔を見たたん先輩に逃げられるもの

皆様の御協力を頂いて今年も無事に部報を発行することができました。4月発行を目標にして来たのですが、2カ月以上も遅れてしまいました。原稿を寄せてくださった方々や発行を心待ちにくださった方々、それから広告主の方々には、編集責任者として深く反省し、御詫びを申し上げる次第です。

部報というものは、毎年似たような形式ですが、別に“これ”という形式があるわけではありません。いかに今年らしさを出すかというのが部報委員の難しさでもあり、おもしろさでもありました。“OBの方がもっと参加できる部報を”“題をつけよう”“欄外にも何か企画しよう”・・・etc. と、いろいろ案だけは出たのですが、それを実行に移す難しさということも学ぶことになりました。

最後になりましたが、表紙に素晴らしい絵を描いて下さった佐合さん、題字を決定して書いて下さいました斎藤部長をはじめ、忙しい時間の合間に原稿を書いて下さったすべての方々に心からお礼を申し上げます。

編集責任者 竹田・森沢

表紙 佐合 義弘

音印 幸民 第38号

平成5年6月発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

☎ (011)716-2111 内線5597

☎ (011)737-1626 (直通)

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

